

日本語教員養成課程（主専攻）45 単位以上

四国大学文学部「日本語教員養成課程」開発事業

事業報告書

団体名 : 学校法人 四国大学

実施期間 : 2019年9月13日～2020年3月19日

2020年5月28日～2021年3月19日

2021年5月31日～2022年3月18日

目次

はじめに	p4
------------	----

1. 事業の概要

1.1 事業の名称	p5
1.2 事業の実施期間	p5
1.3 事業の目的	p5
1.4 事業内容の概要	p5
1.5 事業の実施体制	p6
関連資料	

2. 日本語教員養成課程カリキュラム開発の検討

2.1 検討組織	p11
2.2 組織の構成員	p11
2.3 取組の概要	
2.3.1 2019（令和元）年度の取り組み	p12
2.3.2 2020（令和2）年度の取り組み	p13
2.3.3 2021（令和3）年度の取り組み	p13

3. 教育内容の検討

3.1 検討組織	p18
3.2 検討課題	p19
3.3 検討内容	
3.3.1 2019年度検討内容	p19
3.3.2 2020年度検討内容	p20
3.3.3 2021年度検討内容	p22
3.4 研修会の実施	p24
関連資料	

4. 教材開発

4.1 検討組織	p71
4.2 検討課題	p72
4.3 検討内容	
4.3.1 2019年度検討内容	p72
4.3.2 2020年度検討内容	p73
4.3.3 2021年度検討内容	p75

5. 養成課程の実施

5.1	2020（令和2）年度について	p79
5.2	2021（令和3）年度について	p81
	関連資料	

6. 事業全体の評価

6.1	評価委員会の設置	p98
6.2	事業評価の概要	p99
6.3	事業評価の実施（2020年度）	
6.3.1	自己点検評価（内容）	p99
6.3.2	2020年度評価委員会の開催	p100
6.3.3	評価結果	p102
6.4	事業評価の実施（2021年度）	
6.4.1	自己点検評価（内容）	p104
6.4.2	2021年度評価委員会の開催	p105
6.4.3	評価結果	p107
6.5	事業全体の成果と課題	p109
	関連資料	

添付資料一覧	p111
--------	------

付録

『日本語教員養成課程ガイドブック－四国大学から世界へ－』

はじめに

我が国では、国際化の進展や少子高齢化による生産年齢人口の補充対応として、今後数百万人規模の外国人労働者が必要とされています。政府は、「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」を策定し、特に日本語教育の充実策として「日本語教育の推進に関する法律」を2019年に施行しました。この法律では、国や自治体に外国人等とその家族に対する日本語学習機会の提供の支援に努めることを義務付けられています。そして、現在、日本語教育の質の向上と日本語教育の担い手、いわゆる「日本語教師」の資格についても検討が進められています。

こういった背景のもと、四国大学では2019年度から3年間にわたり、文化庁日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業を受託し、文学部において、日本語教育人材の育成を図る「四国大学文学部日本語教員養成プログラム」を開発し、2020年に「日本語教員養成課程」をスタートさせました。

本課程は、四国大学の建学の精神“全人的自立”のもと、日本語教育の専門家として、また、国際人として社会で活躍できる人材の育成を目指しています。カリキュラムは、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」（文化審議会国語分科会、2019）に基づき、日本語教育学の理論と日本語教育実践が修得できる内容となっています。

文学部には日本文学科、書道文化学科、国際文化学科の3学科がありますが、それぞれの学科の特色を生かした日本語教員養成にも注目しています。日本人と日本語の国際化に重要な役割を担う国際人としての日本語教員である事を基盤に、日本文学科では古典的日本語に加え日本の文学や文化に精通した日本語教員、書道文化学科では書道に関する深い専門知識と書道文化を社会に発信できる能力を備えた日本語教員、そして国際文化学科では英語力とともにアジアや欧米文化に関する深い専門知識と多文化コミュニケーション力を備えた日本語教員というように、各学科の特徴を兼ね備えた日本語教員へと成長されることが期待されています。

本プログラムは始まったばかりで、2023年の完成年度に向けてまだ多くの課題や改善が必要ですが、本事業終了後も地道な努力を続け、教育課程の充実に取り組んでいきたいと思っています。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2022年4月

四国大学全学共通教育センター准教授 元木 佳江

1. 事業の概要

1.1 事業の名称

四国大学文学部「日本語教員養成課程」開発事業

1.2 事業の実施期間

2019（令和元）年9月13日 ～ 2022（令和4）年3月18日（3か年）

1.3 事業の目的

本学の文学部において、令和2年（2020年）4月から、日本文学科、書道文化学科、国際文化学科のそれぞれの学科で専門科目を学びながら、「外国語としての日本語」を教えるために必要な専門知識や技術を修得できる「日本語教員養成課程」を新設するため、2018年度から準備を進めてきた。

本事業では、これから求められる日本語教育人材養成を行う上で重要となる教育内容を実効性のあるものとするため、カリキュラムの具体的な検討と検証を行うことを目的とする。

1.4 事業内容の概要

本事業の内容は、大きく以下の3項目にまとめられる。

- 1) 教育課程の検討：カリキュラム、教育内容、評価方法の検討
- 2) 教材の検討・開発：日本語教員養成課程科目の教材選択と教材開発
- 3) 養成・研修の実施

本課程については、2018（平成30）年度から検討を始めており、事業受託時点ではカリキュラム（教育課程）のアウトラインは概ね完成していた。開設の前年に文化庁事業を受託したことで、学内組織を編成し、学外の有識者から助言をいただきながら日本語教員養成課程プログラムの開設とカリキュラム開発に取り組むことができた。

初年度は、まず、委員会を設置し、日本語教員養成課程カリキュラム開発の体制を整えて事業をスタートした。委員会を中心に、カリキュラムの検討、教育内容の検討、教材の検討、養成の実施、広報、学内研修などを行い、四国大

学の日本語教員養成課程の充実に向けて検討を重ねていった。

2019（令和元）年度は、教育実習を含む「必須の50項目」に対応したカリキュラムを完成させた。課程の目標は、「理論はもとより多様なニーズに対応できる実践力を兼ね備えた日本語教員」の養成を、また言語や文化が違って相手と同じ目線に立ってコミュニケーションすることを大切に、「目の前の学習者ひとりひとりに寄り添うことができる日本語教員の養成を目指すもの」としている。課程の修了者には、大学から「日本語教員養成課程修了証」を授与することとした。

「日本語教員養成課程」がスタートした2020（令和2）年度は、開講された科目についての評価を行い、改善点を検討するとともに、次年度以降に開講が予定されている科目の教育内容と、教材の選択および開発教材の検討を継続して行った。2021（令和3）年度は、実施した科目についての評価改善と、2022（令和4）年度以降に開講される「言語と教育」区分を中心とした科目について教育内容のさらなる検討を進めるとともに、開発教材の完成を目指した。

実施期間	令和元年度				令和2年度				令和3年度			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
(a)教育課程の検討												
(b)教材の検討・開発												
(c)養成・研修の実施												
(d)その他関連する取組												
(e)事業全体の成果の評価												

1.5 事業の実施体制

本事業は、カリキュラム開発を目的とした事業全体の取り組みについて検討を行うため、文学部教員、日本語教員養成課程のコーディネーター、各科目担当者に、学外の有識者を加えた「日本語教員養成課程検討・実施委員会」（以下、委員会）を組織し、その下に教育課程の内容を検討する「教育内容（シラバス）検討小委員会」、教材の検討・開発を行う「教材開発小委員会」を設置し、作業を行った。また、外部委員を含む「評価委員会」を設置し、事業の改

善に努めた。

2章「日本語教員養成課程カリキュラム開発の検討」では事業全体を統括する組織の取り組みについて、3章「教育内容の検討」ではカリキュラム、シラバス、評価等に関する教育内容の検討について、4章「教材開発」では日本語教員養成課程科目の教材選定とサブテキストの開発について、5章「養成課程の実施」では令和元年度と令和2年度に開講された科目について、それぞれの取り組みの詳細を報告する。

事業全体の評価については、6章「事業全体の評価」で自己点検評価と外部評価を示し、本事業についての成果と課題を報告する。

(趣旨)

第1条 四国大学における、日本語教員養成課程のカリキュラム、教材及び教育方法を検討・審議するとともに当該課程における教育を効果的かつ円滑に実施することを目的として、日本語教員養成課程検討・実施委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業に関する事。
- (2) 日本語教育養成課程のカリキュラム、教材及び教育方法に関する事。
- (3) その他、日本語教員養成課程に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 日本語教員養成課程専門科目を担当する専任教員
- (2) 文学部の各学科から選出された専任教員各1人
- (3) 学外有識者若干名
- (4) 教育支援課長
- (5) その他委員長が必要と認める者

2 前項第2号、第3号及び第5号の委員は、学長が委嘱又は任命する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号、第3号及び第5号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会の委員長は、委員の互選による。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の2分の1以上の者が出席しなければ、開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数を持って決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(小委員会)

第8条 委員会に小委員会を置くことができる。

- 2 小委員会は、委員長の指名する委員をもって構成する。
- 3 小委員会には、委員以外の者を加えることができる。
- 4 前2項のほか、小委員会について必要な事項は、委員会が別に定める。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、教育支援課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和元年10月8日から施行する。
- 2 第4条の規定にかかわらず、この規定の施行後最初に委嘱される委員の任期は、令和2年3月31日までとする。

四国大学日本語教員養成課程評価委員会設置要綱

令和元年10月8日
学 長 制 定

(趣旨)

第1条 四国大学(以下「本学」という。)における、日本語教員養成課程の評価を実施することを目的とし、日本語教員養成課程評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、本学が行う日本語教員養成事業に関する事業目的の達成及び改善に資するため、次の号に掲げる事項の評価を行う。

- (1) 日本語教員養成課程に関すること。
- (2) その他、日本語教員養成課程に関し必要な事項。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学外有識者3人
- (2) 日本語教育養成課程専門科目を担当する専任教員2名
- (3) その他、委員長が必要と認める者

2 前項の委員は、学長が委嘱又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会の委員長は、委員の互選による。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第6条 委員会は、委員の2分の1以上の者が出席しなければ、開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(評価結果の報告)

第8条 委員長は、委員会における評価結果を速やかに学長に報告するものとする。

(事務)

第9条 委員会の事務は、教育支援課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会について必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会小委員会内規

令和元年 10 月 8 日

日本語教員養成課程検討・実施委員会決定

(趣旨)

第1条 この内規は、四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会設置要綱第8条第4項の規定に基づき、日本語教員養成課程検討・実施委員会小委員会（以下「小委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(小委員会)

第2条 設置する小委員会とその目的は、次のとおりとする。

- (1) 教育内容（シラバス）小委員会 日本語教員養成課程の専門科目の教育内容を検討する。
- (2) 教材開発小委員会 日本語教員養成課程の専門科目の教材を開発する。

(組織)

第3条 小委員会は、別表に掲げる委員をもって組織し、委員長は同表に示すとおりとする。

- 2 小委員会の委員長は、それぞれの小委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の出席)

第4条 小委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めてその意見を聞くことができる。

(事務)

第5条 小委員会の事務は、教育支援課において処理する。

附 則

この内規は、令和元年 10 月 8 日から施行する。

2. 日本語教員養成課程カリキュラム開発の検討

2.1 検討組織

本事業の各取り組みを統括する組織として「日本語教員養成課程検討・実施委員会」を設置した。

2.2 組織の構成員

本委員会は、学内は本学文学部3学科（日本文学科、書道文化学科、国際文化学科）の代表教員、日本語教員養成課程科目担当教員、外国人留学生科目担当教員、事務担当職員で構成した。また、学外有識者として西口光一氏（大阪大学国際教育交流センター教授）を招聘し、カリキュラム開発を行う上で重要なこれからの社会に求められる日本語教員養成について助言をいただいた。

事業全体の運営にあたっては、委員の中からチーフコーディネーターとサブコーディネーターを、また、文化庁事業の枠組みにおいて、専門的な立場から業務をフォローするアシスタントコーディネーター、事務補助員を配置した。

≪2019年度～2022年度 委員会組織≫

（学外委員）

西口 光一（大阪大学国際教育交流センター 教授）

城本 春佳（阿南工業高等専門学校 講師）

*2020年度より四国大学文学部日本文学科講師

（学内委員）

元木 佳江（全学共通教育センター 准教授）委員長

田中 智子（文学部日本文学科 講師）*2019年度のみ

田ノ岡 大雄（文学部書道文化学科 講師）

平 歩（文学部国際文化学科 助教）*2019年度のみ

富山 晴仁（文学部国際文化学科 准教授）*2020年度より

西條 結人（全学共通教育センター 助教）

峪口 有香子（地域教育・連携センター 講師）

四宮 可苗（四国大学非常勤講師）

桑原 渉（教育学生支援部教育支援課 課長）

≪2019年度～2022年度 運営体制≫

チーフコーディネーター 元木佳江（全学共通教育センター 准教授）

サブコーディネーター 城本春佳（文学部日本文学科講師）

西條結人（全学共通教育センター）

アシスタントコーディネーター 山崎寛子

事務補助員 川長春佳（2019年度）

中倉ちあき（2020年度）

佐藤弥奈（2021年度）

2.3 取組の概要

2.3.1 2019（令和元）年度の取り組み

本課程については、2018（平成30）年度から検討を始めており、本事業を受託した2019（令和元）年度9月の時点では、カリキュラム（教育課程）のアウトラインはほぼ完成していた。このカリキュラムは、文化庁文化審議会国語分科会作成の「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示されている「大学における45単位以上の日本語教師養成課程（主専攻）」に準拠する形で組み立てていた。そのため、本委員会では、カリキュラムの妥当性を確認し、教育課程開設に向けてより良いカリキュラムを構築するための検討を行うことを目的とした。

1回目の委員会では、本事業の業務計画及び、事業計画について説明を行い、「日本語教員養成課程」カリキュラムについて本事業で検討する事項を確認し、小委員会で行う内容について審議を行った。これを受け、教育内容（シラバス）検討小委員会において「必須の教育内容（50項目）」が盛り込まれるようカリキュラム編成、シラバス、教育実習の実施体制などの検討を行うこととした。教育内容については特に次年度開講予定の「日本語教育学概論」について、教材開発小委員会と連携しながら詳細な検討を行うようにした。開発教材については、どのような教材が必要とされるかの検討を進めることとした。

第2回目の委員会では、事業報告、各小委員会の報告を踏まえ、次年度以降検討すべき課題について協議した。これらの会議には、カリキュラム開発の状

況把握と意見交換のため、川本幸彦副学長、阿部曜子文学部長も参加した。

また、教育内容(シラバス)検討小委員会では、日本語教員養成課程のカリキュラム編成に当たり、科目担当者および文学部の教員を対象に学外講師による研修会を2回開き、四国大学で実施する日本語教員養成の社会的意義や養成の在り方について研修を行った。

2020(令和2)年度開設に向けた準備として、日本語教員養成課程科目の新設、履修要綱の作成、教育実習の履修要件など整備を進めるとともに、日本語教員養成課程のパンフレットを作成し広報を行った。

2.3.2 2020(令和2)年度の取り組み

「日本語教員養成課程検討・実施委員会」を令和2年6月10日に開き、令和2年度に開設予定とした「四国大学文学部日本語教員養成課程」のカリキュラムを効果的かつ実効性のあるものとするための全体計画とその内容について検討を行った。事業評価においては、各委員会の取り組み状況を確認するため評価点検項目を設定し、作業の進捗状況の可視化を試みた。

教育内容については、教育内容(シラバス)検討小委員会において、日本語教師【養成】に求められる資質・能力において必要とされる「知識」「技能」「態度」に基づき、さらに詳細な検討を行うこととした。また、必修科目の教育内容のつながりを考慮したカリキュラムとなるよう年次配当の検討を行うと同時に、カリキュラムの検証を行うため学生への到達度自己評価アンケートの作成と実施を事業計画に盛り込んだ。教材開発小委員会においては、開発教材の内容について検討を行い、分担に応じて作業を行い試作版の完成を目指すこととした。

昨年に引き続き、研修会を企画、日本語教員養成に関わる教員、文学部教員を対象に実施した。また、広報については、パンフレットをリニューアルし、実際の授業風景や担当教員のメッセージなどを掲載し、日本語教員養成課程の内容を分かりやすく示した。

2.3.3 2021(令和3)年度の取り組み

「日本語教員養成課程検討・実施委員会」を令和3年7月16日に開き、令和2年度の事業評価と改善点を踏まえたうえで、カリキュラムを効果的かつ実効性のあるものとするための全体計画と、今年度の事業目標について検討を行

った。

カリキュラムの検証を行うために実施した学生への到達度自己評価アンケートの継続実施に加え、到達度評価の41項目が各科目の教育内容にどのように含まれているかについて示すことも試みた。また、到達度自己評価の項目と課程必修科目の関連性を踏まえ、学生による到達度自己評価結果を照合し、カリキュラムの妥当性について検証を試みた。

教育内容(シラバス)検討小委員会では、当年度(令和3年度)に開講された科目についての評価改善と、令和4年度以降に開講される「言語と教育」区分を中心とした科目について教育内容のさらなる検討を進めた。また、文化庁事業の最終年度ということもあり、令和3年度は2回の研修会を実施した。

教材開発小委員会では、令和4年度以降に開講される科目の教材選定と、開発教材の完成を目指すこととした。

事業目標と事業評価については、教育内容(シラバス)検討小委員会での検討を踏まえ審議を行い、2020(令和2)年度と2021(令和3)年度の評価点検項目を決定した。評価点検項目の詳細については3章で述べる。

【会議経過】

2019年10月11日	令和元年度第1回日本語教員養成課程検討・実施委員会
2020年2月21日	令和元年度第2回日本語教員養成課程検討・実施委員会
2020年6月19日	令和2年度日本語教員養成課程検討・実施委員会
2021年7月16日	令和3年度日本語教員養成課程検討・実施委員会

2019（令和元）年度事業実施概要

2019年度四国大学文学部「日本語教員養成課程」開発事業実施概要

四国大学日本語教員養成課程 検討・実施委員会

第1回 2019年10月11日

- ・今年度の事業計画
- ・検討課題等

第2回 2020年2月21日

- ・事業実施状況の報告
- ・今後の検討課題

教育内容(シラバス)検討 小委員会

第1回 2019年10月25日

- ・教育内容検討計画

第2回 2019年12月16日

- ・日本語教員養成課程科目の教育内容について

第3回 2020年1月27日

- ・日本語教員養成課程科目シラバスについて
- ・日本語教育実習について

教材開発小委員会

第1回2019年10月25日

- ・教材開発検討計画

第2回2019年12月11日

- ・日本語教員養成課程の教材選定状況について

第3回2020年2月20日

- ・教材開発実施計画について

研修会

第1回 2019年10月11日

大阪大学 西口光一 教授

第2回 2020年2月21日

大阪大学 西口光一 教授

第3回 2020年2月28日

広島大学 永田良太 教授

学会、研究会参加
カリキュラム開発のための
情報収集

パンフレット作成
高校生向け広報活動

2020（令和2）年度事業実施概要

2020年度四国大学文学部「日本語教員養成課程」開発事業実施概要

四国大学日本語教員養成課程 検討・実施委員会

第1回2020年6月19日

・今年度の事業計画・今年度検討課題等

日本語教員養成課程実施WG
2020年6月10日実施

教育内容(シラバス)検討 小委員会

第1回 2020年7月29日

・カリキュラム・カリキュラムマップ
・令和3年度開講科目の教育内容
・事業評価項目の検討

第2回 2020年9月2日

・「言語と教育」区分の教育内容について
・教育実習の具体的方法について

第3回 2020年12月17日

・科目名称、配当年次、シラバスの再検討
・事業評価項目の再検討

教材開発小委員会

第1回 2020年7月7日

・日本語教員養成課程科目テキストの選定状況
・「教材開発実施計画」について

第2回 2020年9月13日

・日本語教員養成課程の教材選定状況
・「教材開発実施計画」について
・開発教材の進捗状況及びタイトルについて

第3回2020年11月25日

・開発教材の内容について
・開発教材の原稿確認について
・教材資料集について

文学部（在学生対象）
日本語教員養成課程
履修説明会
2020年7月4日開催

到達度自己評価
アンケート実施
後期開講科目
「日本語教育学概論」

研修会（オンライン）
2021年2月19日
東京都立大学
奥野由紀子 准教授

四国大学日本語教員養成課程評価委員会

2021年2月26日

・事業目的の達成および改善について

パンフレット作成
高校生向け広報活動

2021（令和3）年度事業実施概要

2021年度四国大学文学部「日本語教員養成課程」開発事業実施概要

四国大学日本語教員養成課程 検討・実施委員会

2021年7月16日

・前年度の事業報告 ・今年度の事業計画 ・今年度検討課題 等

教育内容（シラバス）検討 小委員会

第1回2021年8月26日

- ・理念および目指すべき教師像について
- ・科目間のつながりと教育内容について

第2回2021年12月27日

- ・シラバス内容の確認と検討
- ・「言語と教育」区分の科目における教育内容の体系化について
- ・「教育実践」科目のシラバス内容および実施方法の検討
- ・「到達度自己評価アンケート」の実施対象科目について

教材開発小委員会

第1回2021年9月9日

- ・テキストの選定状況について
- ・ガイドブック題目及び試作版の検討
- ・ガイドブック最終版作業工程の確認

第2回2021年12月9日

- ・テキストの選定状況について
- ・ガイドブック(試作版)修正について
- ・ガイドブック教材資料集について

第3回2022年2月21日

- ・テキストの選定状況について
- ・ガイドブック初校の確認について

四国大学日本語教員養成課程評価委員会

2022年3月1日

・事業目的の達成および改善について

日本語教員養成課程
履修説明会
2021年7月8日

到達度自己評価アンケート
後期
「日本語教育学概論」
「日本語音声学・音韻論」

第1回研修会(オンライン)
2021年9月6日
一般社団法人アクラス
日本語教育研究所
代表理事 嶋田 和子氏

第2回研修会(オンライン)
2021年12月21日
大阪大学
国際教育交流センター
教授 西口 光一氏

パンフレット作成
高校生向け広報活動

3. 教育内容の検討

3.1 検討組織

日本語教員養成課程科目の教育内容および評価方法について詳細な検討を行うため、四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会の下に、「教育内容（シラバス）検討小委員会」を設置した。委員は、本学の日本語教員養成課程科目担当教員以外に、学外の有識者も加えて構成された。

【構成員】

≪2019年度≫

元木 佳江（全学共通教育センター 准教授）委員長

西條 結人（全学共通教育センター 助教）

城本 春佳（阿南工業高等専門学校一般教養 講師）

青木 洋子（非常勤講師）

ワイス 美江（非常勤講師）

≪2020年度≫

城本 春佳（文学部日本文学科 講師）委員長

元木 佳江（全学共通教育センター 准教授）

西條 結人（全学共通教育センター 助教）

田中 大輝（鳴門教育大学グローバル教育コース 准教授）

青木 洋子（非常勤講師）

ワイス 美江（非常勤講師）

≪2021年度≫

城本 春佳（文学部日本文学科 講師）委員長

元木 佳江（全学共通教育センター 准教授）

西條 結人（全学共通教育センター 助教）

田中 大輝（鳴門教育大学グローバル教育コース 准教授）

四宮 可苗（非常勤講師）

【会議経過】

2019 年度第 1 回小委員会 (2019 年 10 月 25 日)

2019 年度第 2 回小委員会 (2019 年 12 月 16 日)

2019 年度第 3 回小委員会 (2020 年 1 月 27 日)

2020 年度第 1 回小委員会 (2020 年 7 月 29 日)

2020 年度第 2 回小委員会 (2020 年 9 月 2 日)

2020 年度第 3 回小委員会 (2020 年 12 月 17 日)

2021 年度第 1 回小委員会 (2021 年 8 月 26 日)

2021 年度第 2 回小委員会 (2021 年 12 月 27 日)

3.2 検討課題

小委員会では、主に次の課題を中心に検討を行った。

- (1) カリキュラムと「必須の教育内容 (50 項目)」の分配
- (2) シラバスの内容と必須の教育内容の点検
- (3) カリキュラムの妥当性についての検証

3.3 検討内容

3.3.1 2019 年度検討内容

2019 年度には 3 回の小委員会を実施した。

第 1 回小委員会では、まず日本語教員養成課程カリキュラムの全体像 (45 単位) について確認したうえで、当小委員会では、その内の日本語教員養成課程必修科目 (17 科目 34 単位) の教育内容について検討することとした。この必修科目には、文化庁文化審議会国語分科会作成の『日本語教育人材の養成・研修の在り方について (報告) 改定版』に示されている「必須の教育内容 (50 項目)」が分配されている。また日本語教員養成課程必修科目は、新設科目ばかりでなく既存の科目も含まれており、その内『ことば・文化・人間』は文学部 2 年の必修のオムニバス科目であることから、ここに日本語教育に関するテーマを 2 コマ程度含めるよう、文学部会議で検討してもらうこととした。更に、日本語教員養成課程は 1 年次後期開講の『日本語教育学概論』から始まることになるため、まずこの科目の学習目標や教育内容について詳細な検討を行った。具体的には、カリキュラム全体の説明を最初 (第 1 回) に入れる、学生に

イメージを固めさせるため実際の授業を見せる、留学生と交流する機会を設けるなどの案が出された。

第2回小委員会では、日本語教員養成課程科目のうち『異文化間教育論』『日本語教育実習』以外の新設科目について、科目担当教員からシラバス案が提示された。これを基に、各科目の配当年次が適当であるか、各科目に割り当てられた「必須の教育内容（50項目）」を踏まえたシラバスとなっているか、この項目の分配が適当であるかが検討され、修正案が示された。修正については、後日各科目担当教員に打診することとする。また、教育実習の履修要件についても検討がなされ、外国人留学生は日本語能力試験(JLPT)のN1取得を条件とすることが決定された。また、他大学の教育実習や、実習・見学先候補リストが紹介され、本学養成課程での具体的な教育実習の方法について検討がなされた。

第3回小委員会では、まず日本語教育実習の履修要件を含む履修要綱の最終確認がなされた。次に、前回の委員会以降に修正されたシラバスの詳細な検討がなされた。特に、「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」の5区分のうち、「言語と教育」分類される5科目について、教育実習に直接つながる科目として、科目間の連続性を充分考慮する必要があることが指摘された。また教育実習の前段階として、外部機関の見学を行う際の事前指導の重要性などが指摘された。本教育課程で教育実習が実施されるのは4年後であるため、それまで継続して内容や方法を検討していくこととなった。

3.3.2 2020年度検討内容

2020年度には、鳴門教育大学の田中大輝准教授を委員に加え、3回の小委員会が実施された。

第1回小委員会では、田中委員に鳴門教育大学での日本語教員養成課程の実施状況をお聞きしながら、「必須の教育内容（50項目）」の配分や、教科名の妥当性についても検討を行った。本学の日本語教員養成課程では、主に1～2年次で言語一般や言語習得に関わる理論を学び、3年次以降に言語教育のより実践的な内容を学ぶ流れとなっている。授業内容もこの流れを意識したものである必要があることが指摘された。またシラバスの詳細な検討を通して、異なる教員が担当する科目間で内容の重複や不足が見られる点が指摘され、本委員

会の委員が科目担当教員に調整を依頼することとなった。さらに、本養成課程開発事業の評価に係る評価項目についても検討がなされた。

第2回小委員会では、特に「言語と教育」区分の科目について、科目間の連続性を意識した教育内容の調整について話し合われた。『日本語教授法』では、教材分析として様々な日本語教科書に触れさせる。ここでは、伝統的な文型積み上げ式である『みんなの日本語 初級』（スリーエーネットワーク）や、海外で広く使用される『まるごと 日本のことばと文化』（三修社）など、異なるタイプの教科書を広く扱う必要がある。そして『日本語教授法演習』では、養成課程の受講生同士で模擬授業を繰り返し行い、『日本語教育実習』で実際の教壇実習を行うという流れを意識してシラバス内容を検討しなおすこととなった。また『異文化間教育論』については、言語教育に関わらずより広い視野で、外国ルーツの人々を知るための活動を多く取り入れた教育内容にすることが提案された。さらに『日本語教育実習』については、学生が自分たちで企画から実践まで行う「授業実践A」と、決まったカリキュラムの中の特定の項目を担当して教える「授業実践B」の2種類を実施することが提案されたが、手続きや実習場所の確保など、課題が多いことも指摘された。

第3回小委員会では、まず科目名称と配当年次の変更について話し合われた。本学の規定により、「実習」という科目名では授業コマ数に対する単位数が通常の科目と異なってしまうため、『日本語教育実習』は『日本語教育実践』という科目名に改められることとなった。また、『日本語教育方法論』と『日本語教授法』について、『日本語教育方法論』の方が「日本語教育プログラムの理解」や「コースデザイン」等、枠組みを扱うものであるのに対し、『日本語教授法』の方がより具体的な教授法を扱い、4年次開講の『日本語教授法演習』にもつながるものであることから、『日本語教育方法論』を3年次前期、『日本語教授法』を3年次後期に変更することとした。また『異文化間教育論』は3年次の集中授業として予定されていたが、留学生との交流活動等を実施するため通常講義として3年次後期に実施することが決定された。次に、シラバス内容の変更点として、第1回小委員会で指摘された内容を踏まえ、『言語学概論』では『日本語音声学・音韻論』との重複箇所が解消されたシラバスが提示された。また『日本語語彙論・意味論』において、「日本語の文字と表記」に関する内容が含まれていなかった点が修正され、代わりに「意味論」に関する内容が縮小されたことから、科目名を『日本語の表記と語彙』に

改めることが提案された。更に『社会言語学・語用論』に含まれることになっていた必須の教育内容「(13)多文化・多言語主義」は『異文化間教育』に含まれることとなった。最後に、事業評価項目について話し合わせ、2020年度の評価点検項目は以下の通りに決定された。

【2020年度評価点検項目】

◆カリキュラム開発

- ① 『「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」改定版』に示されている必須の教育内容が網羅されている
- ② 日本語教員養成課程の必修科目について、科目間の内容的なつながりを考慮したカリキュラムとなっている
- ③ 日本語教師に求められる資質・能力が養成されているかを確認するために、学生による到達度自己評価を学期ごとに実施し、検証を行う

◆教育内容（シラバス）検討

- ④ シラバスが必須の教育内容を修得するのに相応しい内容になっている
- ⑤ 「日本語教育実習」について、履修要件及び教育内容が検討されている

◆教材開発

- ⑥ 日本語教員養成課程科目について、到達目標に合ったテキストの選定が検討できている
- ⑦ 「日本語教育概論」のサブテキストとして作成した教材が、四国大学文学部日本語教員養成課程において、学生が目指すべき方向を示す教材となっている

3.3.3 2021年度検討内容

2021年度の取り組みとして、まず、委員長レベルで今年度の事業目標と評価点検項目について話し合いを行い、日本語教員養成課程検討・実施委員会に諮り、以下の通りに決定された。

【2021年度評価点検項目】

◆カリキュラム開発

- ① 『「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」改定版』に示されている「必須の教育内容」が網羅されている

- ② 日本語教員養成課程の必修科目について、科目間の内容的なつながりを考慮したカリキュラムとなっている
- ③ 日本語教師に求められる資質・能力が養成されているかを確認するために、学生による到達度自己評価を学期ごとに実施し、検証を行う
- ◆教育内容（シラバス）検討
- ④ シラバスが必須の教育内容を修得するのに相応しい内容になっている
- ⑤ 「日本語教育実習」について、履修要件及び教育内容が検討されている
- ◆教材開発
- ⑥ 日本語教員養成課程科目について、到達目標に合ったテキストの選定が検討できている
- ⑦ 「日本語教育学概論」のサブテキストとして作成した教材が、四国大学文学部日本語教員養成課程において、学生が目指すべき方向を示す教材となっている

2021年度の教育内容（シラバス）検討小委員会は2回実施した。

第1回小委員会では、2022年度以降に開講される科目の教育内容について、詳細な検討がなされた。「必須の教育内容」の項目の見直しとして、『日本語教育方法論』に入っていた「(35)日本語教育とICT」を『日本語教授法演習』へ変更すること、また評価委員会での指摘を受けて『日本語教育実践』に「(47)言語運用能力」と「(50)異文化調整能力」を追加することとした。

次に「言語と教育」科目における「実践力」の育成について話し合われた。『日本語教育方法論』では、「学習者を知る」ために、ランゲージパートナーやボランティア活動等、学習者との交流活動を行う。『日本語教授法』では、「日本語の授業を知る」ために、学内外で授業見学を行う。『異文化間教育論』では、「外国ルーツの人々を知る」ために、当事者や支援者から様々な事例を学ぶと同時に、留学生へのインタビューなどの体験学習も行う。『日本語教授法演習』では「教え方を考える」ために模擬授業を実施し、『日本語教育実践』では「教える」実践力育成の集大成として、教授実践を行う。「教授実践A」では、各学科の特色を生かした実践を、学生たちが企画し運営する。

「教授実践B」では、「介護の日本語」「学内の留学生対象の授業」「地域の日本語授業」等、学内外の様々な場で対象者別の授業を行う。これらの活動を通して、体系的に実践力を育成していくことが提案された。

最後に、四国大学日本語教員養成課程の理念および目指すべき教師像について話し合われた。『「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」改訂版』に示されている「日本語教育人材に求められる資質・能力について」を参考にしながら、四国大学文学部の学生の特性も踏まえ、「人間性を探求する」「学習者に寄り添える教師」「自ら学び続ける教師」「教養を持った日本語教師」「多文化共生を実現できる人材」などのキーワードが出された。ここで話し合われたことを基に、『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』において四国大学日本語教員養成課程の理念および目指すべき教師像が示された。

第2回小委員会では、まず第1回小委員会で話し合われた「実践力の育成」に基づいて修正されたシラバスの内容が確認された。次に、「到達度自己評価アンケート」の実施方法等について話し合われた。このアンケートは、『「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」改定版』に示されている「日本語教育人材に求められる資質・能力について」を参考に、4年間の養成課程で身に付けるべき項目を41の質問項目にまとめ、現時点で自分がそれをどの程度修得できているか、学生が自己評価を行うものである。経年変化を見るため、毎年1回実施されることが望ましいと考え、1年次は『日本語教育学概論』、2年次は『日本語音声学・音韻論』、3年次は『日本語教授法』、4年次は『日本語教育実践』で実施することが決定された。『日本語教育学概論』では2019年度及び2020年度、『日本語音声学・音韻論』では2020年度に、すでにアンケートが実施されている。養成課程の各科目でどの項目が扱われているかの対応表も示されたが、当該科目で扱われている項目については、概ね「修得できている」との自己評価が多くみられた。

3.4 研修会の実施

日本語教員養成課程検討・実施委員だけでなく、養成課程科目の担当者及び養成課程が設置される文学部の教員が、日本語教育学についての知見を深め、これからの社会に求められる日本語教員の養成を実現できるよう、学外から有識者を招いて研修会を実施した。2019年度は3回、2020年度は1回、2021年度は2回の研修会が実施された。各研修会の詳細は以下のとおりである。

【2019 年度】

第 1 回研修会

開催日時：2019 年 10 月 11 日

講師：大阪大学国際教育交流センター 教授 西口 光一氏

題目：『これから求められる日本語教育人材とその育成について』

参加者数：8 名

2019 年度第 1 回研修会は、当事業の開始にあたり、これからの社会に相応しい日本語教育の在り方を考える内容であった。参加者は、当事業の中心的なメンバーに限定した。従来の日本語教育は、言語知識と言語技能を習得することに重点を置いたオーソドックスな日本語教育か、コミュニケーションに重点を置いたコミュニカティブ・アプローチか、という二元論で議論されており、その結果、言語教育についての理念も、習得と習得支援の原理も、学習と教授の方略もない日本語教育が行われてきた。従来見落とされてきた「表現活動」を中心とする日本語教育を実践することで、言語知識の習得を有効に促進しつつ、各種の言語活動に関わる言語技量を着実に育成し、実用的なコミュニケーション能力の養成にもつながる基幹的な言語技量を養成することができると考えられる。まずは四国大学の留学生を対象とした日本語授業において、「表現活動」を中心とした日本語教育を実践し、その成果を教員養成課程にも還元していくこととする。

第 2 回研修会

開催日時：2020 年 2 月 21 日

講師：大阪大学国際教育交流センター 教授 西口 光一氏

題目：『教員養成における重要な教育課題は何か－「日本語を教えること」と「日本語上達を支援すること」－』

参加者数：23 名

第 2 回研修会は、日本語教員養成課程検討・実施委員会委員だけでなく広く文学部教員を対象として、「日本語教師」の仕事とはどのようなものであるのか、その領域の広さを踏まえたうえで、将来にわたって日本語教育の専門家としてやっていける日本語教育者を養成するための課題について考える内容であった。日本語教育とは、学習者が、より広範な言語活動や、より高度な言語活

動に、より有効に従事できるようになることを、計画的で組織的に支援することであり、カリキュラム開発の視点や具体的な教育実践を踏まえた養成が必要である。日本語教員の養成だけでなく、国語教員や英語教員の養成も行っている文学部教員にとって、重要な課題について考える研修となった。

第3回研修会

開催日時：2020年2月28日

講師：広島大学大学院教育学研究科 教授 永田 良太氏

題目：『大学におけるこれからの日本語教員養成に向けて－広島大学の事例をふまえて－』

受講者数：12名

第3回研修会は、再び日本語教員養成課程検討・実施委員会委員を主な対象者として、広島大学での日本語教員養成課程の実例をもとに、これからの日本語教員養成の在り方について考える内容であった。広島大学での実例としては特に、初年次に開講されている「日本語教育学基礎論」「日本語教育実習」の教育内容や取り組みが詳しく紹介された。これからの日本語教員養成に向けた課題としては、「実践力」をどのように培うか、日本語教師を目指す学生の意欲をどのように維持させるか、といった点について議論した。ここで学んだ内容は、四国大学日本語教員養成課程における「言語と教育」区分の科目での体系的な実践力育成の構想や、学生による自己評価アンケートの実施などに活かされている。

【2020年度】

開催日時：2021年2月19日

講師：東京都立大学人文科学研究科 准教授 奥野 由紀子氏

題目：『魅力ある日本語教員養成課程の充実に向けて－日本語教育の視点を持った人材の育成－』

参加者数：12名

2020年度研修会は、日本語教員養成課程検討・実施委員会委員および養成課程科目担当教員を対象とし、魅力ある日本語教員養成課程とはどのようなものかを考える内容であった。日本語教員養成とは、日本語教育を通じた人間教育・全人教育であるべきであり、これは本学の建学の精神「全人的自立」とも

通ずるものである。講演では、CLIL の理念について詳しくお話しいただくとともに、東京都立大学日本語教育学教室におけるオンラインでの教育実習の実例をご紹介いただいた。また、Jamboard を用いて参加者間で意見交換を行い、「四国大学日本語教員養成課程でどのような人材を育成・輩出したいのか、そのためにどのようなテクネー・パイディアを伸ばす必要があるか」について意識の共有を図った。

【2021 年度】

第 1 回研修会

開催日 2021 年 9 月 6 日

講師：一般社団法人アクラス日本語教育研究所 代表理事 嶋田 和子氏

題目：『これからの日本語教師像－広がる日本語教育人材の活躍の場－』

参加者数：26 名

2021 年度第 1 回研修会は、文学部教員全員を対象とし、日本語教育が専門ではない教員も日本語教育を取り巻く現状について知り、「これからの日本語教師像」を共に考えることを目的として行われた。「介護の日本語」「日本語学校」「外国ルーツの子どもの日本語教育」「海外における日本語教育」という様々な現場における詳細なデータとともに具体的な事例についても紹介していただき、養成課程修了学生の活躍の場についてイメージを共有することができた。また、外国にルーツを持つ人々の事例から、「ことばが人権を守る」ことを実感し、日本語教育だけでなく、広くことばや文化を扱う文学部において、ことばの重要性を学生に伝えていきたいという思いを共有する機会となった。

第 2 回研修会

開催日：2021 年 12 月 21 年

講師：大阪大学国際教育交流センター 教授 西口 光一氏

題目：『日本語教育学の体系と日本語教育教員の養成と研修』

参加者数：17 名

第 2 回研修会は、当事業最後の研修会となることから、対象を日本語教員養成課程検討・実施委員会委員および学外の日本語教育関係者に限定し、日本語教育学の体系について考え直すとともに、それをもとに日本語教員の養成と研修の在り方を問い直す内容であった。日本語教育の実践者は、日本語そのもの

についての「基幹知識」、第二言語習得などに関する「専門基礎知識」、応用言語学やコミュニケーション研究などの「高度専門知識」からなる「日本語教育基盤知識」を基盤として、教育実践、学習と教授のデザイン、学習・教育の企画とシステムの開発といった「日本語教育実践技量」を身に付けるべきである。この「基盤知識」「実践技量」の概要をもとに、日本語教員養成課程における科目例が示された。四国大学日本語教員養成課程の必修科目は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』で示されている必須の50項目を網羅するものとなっているが、この項目の妥当性や、具体的な授業の内容については、継続的に検討していく必要があることが確認された。

【関連資料リスト】

- ・「四国大学日本語教員養成課程（45単位以上）」カリキュラム
- ・日本語教員養成課程必修科目（17科目）カリキュラムマップ
- ・「言語と教育」科目における「実践力」の育成
- ・日本語教育実践
- ・到達度自己評価アンケート項目
- ・到達度自己評価アンケート項目と日本語教員養成科目の関連
- ・日本語教員養成課程科目シラバス（令和3年度作成）

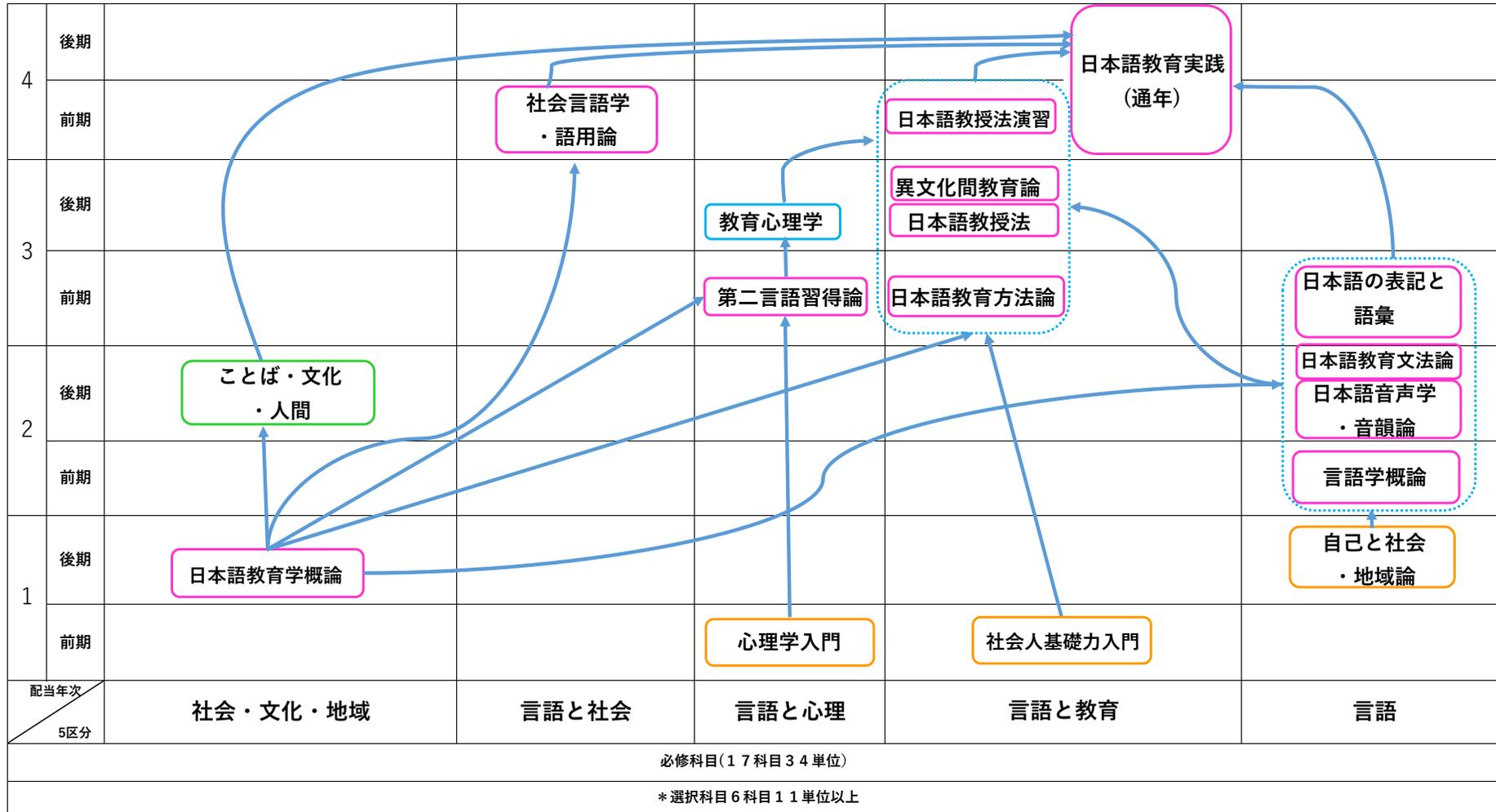
「四国大学日本語教員養成課程（45単位以上）」カリキュラム

5区分	16下位区分	単位数	既存科目	単位	日本語教員養成課程科目	担当 教員	単位	修了に必要な 単位数
社会・文化・地域	世界と日本 異文化接触 日本語教育の歴史と現状	2～6	ことば・文化・人間【文学部共通】※(1)(2)(3)	2	日本語教育学概論 (4)(5)(6)(7)	西條・元木・富山	2	4
	その他	2～4	徳島の歴史と文化【全教】 四国いやしの道【全教】 日本の歴史と思想【全教】 多文化共生入門【全教】 現代の新たな文化【全教】 基礎講読近現代文学【日文・書道】※ 日本文学概説【日文・書道】 書道生涯学習論【書道】 グローバル書道【書道】 国際ボランティア・国際平和論【国際】※ アメリカ文化論【国際】 イギリス文化論【国際】 アジア文化論【国際・日文】 グローバル社会におけるメディア【国際】 民族とジェンダー【国際】	2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2				3～4
言語と社会	言語と社会の関係 言語使用と社会 異文化コミュニケーションと社会	2～4			社会言語学・語用論 (8)(9)(10)(11)(12)	西條	2	2
	その他	2～4	言語と文化【全教】 フランス文化と言語【全教】 ドイツ文化と言語【全教】 日本語史【日文】 日本文法論【日文・書道】 日本語研究【日文】 デザイン書道【書道】 近現代文学史【日文・書道】※ 国際文化入門【国際】※ 英米文学入門【国際】※※	2 2 2 2 2 2 1 2 2 2			4	
言語と心理	言語理解の過程 言語習得・発達 異文化理解と心理	3～4			第二言語習得論 (14)(15)(16)(17)	富山	2	2
	その他	1～4	教育心理学【全学】(18)(19)※※ 心理学入門【全学】※※※	2 2				2
言語と教育	言語教育法・実習	2～4			日本語教育方法論【国際】 (20)(21)(22)(23)(31)	元木	2	2
		2～6			日本語教授法(24)(25)(26)(29)	城本	2	2
		2			日本語教授法演習(27)(30)(35)	元木	2	2
		1～3			日本語教育実践(28)(47)(50)	元木・西條・城本	2	2
	異文化間教育と異文化コミュニケーション教育	2			異文化間教育論 (13)(32)(33)(34)	元木・四宮	2	2
	その他	2	社会人基礎力入門【全学】(36)(48)※※※	2				2
言語	言語の構造一般	2			言語学概論(37)(38)(39)	富山	2	2
	日本語の構造	4～8			日本語音声学・音韻論(40)	峪口	2	6
					日本語の表記と語彙 (41)(42)(44)	峪口	2	
					日本語教育文法論(43)(45)	西條	2	
	言語研究							
	コミュニケーション能力	2	自己と社会・地域論【全学】※※※ (46)(49)	2				2
その他	2～4	英語コミュニケーション【全学】※※ 中国語Ⅰ【全学】 中国語Ⅱ【全学】 韓国語Ⅰ【全学】 韓国語Ⅱ【全学】 基礎日本語学Ⅰ（国語表現法を含む）【日文・書道】※ ※ 基礎日本語学Ⅱ（音声言語含む）【日文・書道】※※ 英語学入門【国際】	2 2 2 2 2 2 2 2				2	
				21～22			24	45～46

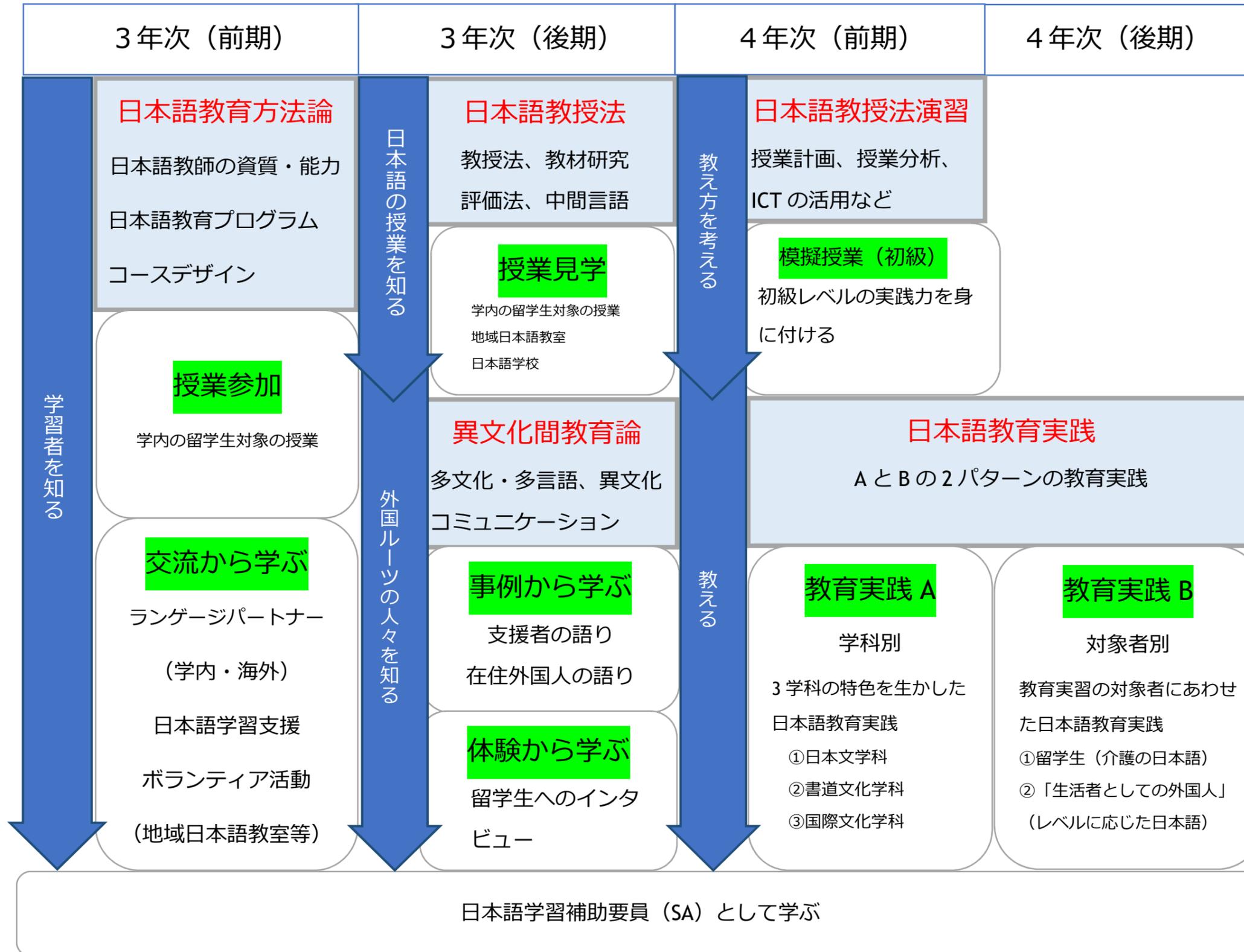
ピンク色フォント：日本語教員養成課程必修科目 ※緑色：専門必修 ※※青色：教員免許状必修 ※※※オレンジ色：全教 必修科目

日本語教員養成課程必修科目（17科目）
カリキュラムマップ

- 日本語教員養成課程必修科目
- 専門必修科目
- 全教必修科目
- 教員免許状必修科目



「言語と教育」科目における「実践力」の育成



「日本語教育実践」4年次・通年（2単位）

全体オリエンテーション

教授実践A [学科別の企画]（前期）

- ・ 学科別に、自分たちで内容を企画し、実践する
- ・ 学習者は本学の留学生

日本文学科

- ・ ビブリオバトル
 - ・ 俳句の創作
- etc

書道文化学科

- ・ 書道体験
 - ・ 美しい字の書き方
- etc

国際文化学科

- ・ 文化体験
 - ・ プレゼン講座
- etc

教授実践B [対象者別]（後期）

- ・ 定められた枠内で、担当箇所の授業を実践する

介護の日本語

本学の介護福祉専攻の留学生への授業実践

初級レベル

地域の在住外国人を対象とした日本語クラスでの授業実践

中級レベル

本学の留学生対象日本語授業での授業実践

実践報告会

到達度自己評価アンケート項目

1	外国語に関する知識、日本語の構造に関する知識を持つことができた。
2	言語使用や言語発達、言語の習得課程等に関する知識を持つことができた。
3	個々の学習者の来日経緯や学習過程等に関する知識を持つことができた。
4	日本語教育プログラムやコースにおける各科目や授業の位置付けを理解できた。
5	様々な環境での学びを意識したコースデザインを行う上で必要となる知識を持つことができた。
6	日本語教育の目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持つことができた。
7	学習者の学習過程を理解することができた。
8	学習者に応じた内容・教材（ICTを含む）・方法を選択する上で必要となる知識を持つことができた。
9	言語・文化の違いや社会における言語の役割を理解し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。
10	異なる文化背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学び合う態度を養うための異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を持つことができた。
11	学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要となる知識を持つことができた。
12	教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。
13	外国人施策や世界情勢など、外国人や日本語教育を取り巻く社会状況に関する一般的な知識を持つことができた。
14	国や地方公共団体の多文化共生及び国際協力、日本語教育策に関する知識を持つことができた。
15	日本語教育プログラムのコースデザイン・カリキュラムデザインを理解できるようになった。
16	目的・目標に沿った授業を計画することができるようになった。
17	学習者の日本語能力等に応じて教育内容・教授方法を選択することができるようになった。
18	学んだ知識を教育現場で実際に活用・具現化できる能力を身に付けることができた。
19	学習者に応じた教具・教材を活用できるようになった。
20	学習者に応じた教具・教材を作成できるようになった。
21	学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を身に付けることができた。
22	学習者に対する異文化間コミュニケーション能力を身に付けることができた。

23	授業や教材等を分析する能力を身に付けることができた。
24	教育活動を振り返り、改善を図ることができるようになった。
25	学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者の能力を適切に評価する能力を身に付けることができた。
26	学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者を指導する能力を身に付けることができた。
27	学習者が多様なリソースを活用できる教育実践を行う能力を身に付けることができた。
28	学習者の理解に応じて日本語をわかりやすくコントロールする能力を身に付けることができた。
29	学習者が日本語を使うことにより社会につながることを理解できるようになった。
30	学習者が日本語を使うことにより社会につながることを意識し、教育実践に生かすことができるようになった。
31	日本語だけでなく多様な言語や文化に対して深い関心と鋭い言語感覚を持ち続けようとすることができた。
32	日本語そのものの知識だけでなく、歴史、文化、社会事象等、言語と切り離せない要素を合わせて理解し、教育実践に活かすことができるようになった。
33	日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱をもつようになった。
34	自身の実践を客観的に振り返り、常に学び続けようとするようになった。
35	言語・文化の相互尊重ができるようになった。
36	学習者の背景や現状を理解しようとするようになった。
37	指導する立場であることを常に自覚し、自身のものの見方を問い直そうとするようになった。
38	異なる文化や価値観に対する興味関心と広い受容力・柔軟性を持つようになった。
39	多様な関係者と連携・協力しようとするようになった。
40	日本社会・文化の伝統を大切にするようになった。
41	学習者の言語・文化の多様性を尊重するようになった。

※質問項目は、文化庁『日本語教育人材養成・研修の在り方について（報告）改定版』『日本語教師【養成】に求められる資質・能力』を参考に作成した。

日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
到達度自己評価アンケート項目と日本語教員養成科目の関連

日本語教師【養成】に求められる資質・能力		アンケート項目	ことば・文化・人間	日本語教育学概論	社会言語学・語用論	第二言語習得論	教育心理学	日本語教育方法論	日本語教授法	日本語教授法演習	日本語教育実践	異文化間教育論	社会人基礎力入門	言語学概論	日本語音声学・音韻論	日本語の表記と語彙	日本語教育文法論	自己と社会・地域論		
			(1)(2)(3)	(4)(5)(6)(7)	(8)(9)(10)(11)(12)	(14)(15)(16)(17)	(18)(19)	(20)(21)(22)(23)(31)(35)	(24)(25)(26)(29)	(27)(30)	(28)(47)(50)	(13)(32)(33)(34)	(36)(48)	(37)(38)(39)	(40)	(41)(42)(44)	(43)(45)	(46)(49)		
知識	言語や文化に関する知識	1 外国語に関する知識、日本語の構造に関する知識を持つことができた。		○		○				○	○			○	○	○	○		8	
		2 言語使用や言語発達、言語の習得課程等に関する知識を持つことができた。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		13
		3 個々の学習者の来日経緯や学習過程等に関する知識を持つことができた。	○	○			○	○	○	○	○	○	○							
	日本語の教授に関する知識	4 日本語教育プログラムやコースにおける各科目や授業の位置付けを理解できた。		○					○		○	○								4
		5 様々な環境での学びを意識したコースデザインを行う上で必要となる知識を持つことができた。							○	○	○	○								4
		6 日本語教育の目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持つことができた。							○	○	○	○			○	○	○	○		7
		7 学習者の学習過程を理解することができた。				○			○	○	○	○			○	○	○	○		8
		8 学習者に応じた内容・教材(ICTを含む)・方法を選択する上で必要となる知識を持つことができた。							○	○	○	○		○						5
		9 言語・文化の違いや社会における言語の役割を理解し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。			○				○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	日本語教育の背景をなす事項に関する知識	10 異なる文化背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学び合う態度を養うための異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を持つことができた。		○	○				○	○	○	○	○		○					7
		11 学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要となる知識を持つことができた。					○			○	○	○			○				○	6
		12 教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。					○			○	○	○			○	○	○	○		7
13 外国人施策や世界情勢など、外国人や日本語教育を取り巻く社会状況に関する一般的な知識を持つことができた。		○	○						○				○	○					○	6
14 国や地方公共団体の多文化共生及び国際協力、日本語教育に関する知識を持つことができた。		○	○						○			○	○	○					○	7
15 日本語教育プログラムのコースデザイン・カリキュラムデザインを理解できるようになった。									○	○	○	○								3
教育実践のための技能	16 目的・目標に沿った授業を計画することができるようになった。					○			○	○	○								4	
	17 学習者の日本語能力等に応じて教育内容・教授方法を選択することができるようになった。					○			○	○	○								4	
	18 学んだ知識を教育現場で実際に活用・具現化できる能力を身に付けることができた。									○	○								2	
	19 学習者に応じた教具・教材を活用できるようになった。									○	○								3	
	20 学習者に応じた教具・教材を作成できるようになった。									○	○								3	
	21 学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を身に付けることができた。			○				○	○	○	○	○							5	
	22 学習者に対する異文化間コミュニケーション能力を身に付けることができた。			○				○	○	○	○	○							5	
	23 授業や教材等を分析する能力を身に付けることができた。					○			○	○	○	○			○				5	
	24 教育活動を振り返り、改善を図ることができるようになった。					○				○	○								3	
	25 学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者の能力を適切に評価する能力を身に付けることができた。						○			○	○								3	
学習者の学ぶ力を促進する技能	26 学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者を指導する能力を身に付けることができた。					○				○	○								3	
	27 学習者が多様なリソースを活用できる教育実践を行う能力を身に付けることができた。									○	○								2	
	28 学習者の理解に応じて日本語をわかりやすくコントロールする能力を身に付けることができた。					○				○	○	○		○					5	
	29 学習者が日本語を使うことにより社会につながることを理解できるようになった。	○	○	○						○	○	○							6	
社会とつながる力を持つ技能	30 学習者が日本語を使うことにより社会につながることを意識し、教育実践に生かすことができるようになった。									○	○	○							3	
	31 日本語だけでなく多様な言語や文化に対して深い関心と鋭い言語感覚を持ち続けようとした。	○	○	○				○		○	○	○			○	○	○		10	
言語教育者としての態度	32 日本語そのものの知識だけでなく、歴史、文化、社会事象等、言語と切り離せない要素を合わせて理解し、教育実践に活かすことができるようになった。		○	○			○			○	○	○			○	○	○	○	10	
	33 日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱をもつようになった。	○	○					○		○	○								5	
	34 自身の実践を客観的に振り返り、常に学び続けようとするようになった。				○						○	○						○	4	
	35 言語・文化の相互尊重ができるようになった。	○	○	○				○		○	○	○		○	○	○	○		11	
学習者に対する態度	36 学習者の背景や現状を理解しようとするようになった。	○	○					○		○	○	○		○	○	○	○		10	
	37 指導する立場であることを常に自覚し、自身のものの見方を問い直そうとするようになった。		○					○		○	○	○		○	○	○	○		8	
	38 異なる文化や価値観に対する興味関心と広い受容力・柔軟性を持つようになった。	○	○	○				○		○	○	○	○	○		○	○	○	10	
文化多様性・社会性に対する態度	39 多様な関係者と連携・協力しようとするようになった。		○							○	○	○	○		○				5	
	40 日本社会・文化の伝統を大切にしようとなった。	○	○	○				○			○	○					○	○	8	
	41 学習者の言語・文化の多様性を尊重しようとなった。	○	○	○				○			○	○		○	○	○	○		10	
			12	18	13	12	3	22	12	35	40	20	5	10	12	13	15	6	41	

日本語教員養成課程科目シラバス

区分	科目名称
社会・文化・地域	日本語教育学概論
言語と社会	社会言語学・語用論
言語と心理	第二言語習得論
言語と教育	日本語教育方法論
	日本語教授法
	日本語教授法演習
	日本語教育実践
	異文化間教育論
言語	言語学概論
	日本語音声学・音韻論
	日本語の表記と語彙
	日本語教育文法論

日本語教員養成課程シラバス
2020（令和2）年度開講科目

科目名	日本語教育学概論		担当教員	西條 結人、富山 晴仁、 元木 佳江
ナンバリングコード	TJL50101			
単位数	2	開講時期	1年次・後期・月4	講義室
講義概要				
<p>本講義では、日本語教員養成課程のカリキュラムと教育内容を構成する3領域「社会・文化」「教育」「言語」を概観し、日本語教師としてどのような知識や心構えが必要なのか、文学部3学科での学びや強みを日本語教育分野にどのように生かすことができるのかについて考えられるようになることを目指します。学習内容は、日本語教育の歴史、日本語教育に関連する諸制度・試験、国内外の日本語教育の現状と課題等について学びます。また、日本語学習者や日本語を学ぶことの実際について体験的学習を通し理解を深めます。本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における教育内容「必須の教育内容」の「(4)日本語教育史」「(5)言語政策」「(6)日本語の試験」「(7)世界と日本の日本語教育事情」を含んでいます。</p>				
到達目標				
<p>(1) 「社会・文化」「教育」「言語」の3領域の基本的な知識を習得し、複数の視点から日本語教育をとらえることができる。</p> <p>(2) 文学部3学科での学びや強みを日本語教育にどのように生かすことができるのかについて考えることができる。</p>				
授業計画詳細				
各回のテーマと内容				
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション</p> <p>___ 【内容】日本語教育学概論について、日本語教育学とは【西條】</p> <p>【予習】日本語教員養成課程について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】日本語教員養成課程や日本語教育学について復習しておくこと（90分）</p> <p>2. 【テーマ】日本語教員とは</p> <p>___ 【内容】日本語教師の仕事と役割、キャリアイメージを考える【西條】</p> <p>【予習】日本語教員とはどんな職業なのか、事前に書籍や雑誌等で情報を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】日本語教員とはどんな職業なのかを理解しキャリアイメージについて具体化させておくこと（90分）</p> <p>3. 【テーマ】日本語学習者とは</p> <p>___ 【内容】国内の在留外国人の現状を把握したうえで、日本語学習者とはどのような人々か理解する【元木】</p> <p>【予習】ウェブサイト等で日本語学習者について調べておくこと（90分）</p> <p>【復習】在留外国人の状況と日本語学習者について理解しておくこと（90分）</p> <p>4. 【テーマ】日本語教育の現場と実際①</p> <p>___ 【内容】どこでどのような日本語教育が行われているのか【元木】</p> <p>【予習】ウェブサイト等で実際の日本語教室の様子を見ておくこと</p> <p>【復習】興味関心を持った日本語教室について詳しく調べておくこと</p> <p>5. 【テーマ】日本語教育の現場と実際②</p> <p>___ 【内容】日本語の教え方、学び方を考える【元木】</p> <p>【予習】どのような日本語の教え方、学び方があるか知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】日本語の教え方、学び方についての気づきをノート等にまとめておくこと（90分）</p>				

6. 【テーマ】日本語学と日本語教育

___ 【内容】日本語の知識は日本語教育にどのように生かされるのか【西條】

【予習】日本語学と日本語教育についてそのつながりを書籍等で学習しておくこと（90分）

【復習】日本語の知識が日本語教育にどのように生かされるのか理解しておくこと（90分）

7. 【テーマ】言語学と日本語教育

___ 【内容】世界の中の日本語【富山】

【予習】世界の言語について調べ、調べた言語についてその特徴を理解しておくこと（90分）

【復習】世界の中の日本語を理解し、他言語との違いを理解しておくこと（90分）

8. 【テーマ】心理と日本語教育

___ 【内容】日本語学習者の第二言語習得【富山】

【予習】ウェブサイト等を利用し、心理と日本語教育のつながりについて理解しておくこと（90分）

【復習】日本語学習者の第二言語習得について基本的な部分を十分理解しておくこと（90分）

9. 【テーマ】日本語教育の歴史と言語政策①

___ 【内容】近代以前の日本語教育【西條】

【予習】近代以前の日本史、世界史について整理をしておくこと（90分）

【復習】近代以前の日本語教育がどのように歩んできたのか十分理解しておくこと（90分）

10. 【テーマ】日本語教育の歴史と言語政策②

___ 【内容】近代以降の日本語教育【西條】

【予習】近代から現代までの日本史、世界史について整理をしておくこと（90分）

【復習】現代までの日本語教育がどのように歩んできたのか十分理解しておくこと（90分）

11. 【テーマ】国内の日本語教育事情①

___ 【内容】日本語教育と在留外国人政策・日本語試験【元木】

【予習】ウェブサイト等で国内の日本語教育事情について事前知識を得ておくこと（90分）

【復習】日本語教育と在留外国人政策・日本語試験について基本的な部分を十分理解しておくこと（90分）

12. 【テーマ】国内の日本語教育事情②

___ 【内容】日本語教育と日本の地域・学校【元木・学外講師】

【予習】ウェブサイト等で日本語教育と地域・学校教育のつながりを学習しておくこと（90分）

【復習】日本の地域・学校教育の現状を理解し、日本語教育とのつながりを理解しておくこと（90分）

13. 【テーマ】海外の日本語教育事情①

___ 【内容】海外日本語教師の仕事、海外日本語教師になるには【西條】

【予習】興味・関心のある国・地域について日本語教育事情を調べておくこと（90分）

【復習】海外日本語教師の仕事や役割、日本語教育事情について理解しておくこと（90分）

14. 【テーマ】海外の日本語教育事情②

___ 【内容】海外日本語教育の現状と課題（ケース・スタディ）【西條】

【予習】興味・関心のある国・地域について日本語教育の歴史や事情を調べておくこと（90分）

【復習】海外日本語教育の現状を踏まえ、海外日本語教師の役割について理解しておくこと（90分）

15. 【テーマ】まとめと総括

___ 【内容】これまでの学びや経験を振り返る【西條】

【予習】第1回から第14回までの内容を踏まえ、文学部3学科での学びをどのように生かすことができるかを考えておくこと（90分）

<p>【復習】自らが理想とする日本語教師になるためにどのような学びや経験が必要なのか整理すること（90分） ※クラスサイズや学生の興味・関心等に応じて内容を変更する場合があります。</p>
<p>成績評価方法</p>
<p>授業・課題に対する取り組み 40% 中間レポート 30% 学期末レポート 30% ※成績については絶対的相対評価システムを利用し、最終評価を行います。</p>
<p>再試の有無</p>
<p>有</p>
<p>事前学習 事後学習</p>
<p>大学図書館所蔵の文献やウェブサイト等を積極的に活用し予備知識を得てから講義に臨んでください。講義後には、教科書や配布資料等を見返す時間を確保して、内容の整理をするとともに自分なりの考えをまとめるようにしてください。</p>
<p>テキスト</p>
<p>(1) 高見澤孟ほか (2016) 『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』, アスク ISBN:978-4-87217-993-4 (2) 高見澤孟 (2016) 『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』, アスク ISBN:978-4-87217-994-1 (3) 四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会編 (2022) 『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ』 (PDF版 ※授業開始時にマナバコースで配布します)</p>
<p>参考文献</p>
<p>講義の中でそれぞれの担当教員から案内します。</p>
<p>オフィスアワー (授業相談)</p>
<p>西條 結人 (全学共通教育センター) : 木曜日 12:10~13:00 B214 研究室 富山 晴仁 (文学部国際文化学科) : 月曜日 12:10~13:00 L503 研究室 元木 佳江 (全学共通教育センター) : 木曜日 12:10~13:00 B211 研究室</p>
<p>学生へのメッセージ</p>
<p>日本語教員養成課程の最初の入門科目 (日本語教員養成課程必修科目) です。課程修了を目指す学生や日本語教師に関心のある学生はぜひ受講してください。</p>

科目名	社会言語学・語用論		担当教員	西條 結人
ナンバリングコード				
単位数	2	開講時期	4年次・前期・未定	講義室 未定
講義概要				
<p>本講義では、日本語母語話者や日本語学習者が行っている言語活動を「社会」という観点から見つめ直すことで、日本語の多様性および日本語の運用規則を学びます。世界や日本社会でのことばの多様性や言語運用の実例を踏まえ、社会とことばの関わり、言語の運用と日本語教育について考えることを目指します。なお、本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(8) 社会言語学」「(9)言語政策と『ことば』」「(10)コミュニケーションストラテジー」「(11) 待遇・敬意表現」「(12)言語・非言語行動」を含んでいます。</p>				
到達目標				
<p>(1) 言葉と社会のつながりを理解し、教師としての言語観の構築や日本語教育研究につなげることができる。</p> <p>(2) 発話が行われる文脈や状況を理解し、日本語教育とことばの運用について考えることができる。</p>				
授業計画詳細				
各回のテーマと内容				
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション ___ 【内容】社会言語学、語用論とは</p> <p>2. 【テーマ】社会言語学① ___ 【内容】ことばのバリエーション：「属性とことば」（性差・地域差・世代差）</p> <p>3. 【テーマ】社会言語学② ___ 【内容】ことばのバリエーション：「場面とことば」（スピーチレベルシフト、話し言葉と書き言葉）</p> <p>4. 【テーマ】社会言語学③ ___ 【内容】コミュニケーションの仕組み：言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>5. 【テーマ】社会言語学④ ___ 【内容】会話を分析する：トピック展開、あいづち、ターンテイキング</p> <p>6. 【テーマ】社会言語学⑤ ___ 【内容】言語接触と言語変容</p> <p>7. 【テーマ】社会言語学⑥ ___ 【内容】言語政策と「ことば」：国語政策と日本語政策</p> <p>8. 【テーマ】語用論① ___ 【内容】発話行為理論とその背景</p> <p>9. 【テーマ】語用論② ___ 【内容】会話の含意</p> <p>10. 【テーマ】語用論③ ___ 【内容】会話の協調原理</p> <p>11. 【テーマ】語用論④ ___ 【内容】ポライトネス理論</p> <p>12. 【テーマ】語用論⑤</p>				

<p>___ 【内容】 談話とポライトネス</p> <p>1 3. 【テーマ】 語用論⑥</p> <p>___ 【内容】 日本語学習者のポライトネスストラテジー</p> <p>1 4. 【テーマ】 学生による「言語と社会」に関する発表①</p> <p>___ 【内容】 属性とことば、場面とことば、言語・非言語コミュニケーション、会話の構造等</p> <p>1 5. 【テーマ】 学生による「言語と社会」に関する発表②</p> <p>___ 【内容】 発話行為理論、会話の含意、会話の協調原理、ポライトネス等</p> <p>※講義の進度、学生の興味・関心に応じて内容を変更することがあります。</p>
<p>成績評価方法</p>
<p>授業・課題に対する取り組み 40%</p> <p>小テスト 30%</p> <p>最終プレゼンテーション 30%</p> <p>※成績については絶対的相対評価システムを利用し、最終評価を行います。</p>
<p>再試の有無</p>
<p>有</p>
<p>事前学習</p> <p>事後学習</p>
<p>授業ではさまざまな観点から日本語を見つめ直します。観点別に理解するとともに、観点間の関係も意識して予習・復習を行ってください。</p> <p>大学図書館所蔵の文献やウェブサイト等を積極的に活用し予備知識を得てから講義に臨んでください。講義後には、教科書や配布資料等を見返す時間を確保して、内容の整理をするとともに自分なりの考えをまとめるようにしてください。</p>
<p>テキスト</p>
<p>テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。</p>
<p>参考文献</p>
<p>1) 真田信治編『社会言語学の展望』くろしお出版, 2006年</p> <p>2) 真田信治、朝日祥之、簡月真、李舜炯『社会言語学図集 日本語・英語・中国語・韓国語解説 新版』ひつじ書房, 2021年</p>
<p>オフィスアワー (授業相談)</p>
<p>西條 結人 (全学共通教育センター) : 木曜日 12:10~13:00 B214 研究室</p>
<p>学生へのメッセージ</p>
<p>日本語教員養成課程修了を目指す学生や日本語教育に関心のある学生はぜひ受講してください。</p>

科目名	第二言語習得論		担当教員	富山 晴仁
科目コード				
単位数	2	開講時期	3年次・前期	講義室
講義概要				
<p>日本語教育の観点から第二言語習得論を考察していきます。教育現場での実践の基盤となるよう、正確な理論の理解をしてもらいます。</p> <p>本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における教育内容の「(14)談話理解」「(15)言語学習」「(16)習得過程(第一・第二言語)」「(17)学習ストラテジー」「(29)中間言語分析」を含んでいます。</p>				
到達目標				
<p>(1) 第二言語習得論に関する歴史や理論を理解する。</p> <p>(2) 第二言語習得論に基づいた指導法を理解し習得する。</p>				
授業計画詳細				
各回のテーマと内容				
<p>1. オリエンテーション</p> <p>【予習】日本語教育における「第二言語習得」に関して調べておくこと（90分）</p> <p>【復習】第二言語習得に関する考え方を確認しておくこと（90分）</p> <p>2. 二つの言語習得観と言語転移のとらえ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ L1 習得と L2 習得・生得主義と創発主義・生得主義と普遍文法・創発主義と用法基盤モデル ・ 言語転移の変遷 <p>【予習】次回の授業範囲の用語を調べておくこと（90分）</p> <p>【復習】前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分）</p> <p>3. 「エラー」のとらえ方の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違いは避けるべきものなのか・エラーは徐々に減るのか・誤用分析 - エラーから考えてみよう ・ 中間言語研究 - L2 使用者独自の言語体系・中間言語研究を超えて - エラーから NTL へ <p>【予習】次回の授業範囲の用語を調べておくこと（90分）</p> <p>【復習】前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分）</p> <p>4. SLA の認知プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ L2 習得のプロセス・インプットの必要性・インターアクションの有用性・アウトプットの重要性 <p>【予習】次回の授業範囲の用語を調べておくこと（90分）</p> <p>【復習】前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分）</p> <p>5. 個人差が SLA に与える影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ L2 習得における個人差・言語適性・動機づけ・動機づけの減退と動機づけストラテジー ・ 学習ストラテジーと自己調整学習 <p>【予習】次回の授業範囲の用語を調べておくこと（90分）</p> <p>【復習】前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分）</p> <p>6. SLA の環境と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境と教室環境におけるインプットとアウトプット・留学という環境 				

・教室環境における文法指導の効果・教師の役割とこれからの学習環境

【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

7. 社会とつながる SLA 研究

・多言語多文化化する日本と言語サービス・日本語習得の落とし穴

・L1 日本語使用者と L2 日本語使用者と言う関係性

【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

8. CLD 児の言語習得

・文化的言語的に多様な子ども(CLD 児)とは・CLD 児の L2 習得と年齢との関係

・CLD 児の L2 習慣の目的と言語能力のとらえ方・CLD 児にとって母語とは・CLD 児の母語と L2 の関係

【予習】 前半の授業内容を復習しておくこと (90分)

【復習】 前半授業内容に係るテストを実施するので学習しておくこと (90分)

9. CLD 児への教育と支援

・日本国内の CLD 児を取り巻く現状と課題・CLD 児のための国の教育政策

・学校での CLD 児の受け入れ態勢・教育、支援につなげるための CLD 児の状況把握

・CLD 児への日本語指導

【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

10. SLA 研究に基づく日本語指導 (1)

・コミュニケーション能力とは?・外国語の指導方法はどう変わってきたか

・フォーカスオンフォームとは・習得に効果的な訂正フィードバックとは

【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

11. SLA に基づく日本語指導 (2)

・SLA 研究による理論に指示される指導法・TBLT とは?・CLIL とは?

【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

12. SLA と評価

・なぜ評価するのか・なにを評価するのか・どう評価するのか・L2 使用者による評価

【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

13. SLA 研究の方法 (1)

・身近の疑問から始めてみよう・先行研究を調べてみよう・研究計画の問題点を考えてみよう

・調査計画を立ててみよう・調査方法の工夫

【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

14. SLA 研究の方法 (2)

・リサーチクエスション(RQ)を立ててみよう・研究方法について考えてみよう・研究方法のアプローチ

・結果と考察・研究の成果をシェアしよう

<p>【予習】 次回の授業範囲の用語を調べておくこと (90分)</p> <p>【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)</p> <p>15. 総括</p> <p>【予習】 テキストやノートをよく読み返しておくこと (90分)</p> <p>【復習】 理解が不確かなところを確かめておくこと (90分)</p>
成績評価方法
<p>小テスト：40%</p> <p>学期末試験：60%</p>
再試の有無
有
事前学習 事後学習
<p>事前学習：用語の理解が大切なので、辞典等で調べておくこと</p> <p>事後学習：理解できたところ、理解が不十分なところを明確にしておくこと</p>
テキスト
・奥野由紀子（他）（2021）『超基礎第二言語習得研究 SLA』、くろしお出版
参考文献
<p>・迫田久美子（2020）『日本語教育に生かす第二言語習得研究』、株式会社アルク</p> <p>・大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』、くろしお出版</p>
オフィスアワー（授業相談）
月曜日 12:10～13:00 L503 研究室
学生へのメッセージ
日本語教員養成科目として開設されていることから、日本語教員養成課程修了を目指す学生、及び日本語教員に興味・関心の高い学生の受講が望ましい。

科目名	日本語教育方法論			担当教員	元木 佳江
科目コード					
単位数	2	開講時期	3年次・前期・水4	講義室	
講義概要					
<p>本講義では、日本語教師に求められる資質、能力とはどのようなものかについて確認をし、日本語教師の役割について自らの考えを深めながら、日本語教育プログラム全般の理解、実践を行う上で必要となる教室・言語環境の設定、コースデザインを学ぶ。また、授業見学や授業参加を通し、日本語教育に関する技術を観察し、後期の授業見学の基礎的技能を身に付ける。さらに、授業で取り入れるアクティブラーニングは、課題に対する自己解決能力を養うものであるとともに、日本語教育の方法に援用できる活動となる。</p> <p>本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(20)日本語教師の資質・能力」「(21)日本語教育プログラムの理解と実践」「(22)教室・言語環境の設定」「(23)コースデザイン」「(31)目的・対象者別日本語教育法」を含んでいる。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教師に求められる資質や能力を理解し、日本語教師の役割について考えることができる。 2. 日本語教育プログラム全般について理解し、日本語教育に関する基礎的知識を習得する。 3. 教室環境・言語環境の設定、コースデザインについて理解し、授業の流れを考えることができる。 4. 目的や対象者別の日本語教育法について理解し、実践につなげる基礎力を身に付ける。 5. これからの日本語教師に求められるものについて、自らの考えを持つことができる。 					
授業計画詳細					
各回のテーマと内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 【テーマ】オリエンテーション／日本語教育とは（第1章） ____ 【内容】日本語教育と国語教育、英語教育との相違点から日本語教育の特徴を知る。 【予習】シラバスを読んでおく。テキストの「はじめに」に目を通しておく（90分） 【復習】「良い言語教育」とはどのようなものかについて自らの考えをまとめておく（90分） 2. 【テーマ】日本語学習者とは（第2章） ____ 【内容】目的、対象が異なる多様な日本語学習者についての理解と、それぞれの学習者が必要とする日本語教育とはどのようなものかについて考える。 【予習】留学生、生活者、技能実習生、外国人児童生徒の状況を調べておく（90分） 【復習】対象者別の日本語教育プログラムについてまとめ、関連するプログラムを調べる。（90分） 3. 【テーマ】日本語教師とは（第3章） ____ 【内容】日本語教師に求められる資質・能力の理解と、日本語教師になるための資格、職場、将来性について考える。 【予習】資料『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』に目を通しておく（90分） 【復習】日本語教師が活躍できる職場について調べ、まとめておく。（90分） 4. 【テーマ】日本語能力の測定と試験（第4章） ____ 【内容】日本語能力を測定する試験について学ぶ。 【予習】日本語能力試験と日本留学試験について調べておく（90分） 					

【復習】日本語能力を測定する試験にはどのようなものがあるかまとめておく (90分)

5. 【テーマ】コースデザイン① (第5章)

___ 【内容】コースデザイン、ニーズ、レディネス、実施機関、コースの目標、評価方法について学ぶ。

【予習】コースデザインについて、配布資料に目を通しておく。(90分)

【復習】指定されたテーマに沿ったコースデザインについてまとめる (90分)

6. 【テーマ】さまざまな教授法 (第6章)

___ 【内容】さまざまな教授法を概観し、その背景にある言語学習観を理解する。

【予習】今までの外国語学習を振り返り、教授法について考えておく。(90分)

【復習】言語学習館について授業で学んだことをまとめておく。(90分)

7. 【テーマ】学習レベルと教材教具① (第7章)

___ 【内容】『NIJ テーマで学ぶ中級日本語』の学習プログラムと指導方法について学ぶ。

【予習】日本語学習教材『NIJ テーマで学ぶ中級日本語』に目を通しておく (90分)

【復習】日本語学習教材『NIJ テーマで学ぶ中級日本語』の構成を調べまとめておく (90分)

8. 【テーマ】授業見学

___ 【内容】留学生の授業を見学し、表現活動中心の日本語学習について理解を深める。

第9回、第10回の授業参加の準備を行う。

【予習】『NIJ テーマで学ぶ中級日本語』Unit1～Unit6の会話パートに目を通しておく (90分)

【復習】授業見学で気づいた点をまとめておく (90分)

9. 【テーマ】授業参加と学習者理解①/ティーチャートークとやさしい日本語 (第9章)

___ 【内容】教師と学習者のやり取りを通して、日本語を効果的に習得するための支援について考える。

【予習】『NIJ テーマで学ぶ中級日本語』Unit7のエッセイを書いて、どのような言葉遣いを用いると効果的か考え、エッセイ交換の準備をしておく (90分)

【復習】授業参加を振り返り、日本語学習を支援するとはどういうことか考えをまとめておく (90分)

10. 【テーマ】授業参加と学習者理解②/教室でのやり取りと学習者へのフィードバック (第10章)

___ 【内容】教室における教師のパフォーマンス (インターアクション、訂正フィードバック、アップテイクなど) について学ぶ

【予習】テキストの指定されたページに目を通しておく (90分)

【復習】授業で学んだことについてまとめ、課題に取り組む (90分)

11. 【テーマ】授業見学の観察ポイント (第12章)

___ 【内容】これまでの学習や体験活動を通して、授業観察ポイントについて考える。

【予習】授業見学や参加を振り返り、観察でどのようなポイントが重要かを考えておく (90分)

【復習】観察シートをまとめておく (90分)

12. 【テーマ】授業の流れを考える① (第11章)

___ 【内容】教案の書き方/「文型ベース」と「タスクベース」の教案について考える。

【予習】様々な対象者に対する日本語教育の情報をインターネットなどで調べておく (90分)

【復習】授業で学んだことをまとめておく (90分)

13. 【テーマ】授業の流れを考える② (第11章)

___ 【内容】「テーマ中心の表現活動」の授業の流れについて学ぶ

【予習】配布プリントに目を通し、授業を受けるためにどのような準備が必要かを考えておく (90分)

【復習】授業で示された課題 (発表) の準備をしておく (90分)

<p>1 4. 【テーマ】 学習レベルと教材教具② (第 7 章)</p> <p>___ 【内容】 CLIL (内容・言語統合型教授法) について調べたことを共有し、実践方法について学ぶ。 レベルや目的に合わせた教材選択について学ぶ。</p> <p>【予習】 CLIL の実践例について調べておく (90 分)</p> <p>【復習】 CLIL 言語学習観についてまとめておく (90 分)</p> <p>1 5. 【テーマ】 まとめ (第 15 章)</p> <p>___ 【内容】 授業で学んだことを振り返り、これからの日本語教育に求められる日本語教師像を描くとともに、日本語教育の知識を今後どのように生かしていくか考える。</p> <p>【予習】 『四国大学日本語教員養成ガイドブック』 第 5 章に目を通しておく 講義全体を振り返るための資料を整えておく (90 分)</p> <p>【復習】 学んだことを振り返り、課題に取り組む (90 分)</p> <p>※授業内容は学生の興味関心により変更することがあります。</p> <p>※授業見学、授業参加の実施回は、履修者数など状況によって変更することがあります。</p>
成績評価方法
<p>授業に対する取り組み姿勢 30%</p> <p>テーマ別課題 40% (日本語教育の基礎的知識に関する課題 10%、日本語教育の技術に関する課題 30%)</p> <p>期末レポート 30%、</p>
再試の有無
有
事前学習 事後学習
<p>事前学習：指定されたテキストのページや資料に目を通し、既習の知識と関連付けをしておく。</p> <p>事後学習：新たに学んだことを振り返り、交流活動や授業実践にどのように生かすことができるか関連付けて考える。</p>
テキスト
<p>(1) 森篤嗣他 (2019) 『超基礎・日本語教育』 くろしお出版 ISBN: 9784874248034</p> <p>(2) 四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会編 (2022) 『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ』 (PDF 版 ※授業開始時にマナバコースで配布します)</p>
参考文献
<p>高見澤猛(2016) 『新・はじめての日本語教育 2 [増補改訂版] 日本語教授法入門』 アスク出版</p> <p>その他、適宜授業で紹介します。</p>
オフィスアワー (授業相談)
毎週木曜日 12:10~13:00
学生へのメッセージ
<p>日本語教員養成科目として開講されていることから、日本語教員養成課程修了を目指す学生、及び日本語教員に興味・関心の高い学生の受講が望ましい。</p>

科目名	日本語教授法			担当教員	城本 春佳
科目コード					
単位数	2	開講時期	3年次・後期	講義室	
講義概要					
<p>本講義では、まず外国語教授法について、日本語教育との関りから史的変遷に沿って概観し、その背景や特徴について学ぶ。そして、実際の授業や授業映像を見て、どのような教授法やテクニックが使われているのかを分析する。更に、目的に合った教材のあり方や評価方法を学び、実際に自分たちで教材や試験問題を作ってみる。また、日本語学習者が用いる中間言語がどのようなものであるのか。その特徴を学び、学習者の作文を分析する。</p> <p>本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(24) 教授法」「(25) 教材分析・作成・開発」「(26) 評価法」「(29)中間言語分析」を含んでいる。</p>					
到達目標					
<p>(1) 様々な教授法の特徴を理解し、学習者の特性や目的に応じて、適切な教授法を選択することができるようになる。</p> <p>(2) 目的に応じた教材を選択したり、自ら作成したりできるようになる。</p> <p>(3) 目的に応じた評価法を選択し、試験を作成することができる。</p> <p>(4) 日本語学習者の用いる中間言語を正しく分析することができる。</p>					
授業計画詳細					
各回のテーマと内容					
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション</p> <p>【内容】日本語を教える方法（＝教授法）にはどのようなものがあるのかを考える</p> <p>【予習】テキストの第5章を読んでおく（90分）</p> <p>【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む（90分）</p> <p>2. 【テーマ】教授法①</p> <p>【内容】直接法、オーディオ・リンガル法、コミュニカティブ・アプローチ、TPR、サイレント・ウェイの特徴について学ぶ。</p> <p>【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む（90分）</p> <p>【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む（90分）</p> <p>3. 【テーマ】教授法②</p> <p>【内容】CLL、ナチュラル・アプローチ、サジェストペディア、その他の教授法の特徴について学ぶ。</p> <p>【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む（90分）</p> <p>【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む（90分）</p> <p>4. 【テーマ】初級の教え方①</p> <p>【内容】課の目的理解、語彙・文法項目の指導、会話やその他の練習の指導方法について学ぶ。</p> <p>【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む（90分）</p> <p>【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む（90分）</p> <p>5. 【テーマ】初級の教え方②</p>					

【内容】文字教育の方法について学ぶ。

【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む(90分)

【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む(90分)

6. 【テーマ】中上級の教え方

【内容】コミュニケーション能力を育てる指導の方法、読解教育の方法について学ぶ。

【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む(90分)

【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む(90分)

7. 【テーマ】授業見学

【内容】本学の留学生の日本語授業を見学し、振り返りを行う

【予習】授業見学で見るべきポイントについてまとめておく(90分)

【復習】授業を見学し、学んだことをまとめる(90分)

8. 【テーマ】教材分析①

【内容】既存の教科書の比較・分析を行い、目的に合わせた適切な教科書の選び方を考える。

【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む(90分)

【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む(90分)

9. 【テーマ】教材分析②

【内容】副教材にはどのようなものがあるのかを知り、実際に使ってみる。

【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む(90分)

【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む(90分)

10. 【テーマ】教室活動と教材作成

【内容】実際の教室活動を想定して、教材を作ってみる。

【予習】教材を作成し、授業で発表する準備を行う(90分)

【復習】授業中の指摘を受けて、自分が作成した教材を改善する(90分)

11. 【テーマ】評価法

【内容】様々な評価方法について学び、妥当な評価のありかたを考える。

【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む(90分)

【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む(90分)

12. 【テーマ】試験①

【内容】既存の試験(JLPT, EJU, OPIなど)にどのようなものがあるのかを知る。また、様々なテストの形式、問題作成の方法について学ぶ。

【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む(90分)

【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む(90分)

13. 【テーマ】試験②

【内容】実際に試験問題を作り、妥当な評価ができるものであるか検討する。

【予習】試験問題を作成し、授業で発表する準備を行う(90分)

【復習】授業中の指摘を受けて、自分が作成した試験問題を改善する(90分)

14. 【テーマ】中間言語分析

【内容】中間言語の特徴を学び、学習者の作文を分析する。

【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む(90分)

【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む(90分)

<p>15. 【テーマ】まとめ</p> <p>【内容】本講義の学習内容の総まとめを行う。</p> <p>【予習】テキストの該当箇所を読み、manaba上の予習課題に取り組む（90分）</p> <p>【復習】学習内容を振り返り、manaba上の復習課題に取り組む（90分）</p> <p>※講義の進度、学生の興味・関心に応じて内容を変更することがあります。</p>
成績評価方法
<p>授業・課題に対する取り組み 40%</p> <p>中間レポート 30%</p> <p>筆記試験（確認テスト） 30%</p>
再試の有無
有
事前学習 事後学習
事前学習として、毎回授業で扱う範囲のテキストを読んできてもらうこと。また事後学習として、授業内容の理解度を確認する課題を課す。
テキスト
<p>小林ミナ（2019）『日本語教育 よくわかる教授法』アルク 978-4-7574-3317-5</p> <p>高見澤猛（2016）『新・はじめての日本語教育2 [増補改訂版] 日本語教授法入門』アスク出版 978-4-87217-994-1</p>
参考文献
鎌田修・川口義一・鈴木睦（2007）『日本語教授法ワークショップ 増補版』凡人社
オフィスアワー（授業相談）
学生へのメッセージ
日本語教員養成科目として開設されていることから、日本教員養成課程修了を目指す学生、及び日本語教育に興味・関心の高い学生の受講が望ましい。

日本語教員養成課程シラバス
2023（令和5）年度開講科目

科目名	日本語教授法演習			担当教員	元木 佳江
科目コード					
単位数	2	開講時期	4年次・前期	講義室	
講義概要					
<p>本講義では、日本語教授法の基礎知識を踏まえたうえで授業計画を立て、授業見学や授業体験などを通して授業分析および自己点検能力を養い、日本語教師【養成】に求められる資質・能力に必要とされる技能および態度を身につける。本講座では、特に初級の学習者に対する教授実践力を育成する。昨今注目されている ICT 活用した日本語教育についても触れる。なお、本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(27) 授業計画」「(30) 授業分析・自己点検能力」「(35) 日本語教育と ICT」を含んでいる。</p>					
到達目標					
<p>(1) 授業目的、授業評価を明確にした授業計画を立てることができる (2) 授業分析を行う視点を養い、自己点検能力を身につけることができる (3) ICTを活用した授業設計ができる</p>					
授業計画詳細					
各回のテーマと内容					
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション —— 【内容】日本語教育方法論、日本語教授法を踏まえ、本科の目的を確認する</p> <p>2. 【テーマ】初級学習者に対する授業① —— 【内容】授業の大きな流れを考える／授業分析・自己点検能力について学ぶ</p> <p>3. 【テーマ】初級学習者に対する授業②「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業の準備、授業設計、教材作成</p> <p>4. 【テーマ】初級学習者に対する授業③「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業 A-① 名詞文</p> <p>5. 【テーマ】初級学習者に対する授業④「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業 A-② 動詞文</p> <p>6. 【テーマ】初級学習者に対する授業⑤「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業 A-③ 形容詞文</p> <p>7. 【テーマ】初級学習者に対する授業⑥「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業 A-④ 普通形</p> <p>8. 【テーマ】初級学習者に対する授業⑦「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業 A-⑤ 授受動詞</p> <p>9. 【テーマ】初級学習者に対する授業⑧「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業 A-⑥ は～が構文</p> <p>10. 【テーマ】初級学習者に対する授業⑨「文型ベース」の授業 —— 【内容】模擬授業を振り返り、授業分析、自己点検を行う</p> <p>11. 【テーマ】初中級学習者に対する授業①「タスクベース」の授業</p>					

<p>___ 【内容】 授業計画を立てる (グループ)</p> <p>1 2. 【テーマ】 初中級学習者に対する授業②「タスクベース」の授業</p> <p>___ 【内容】 「タスクベース」の授業計画を発表する</p> <p>1 3. 【テーマ】 初中級学習者に対する授業③「タスクベース」の授業</p> <p>___ 【内容】 模擬授業 B</p> <p>1 4. 【テーマ】 ICT を活用した授業</p> <p>___ 【内容】 ICT 活用の「理論」「実践例」「ツール・コンテンツ」について学ぶ</p> <p>1 5. 【テーマ】 日本語能力試験に関する授業</p> <p>___ 【内容】 日本語能力試験の概要と対策授業について考える</p> <p>※講義の進度、学生の興味・関心に応じて内容を変更することがあります。</p>
成績評価方法
授業に対する取り組み姿勢 30%、課題への取り組み 30%、レポート 40%
再試の有無
無
事前学習：指定されたテキストのページや資料に目を通し、既習の知識と関連付けをしておく。 事後学習：新たに学んだことを振り返り、授業実践にどのように生かすことができるか関連付けて考える。
テキスト
授業で適宜配布する
参考文献
河野俊之・橋本ゆかり(2016)『教えよう日本語ー考え続ける日本語教師になるためのタスク』凡人社 高見澤猛(2016)『新・はじめての日本語教育2 [増補改訂版] 日本語教授法入門』、アスク出版 五味政信・石黒圭編著(2016)『心ときめくオキテ破りの日本語教授法』くろしお出版
事前学習：指定されたテキストのページや資料に目を通し、既習の知識と関連付けをしておく。 事後学習：新たに学んだことを振り返り、交流活動や授業実践にどのように生かすことができるか関連付けて考える。
オフィスアワー (授業相談)
毎週木曜日 12:10~13:00 B211
学生へのメッセージ
本科目は、4年次開講の「日本語教育実践」とかかわりが深いため、履修要綱「日本語教員養成課程」の「日本語教育実践について」の要件を満たした学生の受講が望ましい。

日本語教員養成課程シラバス
2023（令和5）年度開講科目

科目名	日本語教育実践			担当教員	元木・城本・西條
科目コード					
単位数	2	開講時期	4年次・通年	講義室	
講義概要					
<p>本講義では、日本語教師【養成】に求められる資質・能力に必要な技能および態度を習得するため日本語教育機関において実習を行う。実習にあたっては、学内ガイダンスを受けたのち実習先への挨拶を行い、授業見学、授業準備、模擬授業を経て教壇実習を行う。実習後は振り返りを行い、自己点検力を養うことで、実際の教育現場で培われる技能の基礎的実践力を身につける。実習は、学科別に自分たちで企画したクラス活動、及び対象者別クラスの2種類を実践する。なお、本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(28) 教育実習」「(47) 言語運用能力」「(50) 異文化間調整力」を含んでいる。</p>					
到達目標					
<p>(1) 日本語教育プログラムのコースデザイン・カリキュラムデザインを踏まえ、目的・目標に沿った授業を計画することができる。</p> <p>(2) 学習者に応じた教具・教材を活用または作成し、教育実践に生かすことができる。</p> <p>(3) 学習者の能力を適切に評価し、学習者の理解に応じて日本語をわかりやすくコントロールすることができる。</p> <p>(4) 自らの授業をはじめとする教育活動を振り返り、改善を図ることができる。</p>					
授業計画詳細					
各回のテーマと内容					
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション ___ 【内容】授業概要、教育実習全体の目的理解と内容理解、授業見学について</p> <p>2. 【テーマ】教授実践 A [学科別の企画] ① ___ 【内容】授業見学・学習者理解</p> <p>3. 【テーマ】教授実践 A [学科別の企画] ② ___ 【内容】授業内容の企画・立案（教案・教材作成）</p> <p>4. 【テーマ】教授実践 A [学科別の企画] ③ ___ 【内容】模擬授業及び振り返り</p> <p>5. 【テーマ】教授実践 A [学科別の企画] ④ ___ 【内容】教壇実習及び振り返り(1)</p> <p>6. 【テーマ】教授実践 A [学科別の企画] ⑤ ___ 【内容】教壇実習及び振り返り(2)</p> <p>7. 【テーマ】教授実践 A [学科別の企画] ⑥ ___ 【内容】教壇実習及び振り返り(3)</p> <p>8. 【テーマ】教授実践 B [対象者別] ① ___ 【内容】対象者別授業オリエンテーション・授業見学</p> <p>9. 【テーマ】教授実践 B [対象者別] ② ___ 【内容】授業実践に向けた指導項目の分析</p>					

<p>1 0. 【テーマ】 教授実践 B [対象者別] ③ _____ 【内容】 授業実践に向けた教案・教材の作成</p> <p>1 1. 【テーマ】 教授実践 B [対象者別] ④ _____ 【内容】 模擬授業及び振り返り</p> <p>1 2. 【テーマ】 教授実践 B [対象者別の] ⑤ _____ 【内容】 教壇実習及び振り返り(1)</p> <p>1 3. 【テーマ】 教授実践 B [対象者別の実践] ⑥ _____ 【内容】 教壇実習及び振り返り(2)</p> <p>1 4. 【テーマ】 教授実践 B [対象者別の実践] ⑦ _____ 【内容】 教壇実習及び振り返り(3)</p> <p>1 5. 【テーマ】 実践報告会 _____ 【内容】 教育実習全体としての振り返り</p>
成績評価方法
<p>授業実践：40% 取り組みの姿勢：30% 振り返りレポート：30%</p>
再試の有無
なし
事前学習 事後学習
<p>事前学習：指定された資料の熟読、教案・教材作成等 事後学習：振り返りレポート等</p>
テキスト
高見澤猛（2016）『新・はじめての日本語教育 2 [増補改訂版] 日本語教授法入門』アスク出版
参考文献
<p>河野俊之・橋本ゆかり(2016)『教えよう日本語－考え続ける日本語教師になるためのタスク－』凡人社 森篤嗣他(2019)『超基礎・日本語教育』くろしお出版</p>
オフィスアワー（授業相談）
<p>城本春佳 元木佳江 西條結人</p>
学生へのメッセージ
<p>本科目は、履修要綱「日本語教員養成課程」の「日本語教育実践について」の要件を満たした者が受講できる。</p>

科目名	異文化間教育論			担当教員	四宮（15） 元木（9）
科目コード				講義室	
単位数	2	開講時期	3年次・後期	講義室	
講義概要					
<p>本講義では、異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を習得するとともに、言語・文化の相互尊重を前提として学習者の背景や現状を理解しようとする能力を養う。なお、本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(13) 多文化・多言語主義」「(32)異文化間教育」「(33)異文化コミュニケーション」「(34) コミュニケーション教育」を含んでいる。</p>					
到達目標					
<p>(1) 異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を習得する (2) 言語・文化の相互尊重を前提として、学習者の背景や現状を理解しようとする態度を身につける (3) 学習者に対する実践的なコミュニケーション能力・異文化コミュニケーション能力を身につける</p>					
授業計画詳細					
各回のテーマと内容					
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション（元木・四宮） ——【内容】講義の概要、進め方、成績評価について説明する。異文化間教育とは 【予習】シラバス、テキストの第一章を読んでおく（90分） 【復習】キーワードを再確認し、理解しておく（90分）</p> <p>2. 【テーマ】異文化理解とは（四宮） ——【内容】文化、異文化理解とはどのようなことか考える（90分） 【予習】テキストの第二章を読んでおく（90分） 【復習】キーワードを再確認し、理解しておく（90分）</p> <p>3. 【テーマ】コミュニケーションスタイル（四宮） ——【内容】コミュニケーションスタイルがどのようなもので形成されているか学ぶ 【予習】テキストの第三章を読んでおく（90分） 【復習】キーワードを再確認し、理解しておく（90分）</p> <p>4. 【テーマ】自分をふりかえる（四宮） ——【内容】チェックシートを使って自分自身を客観視し、見つめなおす 【予習】テキストの第四章を読んでおく（90分） 【復習】キーワードを再確認し、理解しておく（90分）</p> <p>5. 【テーマ】言語コミュニケーション（四宮） ——【内容】日本と他国等との言語コミュニケーションの違いや特徴について考える 【予習】テキストの第五章を読んでおく（90分） 【復習】授業で学んだことをもとに外国人とコミュニケーションしたり観察したりしてみる（90分）</p> <p>6. 【テーマ】非言語コミュニケーション（四宮） ——【内容】日本と他国等との非言語コミュニケーションの違いや特徴について考える 【予習】テキストの第六章を読んでおく（90分）</p>					

- 【復習】授業で学んだことをもとに外国人とコミュニケーションしたり観察したりしてみる（90分）
7. 【テーマ】異文化コミュニケーションスキル、確認テスト（記述試験）（四宮）
 ____ 【内容】コミュニケーションスキルについて活動を通して学ぶ。これまでの学習確認テストを行う
 【予習】テキストの第七章を読んでおく。テストに向けてこれまでの学習を復習しておく。自分の異文化体験を振り返って説明できるようにしておく（120分）
 【復習】キーワードを再確認し、理解しておく。授業で学んだことをもとに実践してみる（90分）
8. 【テーマ】「やさしい日本語」と多文化共生社会／体験型学習の説明（元木・四宮）
 ____ 【内容】多文化共生社会における共通言語としての「やさしい日本語」使用について考える。
 9回～11回「体験型学習」の説明を聞き、グループで活動テーマを考える。
 【予習】「やさしい日本語」に関する資料・動画に目を通しておく。（90分）
 【復習】授業で学んだことをもとに「やさしい日本語」への言い換えについて復習しておく（90分）
9. 【テーマ】体験型学習① 企画（元木・四宮）
 ____ 【内容】在住外国人に対するアンケート調査のテーマに沿った質問を考え、調査用紙を作成する。
 【予習】アンケート調査のテーマと内容について考えておく。（90分）
 【復習】アンケート調査を行い、データをまとめる（90分）
10. 【テーマ】体験型学習② 実践（元木・四宮）
 ____ 【内容】アンケート調査のまとめ。発表の準備。
 【予習】アンケート調査を行い、データをまとめておく。（120分）
 【復習】アンケート調査の発表資料を完成させ、発表の練習をしておく。（90分）
11. 【テーマ】体験型学習③ まとめと振り返り（元木・四宮）
 ____ 【内容】発表・交流・振り返り
 【予習】グループで発表の練習をしておく。（90分）
 【復習】各グループの発表を振り返り、体験学習で学んだことをレポートにまとめる。（90分）
12. 多文化社会と異文化間教育①多文化共生と人権（元木・四宮・ゲストスピーカー）
 ____ 【内容】「レヌカの学び」から自分の中の異文化に出会う
 【予習】教師から提示された教材・資料に目を通しておく。（90分）
 【復習】授業で学んだことを振り返り、まとめておく。（90分）
13. 【テーマ】多文化社会と異文化間教育②当事者の声（元木・四宮・ゲストスピーカー）
 ____ 【内容】在住外国人の話聞き、異文化理解を深める。
 【予習】教師から提示された教材・資料に目を通しておく。（90分）
 【復習】授業で学んだことを振り返り、まとめておく。（90分）
14. 【テーマ】多文化社会と異文化間教育③ケーススタディ（元木・四宮・ゲストスピーカー）
 ____ 【内容】様々な事例から多文化共生社会における課題を共有する
 【予習】教師から提示された教材・資料に目を通しておく。（90分）
 【復習】授業で学んだことを振り返り、まとめておく。（90分）
15. 【テーマ】多文化社会と異文化間教育④ まとめ（元木・四宮・ゲストスピーカー）
 ____ 【内容】これからの社会に求められる異文化間教育について考える
 【予習】12回～13回の授業で学んだことをまとめておく。（90分）
 【復習】授業で学んだことを振り返り、課題に取り組む。（90分）
- ※12回目～15回目の授業は集中講義で行う予定です。

※授業の内容は、ゲストスピーカーにより変更になる場合があります。
成績評価方法
授業の取り組み姿勢 20%、課題への取り組み 20% 記述試験 20%、発表10%、レポート30% (体験型学習 10・集中講義 20)
再試の有無
あり
事前学習・事後学習
事前学習：教師から示された課題について取り組む 事後学習：学習した内容を振り返り、まとめておく。
テキスト
八代京子・世良時子 (2010) 『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』三修社
参考文献
嶋田和子 (2021) 『外国にルーツを持つ女性たち 彼女たちの「こころの声」を聴こう』ココ出版 土橋泰子 (2004) 『レヌカの学び』開発教育協会
オフィスアワー (授業相談)
四宮可苗 授業の前後 元木佳江 水曜日 12:10~13:00
学生へのメッセージ
本科目は日本語教員養成課程の必修科目として開講されているため、日本語教員養成課程修了を目指す学生は必ず受講すること。日本語教育や異文化理解に興味関心の高い学生の受講も可能である。

科目名	言語学概論		担当教員	富山 晴仁
科目コード				
単位数	2	開講時期	2年次・前期	講義室
講義概要				
<p>本講義では、日本語を外国語として教えるために必要とされる言語学の基礎分野について概観することを目的とします。発音や文法、文化的背景に基づく言語使用の特徴などについて日本語学習者に分かりやすく説明するため、他言語とも比較しつつ、日本語を客観的に捉えるための視点を養います。なお、本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(37) 一般言語学」「(38) 対照言語学」「(39) 日本語教育のための日本語分析」を含んでいます。</p>				
到達目標				
<p>(1) 言語学の基礎分野について説明できる。 (2) 日本語の発音や文法、言語使用の特徴について具体例を示しながら説明できる。</p>				
授業計画詳細				
各回のテーマと内容				
<p>1. オリエンテーション、「言語学」とはどのような学問なのか 2. 言語学の歴史 ○言語に対する様々な考え方を知ろう 【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと（90分） 【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分） 3. 言語学の基礎知識 ○ソシユール言語学の基本概念を理解しよう 【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと（90分） 【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分） 4. 言語の機能 ○言語に関するさまざまな働きを知ろう 【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと（90分） 【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分） 5. 形態論（1）形態素、語構成 ○語彙的形態素と文法的形態素、自由形態素と拘束形態素を区別しよう 【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと（90分） 【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分） 6. 形態論（2）日本語述語の活用など ○語幹と語尾に分けてみよう 【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと（90分） 【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと（90分） 7. 統語論（1）直接構成素分析（IC分析） ○ツリーを書いてみよう</p>				

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

8. 統語論 (2) チョムスキーの言語理論

○句構造規則に基づいてツリーを書いてみよう

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

9. 意味論 (1) 語の意味、句の意味

○包摂関係を考えてみよう

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

10. 意味論 (2) 文の意味など

○命題、前提、含意を見分けよう

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

11. 語用論 (1) コンテキスト、結束性と統合性

○結束性と統合性を見分けよう

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

12. 語用論 (2) 発話行為、協調の原理

○発話行為、発話内行為、発話媒介行為を見分けよう

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

13. 言語・文化・思考：言葉と文化、サピア・ウォーフの仮説など

○「すみません」と “I’m sorry.” との違いを考えてみよう。

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

14. 認知言語学：スキーマ、カテゴリー化、比喩表現など

○助数詞のスキーマを考えてみよう

【予習】 次回の授業範囲の専門用語の意味等を確認しておくこと (90分)

【復習】 前回授業内容に係る小テストを実施するので学習しておくこと (90分)

15. 日本語教育と言語学、まとめ

【予習】 授業を振り返っておくこと (90分)

【復習】 あらためて理解した点をまとめておくこと (90分)

成績評価方法

授業・課題に対する取り組み 40%

中間レポート 30%

筆記試験 (確認テスト) 30%

再試の有無

有

事前学習 事後学習
(担当教員が記入)
テキスト
原沢伊都夫 (2016) 『日本語教師のための入門言語学』, スリーエーネットワーク
参考文献
<ul style="list-style-type: none"> ・黒田龍之介 (2013) 『はじめての言語学』 講談社 ・斎藤純男ほか (2015) 『明解言語学辞典』 三省堂 ・斎藤純男 (2010) 『言語学入門』 三省堂 ・佐久間淳一ほか (2004) 『言語学入門—これから始める人のための入門書』 研究社
オフィスアワー (授業相談)
月曜日 12:10~13:00 L503 研究室
学生へのメッセージ
日本語教員養成科目として開設されていることから、日本語教員養成課程修了を目指す学生、及び日本語教員に興味・関心の高い学生の受講が望ましい。

科目名	日本語音声学・音韻論		担当教員	峪口 有香子
科目コード	TJL50110			
単位数	2	開講時期	2年次・後期	講義室
講義概要				
<p>本講義では、日本語学教育のための日本語分析、音韻・音声体系を広く概観し、学んでいきます。話す道具としての声のしくみとその効果的な使い方、さらに日本語の発音の実態と発音に仕組みについて概観していきます。日本語非母語話者が日本語を学習する際に抱く疑問や困難な点は数多くあり、そのような点に焦点を当てて分析することにより、現代語としての日本語の音声・音韻の知識を身につけ、有用な豊かな日本語の基礎を習得することを目指します。本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における教育内容「必須の教育内容」の「(39)日本語教育のための日本語分析」「(40)日本語教育のための音韻・音声体系」を含んでいます。</p>				
到達目標				
<p>(1) 将来日本語の教員を目指す学生に知ってほしい、日本語の中の音声学・音韻学の基本的な知識を獲得する。</p> <p>(2) 音声・音韻情報を的確に取捨選択し、有効に活用する能力を養い、それぞれの音声の特徴について具体例を示しながら説明できること。</p>				
授業計画詳細				
各回のテーマと内容				
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション、五十音図とその拡大表</p> <p>【内容】日本語音声学・音韻学の目標、行と段、清濁、歴史的仮名遣い、特殊拍</p> <p>【予習】行と段、清濁、歴史的仮名遣い、特殊拍について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p> <p>2. 【テーマ】話し言葉の語形</p> <p>【内容】拍、モーラ、特殊拍、連濁、転音、同化、縮約系</p> <p>【予習】拍、モーラ、特殊拍、連濁、転音、同化、縮約系について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p> <p>3. 【テーマ】母語の干渉・誤用分析</p> <p>【内容】音素と異音、対立、声帯振動、氣息の有無</p> <p>【予習】音素と異音、対立、声帯振動、氣息の有無について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p> <p>4. 【テーマ】アクセントの感覚・表記</p> <p>【内容】強弱と高低、弁別機能、アクセントの表記法</p> <p>【予習】強弱と高低、弁別機能、アクセントの表記法について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p> <p>5. 【テーマ】アクセントの式と型・イントネーション</p> <p>【内容】核と滝、式と型、方言のアクセント、平板化、上昇調、平調、下降調、高さの変化を表す曲線</p> <p>【予習】アクセントの式と型・イントネーションについて予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p>				

6. 【テーマ】子音の分類（その1・その2）

【内容】調音点、調音法、口蓋帆、瞬間音と継続音、声門の状態、半母音、五十音図の配列

【予習】子音の分類について予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

7. 【テーマ】唇音退化・ハ行転呼・四つ仮名・国際音声記号表

【内容】ハ行の清濁、合拗音、有声化、現代仮名遣い、サ行とザ行、ヘボン式ローマ字、破擦音の摩擦音化

【予習】唇音退化・ハ行転呼・四つ仮名・国際音声記号表について予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

8. 【テーマ】拗音

【内容】調音者、口蓋化、イ段と拗音

【予習】調音者、口蓋化、イ段と拗音について予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

9. 【テーマ】環境による音声変化

【内容】鼻濁音、鼻腔の関与、摩擦音化、ラ行音

【予習】鼻濁音、鼻腔の関与、摩擦音化、ラ行音について予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

10. 【テーマ】母音の分類

【内容】舌の高さ、舌の位置、唇の円め、母音無声化の法則

【予習】舌の高さ、舌の位置、唇の円め、母音無声化の法則について予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

11. 【テーマ】プロミネンスとポーズ

【内容】統語機能、準アクセント、ポーズ、プロミネンス

【予習】統語機能、準アクセント、ポーズ、プロミネンスについて予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

12. 【テーマ】用言・複合語のアクセント

【内容】動詞・形容詞のアクセント、特殊拍との関係、ゆれ

【予習】動詞・形容詞のアクセント、特殊拍との関係、ゆれについて予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

13. 【テーマ】音節構造

【内容】特殊拍の異音、母音連続、音声的音節、音節とモーラ

【予習】特殊拍の異音、母音連続、音声的音節、音節とモーラについて予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

14. 【テーマ】音韻論

【内容】口蓋への接触、自由異音と条件異音、相補分布、音素の数

【予習】口蓋への接触、自由異音と条件異音、相補分布、音素の数について予備知識を得ておくこと（90分）

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）

15. 【テーマ】音声教育の現状と総括

【内容】知識を日本語教育で活かそう、総括

<p>【予習】音声教育の現状や問題点について学習しておくこと（90分）</p> <p>【復習】音声教育の現状や問題点を整理し、音声教育事情について十分理解しておくこと（90分）</p> <p>※講義の進度、学生の興味・関心に応じて内容を変更することがあります。</p>
成績評価方法
<p>出席および授業・課題への取り組み 30%</p> <p>小テスト 30%</p> <p>学期末テスト 40%</p>
再試の有無
有
事前学習 事後学習
シラバスの学習テーマに関して、事前にテキストや資料に目を通しておく。授業の後は、学習内容の確認を行い学習課題に取り組む。
テキスト
<p>・松崎寛・河野俊之（2018）『日本語教育よくわかる音声』，アルク ISBN 番号：978-4-7574-3093-8</p> <p>※適宜、プリントも配布します。</p>
参考文献
<p>参考書として、次の文献を挙げます。授業内容の予習や復習の際に役立ててください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮地裕編（2010）『日本語と日本語教育のために日本語学入門』，明治書院 ・鹿島央（2002）『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』，スリーエーネットワーク ・国際交流基金著ほか（2009）『日本語教授法シリーズ2 音声を教える』，国際交流基金 ・田窪行則ほか（1998）『岩波講座言語の科学2 音声』，岩波書店
オフィスアワー（授業相談）
<p>峪口有香子：水曜日 13:00～14:30 B207 研究室</p>
学生へのメッセージ
<p>日本語教員養成科目として開設されていることから、日本語教員養成課程修了を目指す学生、及び日本語教員に興味・関心の高い学生の受講が望ましい。</p>

科目名	日本語の表記と語彙		担当教員	峪口 有香子
科目コード				
単位数	2	開講時期	3年次・前期	講義室
講義概要				
<p>本講義では、日本語学教育のための文字と表記・形態と語彙体系・意味体系について、学んでいきます。1回から5回では、文字と表記を学び、表記法に関する理論的考察、表記法に関する実際の規則、日本社会での表記法の実態について概観していきます。6回から15回では、語および語彙の量的な面も含めた基本的な内容から、語彙を内面的・外面的に観察し分類し、語・語彙の社会的な関係や、その変化、および語の使われ方の社会的な規範を示した辞書やコーパスを取り上げ、現代語としての日本語の知識を身につけ、さらに日本語のおもしろさに触れることを目指します。本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における教育内容「必須の教育内容」の「(41) 日本語教育のための文字と表記」「(42) 日本語教育のための形態・語彙体系」「(44) 日本語教育のための意味体系」を含んでいます。</p>				
到達目標				
<p>(1) 日本語の文字と表記・形態と語彙体系・意味体系に関する基礎的な知識を身につけること。 (2) 身近なことばに注視し、それらの形態と意味の関係を分析できる能力を身につけること。</p>				
授業計画詳細				
各回のテーマと内容				
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション、文字言語と音声言語</p> <p>【内容】日本語語彙論・意味論の目標、日本語教育での表記の問題、文字言語と音声言語、表記法、日本語の文字の歴史</p> <p>【予習】日本語語彙論・意味論の目標、日本語教育での表記の問題、文字言語と音声言語、表記法、日本語の文字の歴史について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p> <p>2. 【テーマ】文字の種類</p> <p>【内容】表音文字と表意文字、平仮名・片仮名・ローマ字、漢字、漢字仮名交じり文</p> <p>【予習】表音文字と表意文字、平仮名・片仮名・ローマ字、漢字、漢字仮名交じり文について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p> <p>3. 【テーマ】日本語の表記法の基準</p> <p>【内容】現代かなづかいと現代仮名遣い、直音・拗音・撥音・促音、表記の慣例・特例、常用漢字表、日本語能力試験と日本語教科書の漢字、送り仮名と振り仮名</p> <p>【予習】現代かなづかいと現代仮名遣い、直音・拗音・撥音・促音、表記の慣例・特例、常用漢字表、日本語能力試験と日本語教科書の漢字、送り仮名と振り仮名について予備知識を得ておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと（90分）</p> <p>4. 【テーマ】漢字</p> <p>【内容】漢字の変遷と書体、六書、漢字の字体、中国・韓国・朝鮮の漢字、漢字の字音、漢字の機能と</p>				

役割

【予習】漢字の変遷と書体、六書、漢字の字体、中国・韓国・朝鮮の漢字、漢字の字音、漢字の機能と役割について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

5. 【テーマ】外来語

【内容】外来語とは何か、外来語の歴史、外来語の表記、外来語の造語力

【予習】外来語とは何か、外来語の歴史、外来語の表記、外来語の造語力について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

6. 【テーマ】語彙の体系

【内容】語彙に体系はあるか、語彙体系の具体例

【予習】語彙に体系はあるか、語彙体系の具体例について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

7. 【テーマ】語彙と語彙量

【内容】語彙調査、異なり語数と延べ語数、語彙量、基本語彙、基礎語彙、語の基本度、語数とカバー率、日本語能力試験

【予習】語彙調査、異なり語数と延べ語数、語彙量、基本語彙、基礎語彙、語の基本度、語数とカバー率、日本語能力試験について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

8. 【テーマ】語と語形

【内容】語形と語の認定、同音意義語、語の長さ、語の長さと言種、語形のゆれ、語形と表記

【予習】語形と語の認定、同音意義語、語の長さ、語の長さと言種、語形のゆれ、語形と表記について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

9. 【テーマ】語種

【内容】語種分類と語種構成、和語、漢語、外来語、混種語

【予習】語種分類と語種構成、和語、漢語、外来語、混種語について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

10. 【テーマ】語構成

【内容】語の種類、単純語、合成語、複合語、複合名詞、複合動詞、疊語、派生語、造語法、変音現象

【予習】語の種類、単純語、合成語、複合語、複合名詞、複合動詞、疊語、派生語、造語法、変音現象について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

11. 【テーマ】語の意味

【内容】語と語の意味、単義語と多義語、多義語と同音語、類義語、反義語、成分分析、選択制限

【予習】語と語の意味、単義語と多義語、多義語と同音語、類義語、反義語、成分分析、選択制限について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

12. 【テーマ】語結合・コロケーション・慣用句と比喩、オノマトペ

【内容】語結合、コロケーション、慣用句、比喩、オノマトペとは何か

【予習】語結合、コロケーション、慣用句、比喩、オノマトペとは何かについて予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

13. 【テーマ】語の意味変化

【内容】語の意味変化の一般的傾向、意味変化の構造、意味変化の原因、意味変化の方向性、文法化現象

【予習】語の意味変化の一般的傾向、意味変化の構造、意味変化の原因、意味変化の方向性、文法化現象について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

14. 【テーマ】語彙と社会

【内容】位相、女性語・男性語、集団語、地域差、話しことばと書きことば、敬語、新語・流行語、差別語

【予習】位相、女性語・男性語、集団語、地域差、話しことばと書きことば、敬語、新語・流行語、差別語について予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

15. 【テーマ】辞書とコーパス

【内容】平安時代から江戸時代までの辞書、明治時代以降の辞書、現代の辞書、シソーラスと『分類語彙表』、コーパス

【予習】平安時代から江戸時代までの辞書、明治時代以降の辞書、現代の辞書、シソーラスと『分類語彙表』、コーパスについて予備知識を得ておくこと (90分)

【復習】学習したテーマについて十分理解しておくこと (90分)

※講義の進度、学生の興味・関心に応じて内容を変更することがあります。

成績評価方法

出席および授業・課題への取り組み 30%

小テスト 30%

学期末テスト 40%

再試の有無

有

事前学習

事後学習

シラバスの学習テーマに関して、事前にテキストや資料に目を通しておく。授業の後は、学習内容の確認を行い学習課題に取り組む。

テキスト

・高木裕子著 (2017) 『日本語の文字・表記入門 解説と演習』, バベルプレス

・秋元美晴ほか (2019) 『日本語教育よくわかる語彙』, アルク

※適宜、プリントも配布します。

参考文献

参考書として、次の文献を挙げます。授業内容の予習や復習の際に役立ててください。

- ・郡司隆男ほか（2000）『岩波講座言語の科学4 意味』，岩波書店
- ・国際交流基金著ほか（2011）『日本語教授法シリーズ3 文字・語彙を教える』，国際交流基金
- ・沖森卓也編著（2015）『日本語ライブラリー語と語彙』，朝倉書店

オフィスアワー（授業相談）

峪口有香子：水曜日 13:00～14:30 B207 研究室

学生へのメッセージ

日本語教員養成科目として開設されていることから、日本語教員養成課程修了を目指す学生、及び日本語教員に興味・関心の高い学生の受講が望ましい。授業中、適宜、課題を出す。語彙について「知る」ことよりも「考える」ことを重視する。

科目名	日本語教育文法論		担当教員	西條 結人	
ナンバリングコード					
単位数	2	開講時期	2年次・後期・水5	講義室	B109
講義概要					
<p>本講義では、日本語教育に必要な日本語文法に関する基礎を学びます。ことばの教育に生かすことができるように、これまで学習してきた文法知識を振り返りながら、ことばに対する問題意識や考え方を養うことを目的とします。日本語を第二言語として見た場合に文法はどのように説明されるのか、学習者の文法学習がどのような方法で行われているのか、具体例を交えながら検討していきます。</p> <p>なお、本科目は、文化審議会国語分科会『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』の日本語教師【養成】における「必須の教育内容」の「(43) 日本語教育のための文法体系」「(45) 日本語教育のための語用論的規範」を含んでいます。</p>					
到達目標					
<p>(1) 日本語文法に関する基本的な知識を習得し、文法事項について説明することができる。</p> <p>(2) 文法項目、特に初級文法について、その要点を分析し、教育と関連付けて説明することができる。</p>					
授業計画詳細					
各回のテーマと内容					
<p>1. 【テーマ】オリエンテーション</p> <p>___ 【内容】国語文法と日本語教育文法、学校英文法と日本語教育文法</p> <p>【予習】国語文法・学校英文法・日本語教育文法についてそれぞれが何を指すのか確認しておくこと（90分）</p> <p>【復習】国語文法・学校英文法・日本語教育文法について理解しておくこと（90分）</p> <p>2. 【テーマ】「マイちゃん 家 行った」は正しくないのですか</p> <p>___ 【内容】格助詞、必須成分、「に」と「で」の用法</p> <p>【予習】格助詞、必須成分、「に」と「で」の用法について用語の確認をしておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと（90分）</p> <p>3. 【テーマ】「飲みますです」は正しくないのですか</p> <p>___ 【内容】品詞、動詞、普通形と普通体、階層構造</p> <p>【予習】品詞、動詞、普通形と普通体、階層構造について用語の確認をしておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと（90分）</p> <p>4. 【テーマ】「難しくないでした」は正しくないのですか</p> <p>___ 【内容】テンス、肯否</p> <p>【予習】テンス、肯否について用語の確認をしておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと（90分）</p> <p>5. 【テーマ】人やものの説明がくわしくできます</p> <p>___ 【内容】イ形容詞とナ形容詞、連体詞</p> <p>【予習】イ形容詞とナ形容詞、連体詞について用語の確認をしておくこと（90分）</p> <p>【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと（90分）</p> <p>6. 【テーマ】ほかのものと区別してくわしく説明できます</p> <p>___ 【内容】名詞修飾</p> <p>【予習】名詞修飾について用語の確認をしておくこと（90分）</p>					

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

7. 【テーマ】いつするか、いつしたか、くわしく説明できます

___ 【内容】時を表す表現、絶対テンスと相対テンス、前件と後件

【予習】時を表す表現、絶対テンスと相対テンス、前件と後件について用語の確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

8. 【テーマ】できることを伝えて、コミュニケーションできます

___ 【内容】可能、意志動詞、能力可能、状況可能

【予習】可能、意志動詞、能力可能、状況可能について用語の確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

9. 【テーマ】思っていることをはっきり言ってコミュニケーションできます

___ 【内容】気持ちを表す表現

【予習】気持ちを表す表現についてどのような表現を指すのか確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

10. 【テーマ】比べてはっきり話せます

___ 【内容】「は」と「が」

【予習】「は」と「が」について文法の確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

11. 【テーマ】なぜなのかがうまく伝えられます

___ 【内容】理由を表す表現

【予習】理由を表す表現がどのような表現を指すのか確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

12. 【テーマ】まだ終わっていないことがはっきり伝えられます

___ 【内容】アスペクト

【予習】アスペクトについて用語の確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

13. 【テーマ】自分に責任がないことがはっきり言えます

___ 【内容】自動詞と他動詞

【予習】自動詞と他動詞について用語の確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

14. 【テーマ】被害を受けたことがはっきり言えます

___ 【内容】受け身・使役・授受

【予習】受け身・使役・授受について用語の確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

15. 【テーマ】提案したり勧めたりしてスムーズにコミュニケーションできます

___ 【内容】条件

【予習】条件について用語の確認をしておくこと (90分)

【復習】学習した文法事項について理解し、どのような教室活動が考えられるかまとめておくこと (90分)

※講義の進度、学生の興味・関心に応じて内容を変更することがあります。

成績評価方法

<p>授業・課題への取り組み 40%</p> <p>小テスト 30%</p> <p>学期末テスト 30%</p> <p>※成績については絶対的相対評価システムを利用し、最終評価を行います。</p>
再試の有無
有
事前学習
事後学習
<p>大学図書館所蔵の文献やウェブサイト等を積極的に活用し予備知識を得てから講義に臨んでください。講義後には、教科書や配布資料等を見返す時間を確保して、内容の整理をするとともに自分なりの考えをまとめるようにしてください。</p>
テキスト
中西久美子ほか (2020) 『使える日本語文法ガイドブック』, ひつじ書房
参考文献
<p>参考書として、次の文献を挙げます。授業内容の予習や復習の際に役立ててください。</p> <p>1) 庵功雄、松岡弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』,スリーエーネットワーク</p> <p>2) 白川博之 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』,スリーエーネットワーク</p> <p>3) 高見澤孟 (2016) 『新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識 増補改訂版』,アスク</p>
オフィスアワー (授業相談)
西條 結人 (全学共通教育センター) : 木曜日 12:10~13:00 B214 研究室
学生へのメッセージ
日本文学科専門科目「日本文法論Ⅰ」、書道文化学科専門科目「日本文法論」、日本語教員養成課程科目「言語学概論」を履修していることが望ましい。

4. 教材開発

4.1 検討組織

本事業の目的のひとつである「日本語教員養成課程科目の教材検討及び開発」を行うため、四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会の下に「教材開発小委員会」を設置し、検討を行った。

「教材開発小委員会」を構成するにあたり、日本語教員養成課程科目を担当する教員の中から、日本語教育の経験を有する教員を選出した。2020年度からは教育内容（シラバス）検討小委員会委員長の城本春佳講師にも出席してもらい、教育内容と照らし合わせながら議論を進め、教材の選定と教材開発に取り組んだ。

【構成員】

≪2019年度から2021年度≫

西條 結人（全学共通教育センター 助教）委員長

元木 佳江（全学共通教育センター 准教授）

富山 晴仁（文学部国際文化学科 准教授）

峪口有香子（地域教育・連携センター 講師）

平 歩（文学部国際文化学科 講師 ※2019年度末まで）

【会議経過】

2019年度第1回小委員会（2019年10月25日）

2019年度第2回小委員会（2019年12月11日）

2019年度第3回小委員会（2020年2月20日）

2020年度第1回小委員会（2020年7月7日）

2020年度第2回小委員会（2020年9月13日）

2020年度第3回小委員会（2020年11月25日）

2021年度第1回小委員会（2021年9月9日）

2021年度第2回小委員会（2021年12月9日）

2021年度第3回小委員会（2022年2月21日）

4.2 検討課題

小委員会では、主に次の課題を中心に検討を行った。

(1) 教材の選定

日本語教員養成課程科目について教材の選定を行う

(2) 開発教材の作成

日本語教員養成課程のサブテキストとして使用する教材を開発する

4.3 検討内容

4.3.1 2019年度検討内容

(1) 教材の選定

2019年度は3回の教材開発小委員会を実施した。

まず、教材の選定においては、他大学の日本語教員養成課程を参考にしながら、教育内容（シラバス）検討小委員会で審議された教育内容と教材の内容等が一致しているかどうかを検討し、選定作業を進めた。

特に、2020年度に開講される「日本語教育学概論」を中心に検討を進めた。「日本語教育学概論」では、『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識（アスク）』『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門（アスク）』の2冊をテキストとして指定すると同時に、日本語教員養成課程の共通教材として使用することとした。選定の理由は、第1巻では日本語教育の基礎知識として言語的な側面（言語学・心理学・第二言語習得論・学習ストラテジー）を、第2巻では日本語教育の方法論（日本語教師の役割・日本語を教えるということ・日本語の教え方（初級・中上級）・評価と試験）について、日本語教育の全体像を日本語教員養成課程履修学生に示すことができ、さらには日本語教育能力検定試験対策等にも有用であると判断したことによる。テキストを選定するにあたり、凡人社大阪店から吉田豊氏を招へいし、他の機関のテキスト選定の状況や教材閲覧コーナーを準備していただく等の協力を得た。日本語教育関係図書の購入も行い、購入した教材は全学共通教育センター事務室に配架し、担当教員や履修学生が閲覧、貸出できるように環境を整備した。

(2) 教材開発

教材の開発については、どの科目でどのような教材が必要であるかを検討し

た結果、「日本語教育学概論」のサブテキストを作成することにした。

サブテキストは、四国大学の日本語教員養成課程の特色を盛り込みながらも、近年の日本語教師を取り巻く社会状況の変化等にも対応した教材となるよう内容を検討した。扱う内容については、第2回小委員会、第3回小委員会での議論を行い、下記の通りとした。

「日本語教育学概論サブテキスト」の内容及び担当（2019年度末時点）

(1) 四国大学日本語教員養成課程について（担当者：元木委員）

(2) 日本語教師の仕事と役割（担当者：西條委員）

(3) 世界と日本の日本語教育事情（担当者：西條委員）

日本国内の日本語教育事情、海外の日本語教育事情

(4) 日本語教育能力試験：概要と出題内容（担当者：富山委員）

教育能力試験の概要、社会・文化・地域、言語と社会、言語と教育
言語と心理、言語

(5) 日本語教育者のキャリアガイド（担当者：元木委員）

(6) 日本語教師を取り巻く環境の変化（担当者：峪口委員）

日本語教育推進法とは、公認日本語教師とは

(1) から (6) の内容について、教育内容を深く扱うものではなく、課程の内容全体が分かるもの、学生や専門分野外の教師にも理解しやすいもの、日本語教員養成課程修了後の出口（卒業後の進路等）を示せるものを作成することとした。

教材開発小委員会では、2020年2月28日に広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座（現：人間社会科学研究科日本語教育学プログラム）永田良太教授を講師に招き、①これからの時代に求められる日本語教育人材、日本語教師像とは、②日本語教育学概論で扱う教育内容について、③『日本語教育へのいざないー「日本語を教える」ということー』の編集、開発の背景や日本語教育能力試験を受ける学生に対して求められる知識等の3点から研修会を実施した。

4.3.2 2020年度検討内容

2020年度は、3回の教材開発小委員会を実施した。

(1) 教材の選定

まず、前年度に引き続き、シラバスの教育内容及び「必須の教育内容（50項目）」を参考にしながら、日本語教員養成課程科目の教材を選定した。特に、翌年度に開講される「言語学概論」「日本語音声学・音韻論」「日本語教育文法論」を中心に議論を進めた。

検討の結果、「言語学概論」は『日本語教師のための入門言語学（スリーエーネットワーク）』、「日本語音声学・音韻論」は『日本語教育よくわかる音声（アルク）』、「日本語教育文法論」は『使える日本語文法ガイドブック（ひつじ書房）』を選定し、使用することを決定した。すでに開講している「日本語教育学概論」については前年度選定していた『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識（アスク）』『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門（アスク）』を引き続き使用することに決定した。

(2) 教材開発

年度当初に「教材開発実施計画」を作成し、「日本語教育学概論」で使用するサブテキスト試作版の完成に向けて作業を進めた。

作業は、各章の執筆担当を決め執筆を進めるとともに、小委員会内でそれぞれの進捗と内容の確認を行いながら作業を進めた。小委員会では、サブテキストが、四国大学文学部日本語教員養成課程において、学生が目指すべき方向を示す教材となっているかといった点についても議論がなされた。また、学外有識者から日本語の教科書を教材資料集として紹介してはどうかという助言をいただき、教材資料集で取り上げる教科書について議論を行った。委員からは、初級レベルで国内外の日本語教育機関で広く用いられている教科書や日本語能力試験対策の教科書を取り上げてはどうかといった意見が出され、以下のテキストを中心に準備を進めることとした。

【資料】教材資料集

- 『みんなの日本語初級I 本冊』スリーエーネットワーク
- 『まるごと 日本のことばと文化入門A1 りかい』三修社
- 『NIHONGO FAN AND EASY』アスク
- 『Situational Functional Japanese』凡人社
- 『NEJ テーマで学ぶ基礎日本語 vol.1』くろしお出版
- 『できる日本語初級 本冊』アルク

『TRY!日本語能力試験 N2：文法から伸ばす日本語』アスク

『日本語能力試験対策日本語総まとめ N3 文法』アスク

今年度は試作版の完成を目指していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応から、初計画よりも作業行程が遅れ、2020年度末に予定していたサブテキスト試作版の完成（2020年度末で9割程度完成）及び「日本語教育学概論」での試験運用は次年度への持ち越しとなった。

4.3.3 2021年度検討内容

2021年度は教材開発小委員会を3回実施した。

(1) 教材の選定

前年度に引き続き、シラバスの教育内容及び「必須の教育内容（50項目）」を参考にしながら、日本語教員養成課程科目の教材を選定した。今年度は文化庁事業最終年度となるため、日本語教員養成課程科目12科目すべての教材選定の検討を進めたが、2023年（4年次）開講の「日本語教授法演習」「日本語教授法実践」については、2022年度（3年次）に開講される言語と教育区分の科目「日本語教育方法論」「日本語教授法」「異文化間教育論」の成果と課題を検証しながら、本事業終了以降も引き続き検討していくこととなった。

教材の選定結果は次の通りである。

日本語教員養成課程科目教材選定結果

科目名称	単位	開講時期	テキスト
日本語教育学概論	2	1年次・後期	高見澤孟ほか（2016）『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』，アスク
			高見澤孟（2016）『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』，アスク
			四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会編（2022）『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』
社会言語学・語用論	2	4年次・前期	適宜資料を配布

第二言語習得論	2	3年次・前期	奥野由紀子他（2021）『超基礎第二言語習得研究 SLA』，くろしお出版
日本語教育方法論	2	3年次・前期	森篤嗣他（2019）『超基礎・日本語教育』くろしお出版
			四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会編（2022）『日本語教員養成課程ガイドブックー四国大学から世界へー』
日本語教授法	2	3年次・後期	高見澤孟（2016）『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』，アスク
			小林ミナ（2019）『日本語教育 よくわかる教授法』アルク
日本語教授法演習	2	4年次・前期	適宜資料を配布 ※次年度以降も継続して検討
日本語教育実践	2	4年次・通年	高見澤猛（2016）『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』，アスク ※次年度以降も継続して検討
異文化間教育論	2	3年次・後期	八代京子・世良時子（2010）『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』，三修社
言語学概論	2	2年次・前期	原沢伊都夫（2016）『日本語教師のための入門言語学』，スリーエーネットワーク
日本語音声学・音韻論	2	2年次後期	松崎寛・河野俊之（2018）『日本語教育よくわかる音声』，アルク
日本語の表記と語彙	2	3年次前期	・高木裕子著（2017）『日本語の文字・表記入門 解説と演習』，バベルプレス
			・秋元美晴ほか（2019）『日本語教育よくわかる語彙』，アルク
日本語教育文法論	2	2年次後期	中西久美子ほか（2020）『使える日本語文法ガイドブック』，ひつじ書房

(2) 教材開発

まず、委員会でアイデアを出し合い、教材のタイトルを『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』に決定した。試作版は8月中に完成させ、後期開講の「日本語教育学概論」の授業で試験運用を行い、成果と課題を検証した。編集会議では、四国大学日本語教員養成課程の理念や思いを示すために、執筆者によるメッセージや関係者（学長、文学部長、大阪大学の西口教授）によるメッセージを掲載すること、公認日本語教師をめぐる社会の動きも含め様々な情報を最新のものに更新することなどが課題として挙げられ、各章の執筆担当を中心に修正・加筆を行った。懸案事項となっていた巻末の教材資料集、各教材の掲載ページを確定し、掲載許可を得るべく著作権の確認作業を行った。さらに、「日本語教育学概論」のサブテキストという位置づけから、「日本語教育学概論」を受講した先輩の声を掲載し、これから日本語教育を学ぼうとする学生への参考となるよう工夫した。

ガイドブック『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』はPDF版と紙媒体での印刷を行った。同書は日本語教員養成課程を履修する学生に配布するとともに、学内外で広く配布する予定である。

『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』

【目次】

- この本を読んでいる皆さんへ（執筆者一同からのメッセージ）
- 学長メッセージ
- 文学部長メッセージ
- 西口光一大阪大学教授メッセージ
- 第1章 四国大学「日本語教員養成課程」について（担当者：元木委員）
 - 1. 1. 課程の特色
 - 1. 2. カリキュラム
 - 1. 3. 「言語と教育」科目における実践力の育成
 - 1. 4. 教育実習
- 第2章 日本語教師の仕事と役割（担当者：西條委員）
 - 2. 1. 日本語教師とは
 - 2. 2. 日本語学習者とは
 - 2. 3. 日本語教師が働く現場

2. 4. 日本語教師の役割

第3章 日本と世界の日本語教育事情

3. 1. 日本国内の日本語教育事情

3. 2. 海外の日本語教育事情

3. 3. 日本語能力の測定と試験

第4章 日本語教育能力試験：概要と出題内容（担当者：富山委員）

4. 1. 概要

4. 2. 出題内容

4. 3. 試験の構成

4. 4. 出題形式

4. 5. 対策

4. 6. 過去の問題

第5章 日本語教育者のキャリアガイド（担当者：元木委員、城本講師）

5. 1. 留学生に対する日本語教育

5. 2. 就労者に対する日本語教育

5. 3. 海外の日本語教育

5. 4. 児童生徒に対する日本語教育

5. 5. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育

5. 6. インタビューを終えて

第6章 日本語教師を取り巻く環境の変化（担当者：峪口委員）

6. 1. 日本語教育の推進に関する法律とは

6. 2. 公認日本語教師とは

6. 2. 1. 「公認日本語教師」資格創設の背景

6. 2. 2. 日本語教師の資格制度の枠組み

日本語教材資料集

教材資料①『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』

教材資料②『できる日本語初級 本冊』

教材資料③『NEJ テーマで学ぶ基礎日本語 vol.1』

教材資料④『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 りかい』

教材資料⑤『Situational Functional Japanese』

教材資料⑥『NIHONGO FAN AND EASY』

教材資料⑦『TRY!日本語能力試験 N2：文法から伸ばす日本語』

5. 養成課程の実施

本課程は、2020（令和2）年度にスタートしたため、新設の日本語教員養成課程科目は年度ごとに順次開講される。ここでは、2020（令和2）年度と2021（令和3）年度に開講された4科目について、実施概要および成果と課題について報告する。

5.1 2020（令和2）年度について

プログラム開設初年度ということで、受験生には、進学説明会、高校訪問、オープンキャンパス等でパンフレットを配布し広報を行った。在学生には、新入生オリエンテーションや各学期初めのオリエンテーションでパンフレットを配布し、積極的な課程の履修を勧めた。7月には文学部で全学年を対象とした説明会を開き、日本語教員養成課程プログラムの周知を図った。

初年度は後期に「日本語教育学概論」が開講された。3名の教員によるオムニバス形式で実施し、終了後に「到達度自己評価アンケート」を実施した。成績とアンケートからみると、概ね目標に到達したことが窺える。

「日本語教育学概論」（開講年次：1年次後期）

受講者	四国大学文学部の在学生
受講者数	48人（1クラス/期）
実施方法	講義・対面実施（一部オンライン）
担当教員	オムニバス形式 文学部国際文化学科・准教授 富山晴仁 全学共通教育センター・准教授 元木佳江 全学共通教育センター・助教 西條結人
外部講師	12回目（テーマ：国内の日本語教育事情） 講師：徳島県国際交流協会・シニアコーディネーター野水祥子氏 講師：徳島県国際交流協会・国際理解支援講師 藤原唯氏
授業概要	本講義では、日本語教師としての基本的な知識の習得とともに、日本語学習者の背景や将来を考えるために、日本語教育の歴史、日本語教育に関連する諸制度・試験、国内外の日本語教育の現状と課題等を取り扱う。 日本語教員として学習をより効果的に支援するために、どのよ

	うな知識や心構えが必要なのか、文学部3学科での学びや強みを日本語教育分野にどのように生かすことができるかについて考えられるようになることを目指す。
到達目標	(1)国内外の日本語教育の動向や日本語教員としての基本的な知識を習得し、理想とする日本語教員像を具体化し、学習者の背景や将来を考えることができる。 (2)「社会・文化」「教育」「言語」の3領域と日本語教育のつながりについて理解し、複数の視点から日本語教育をとらえることができる。
授業内容	※詳細はシラバス参照
評価	①授業・課題への取り組み 40% ②中間レポート 30% ③学期末レポート 30%
成績	平均点 81.1 点 (45 人)

《当該科目における成果と課題》

「日本語教育学概論」の第15回目講義後に『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』に記載されている「日本語教師【養成】に求められる資質・能力」をもとに作成した「到達度自己評価アンケート」を実施した。アンケート結果を見ると、多くの学生が前向きに学習に取り組んだことが窺え、「日本語教育学概論」で幅広い知識や技能、態度を身につけることができたようである。

また、学生の自由記述からは「この授業で1番心に残っているのは、外国ルーツを持つ子どもたちについての話です。やはりあの話は、今までの自分の考え方や現在の教育のあり方を考え直すきっかけになりました。」「漠然と、日本語教師はこんな感じというイメージのまま授業を取ったが想像と大きく異なっていたことが多かった。もっと幅広い視野と多文化への理解、そして教育や言語に関する知識が必要なのだと感じた。」「どのように教えているのかという点のみ気にしていたが、そもそもの心構えを全く知らなかったことに気づいた。」「授業で学んだ、他人へのリスペクトを忘れないことはどの職種にも通じると思った。」「この授業を受けて、日本のことをもっと知るべきだなと思う機会が増えました。外国の文化や、歴史はたくさん学びますが日本の文学や

歴史などは詳しく知らないので、いつまでも学ぶ姿勢をもつことは大切だと思いました。」等のコメントが見られ、知識や技能の修得だけではなく、教師として、ひとりの人間として人や文化と向き合う姿勢・態度を見つめ直すきっかけにもなったようである。

5.2 2021（令和3）年度について

今年度は教育課程開設2年目となるため、必修科目である日本語教員養成課程科目3科目が開講され、1年次開講科目と合わせて4科目の授業を実施した。

昨年同様、受験生には、進学説明会、高校訪問、オープンキャンパス等でパンフレットを配布し広報を行った。在学生には、新入生オリエンテーションや各学期初めのオリエンテーションでパンフレットを配布し、積極的な課程の履修を勧めた。7月には文学部の1年生を対象とした説明会を開き、日本語教員養成課程プログラムの周知と、後期開講の「日本語教育学概論」履修について説明を行った。

カリキュラムの妥当性を検証するため、後期の「日本語教育学概論」（1年次）・「日本語音声学・音韻論」（2年次）の授業終了後に「到達度自己評価アンケート」を実施した。成績とアンケートからみると、本科目の目標はおおむね達成できたことが窺える。

「日本語教育学概論」（開講年次：1年次後期）

受 講 者	四国大学文学部の在学生
受 講 者 数	36人（1クラス/期）
実 施 方 法	講義・対面実施（一部オンライン）
担 当 教 員	オムニバス形式 文学部国際文化学科・准教授 富山晴仁 全学共通教育センター・准教授 元木佳江 全学共通教育センター・助教 西條結人
外 部 講 師	5回目 テーマ：やさしい日本語と多文化共生 講師：電通ダイバーシティ・ラボ 吉開 章氏 11回目 テーマ：多文化共生社会をめざして

	<p>～「ことばの壁・こころの壁」について考える～ 講師：アクラス日本語教育研究所・代表理事 嶋田和子氏</p>
授 業 概 要	<p>本講義では、日本語教員養成課程のカリキュラムと教育内容を構成する3領域「社会・文化」「教育」「言語」を概観し、日本語教師としてどのような知識や心構えが必要なのか、文学部3学科での学びや強みを日本語教育分野にどのように生かすことができるのかについて考えられるようになることを目指す。</p> <p>学習内容は、日本語教育の歴史、日本語教育に関連する諸制度・試験、国内外の日本語教育の現状と課題等について学ぶ。また、日本語学習者や日本語を学ぶことの実際について体験的学習を通し理解を深める。</p>
到 達 目 標	<p>(1)「社会・文化」「教育」「言語」の3領域の基本的な知識を習得し、複数の視点から日本語教育をとらえることができる。</p> <p>(2)文学部3学科での学びや強みを日本語教育にどのように生かすことができるのかについて考えることができる。</p>
授 業 内 容	※詳細はシラバス参照
評 価	<p>①授業・課題への取り組み 40%</p> <p>②中間レポート 30%</p> <p>③学期末レポート 30%</p>
成 績	平均点 76.4点 (31人)

《当該科目における成果と課題》

「日本語教育学概論」の第15回目講義後に、「到達度自己評価アンケート」を実施した。結果を見ると、多くの学生が前向きに学習に取り組んだことが窺え、前年度と同様に「日本語教育学概論」で幅広い知識や技能、態度を身につけることができたようである。一部、指導技術や教育方法に関する項目において、自己評価で肯定的に捉えられていない項目が見受けられた。それらの項目は、「日本語教育学概論」では扱っていない内容であるため、その評価は妥当であるとも考えられ、「言語と教育」区分を中心とした今後の日本語教員養成課程科目の履修を通じて、高まっていくものと考えられる。

自由記述では、「日本語教育というのをこの授業で知り、日本語教育のことについて知らないことや思っていた印象と違うことばかりだったので、とても面白かったです。特に、やさしい日本語の講義が私の中で初めて知ることやそうなんだと思えたことが多かったので、印象に残っています。」「日本語学習者だけでなく日本語教師も共に学び成長することが大切だと授業を受けて分かりました。」「外国人がどのような気持ちで日本語を学んでいるのかということが少しわかったので、自分が教える際には学習者の目線になって考えて教えるようにしたいと思った。」「留学生と話したことがなかったため、話すことができて良かったと思った。日本語学習者が、どのような話し方をするのか分かった。」「日本語教育に関する知識はもちろん、コミュニケーション能力も磨いていかないと日本語教師になれないということを、今までの授業や先生方の私たちに対するコミュニケーションから身をもって感じるすることができた。そのため、これからの授業ではもっと活発に動いていけたら良いなと思います。」といったコメントが見られた。日本語教師に求められる資質・能力について、授業を通して自分なりに考え、学ぶことができているようである。

また学科での学びと日本語教育のつながりについても、「私は将来的に日本語教師になった場合、異文化交流に興味を持ち、ことばの壁を乗り越えて学習者と対等な関係で自分にしかできない日本語教育を実践していく日本語教師になっていきたいです。国際文化学科である私が日本語教育で活かせるものは英語力と海外事情に強い興味を持とうとする関心力です。」のように、所属学科の専門分野と日本語教育を繋げて考えられている学生もあり、到達目標に沿った授業内容を展開することができていると考える。

「言語学概論」（開講年次：2年次前期）

受講者	四国大学文学部の在学生（2年生以上）
受講者数	37人（1クラス/期）
実施方法	講義・対面実施（一部オンライン）
担当教員	文学部国際文化学科・准教授 富山晴仁
外部講師	外部講師の招聘実績なし
授業概要	本講義では、日本語を外国語として教えるために必要とされる言語学の基礎分野について概観することを目的とする。発音や文法、文化的背景に基づく言語使用の特徴などについて日本

	語学習者に分かりやすく説明するため、他言語とも比較しつつ、日本語を客観的に捉えるための視点を養う。
到達目標	(1)言語学の基礎分野について説明できる。 (2)日本語の発音や文法、言語使用の特徴について具体例を示しながら説明できる。
授業内容	※詳細はシラバス参照
評価	授業・課題に対する取り組み 40% 中間レポート 30% 筆記試験（確認テスト） 30%
成績	84.0点（35人）

《当該科目における成果と課題》

毎回行った前週の復習小テストや定期試験、オリエンテーションや定期試験の際にあわせて実施した「感想」の記述、講義中や個別に聞いた学生の声などを踏まえて、本授業を振り返る。

授業開始時には「非常に楽しみである」との声に加えて「難しそう」「授業について行けるか不安だ」との意見も少なからずあった。これは、オリエンテーションの授業計画に示した「形態論」「統語論」「語用論」「認知言語学」などの馴染みの無い学問領域と、それぞれに付随する「間接発話行為」「トラジェクターとランドマーク」等の専門用語に出会ったことによるものであろう。

そのようなこともあり、各授業では事例の紹介に十分な時間を取ったうえで抽象的な概念や専門用語を導入、説明することに配慮した。このような配慮からか、前週の内容を出題する小テストの成績は、8回目の授業を過ぎたころから大半の学生が満点を取るようになり、最終的な成績が平均 84.0 という結果につながった。

授業中に学生に求めた講義内容に即した自由な発言に関しては、（コロナ禍での授業であったことを考慮しても）活発な意見の交換が行われた機会は多くなかったと反省している。ただし積極的な反応が得られた場合もあり、例えば、連語を扱った際に「『ベルト』は『締める』で『巻く』ではない」との旨の記述に対し「介護用のベルトは『巻く』と言います」「チャンピオンベルトも『巻く』です」と判例を挙げてくれることがあった。また、意味論で「使役

文の『母親は息子に自分の部屋で勉強させた』の『自分』は『母親』でも『息子』でも解釈できる」との説明をした際に「『自分』が『母親』だと違和感がある」との指摘を受けることがあった。その違和感の所在を学生と議論をする中で、「日本ではほとんどの母親が個人の部屋を持っていないのがその理由ではないか」というように、意味論から社会言語学的な側面に話が広がっていったこともあった。このように一定の成果も得られたこともあったが、より多くの授業で学生による活発な意見交換が生じるように、ヒントの出し方や教室の雰囲気作りを計画的に行っていく必要があると考えている。

15回の授業が終わった後、「日本語は知っているものだと思っていたが、知らないことが多くあった」のような、日本語に対する気づきを得たとの感想を書く学生が多数いた。その点では単なる言語学の諸領域の紹介にとどまらず、日本語教員として必要な、学問に基づいた日本語の理解につながれたことは成果があったと言える。今後は「日本語教員の教養として必要」だとして扱ったプラトンの『クラテュロス』、パーニニの『八巻の書』、ソシュールの「シニフィアン・シニフィエ」など哲学的な領域も、現場に立つ日本語教員の視点で教授できるよう、準備を進めていきたい。

「日本語音声学・音韻論」（開講年次：2年次後期）

受講者	四国大学文学部の在学生（2年生以上）
受講者数	34人（1クラス/期）
実施方法	講義・対面実施（一部オンライン）
担当教員	地域教育・連携センター・講師 峪口 有香子
外部講師	外部講師の招聘実績なし
授業概要	本講義では、日本語学教育のための日本語分析、音韻・音声体系を広く概観し、学ぶ。話す道具としての声のしくみとその効果的な使い方、さらに日本語の発音の実態と発音に仕組みについて概観する。日本語非母語話者が日本語を学習する際に抱く疑問や困難な点は数多くあり、そのような点に焦点を当てて分析することにより、現代語としての日本語の音声・音韻の知識を身につけ、有用な豊かな日本語の基礎を習得することを目指す。
到達目標	(1)将来日本語の教員を目指す学生に知ってほしい、日本語の

	中の音声学・音韻学の基本的な知識を獲得する。 (2)音声・音韻情報を的確に取捨選択し、有効に活用する能力を養い、それぞれの音声の特徴について具体例を示しながら説明できること。
授 業 内 容	※詳細はシラバス参照
評 価	出席および授業・課題への取り組み 30% 小テスト 30% 学期末テスト 40%
成 績	85 点 (34 人)

《当該科目における成果と課題》

「日本語音声学・音韻論」の第 15 回目講義後に、到達度自己評価アンケートを実施した。以下、その結果を概観する。外国語に関する知識、日本語の構造に関する知識をもつことができたかどうかについて問うた結果は、「とてもそう思う (29%)」「そう思う (50%)」「無回答 (21%)」であり、受講生の 79%が、日本語の構造の関する知識、その中でも音韻・音声体系に関する知識を身につけることができたと回答した。また、言語使用や言語発達、言語の修得過程等に関する知識を問うたところ、「とてもそう思う (29%)」「そう思う (47%)」「無回答 (24%)」で、受講生の 76%が肯定的だと判断できる結果を得た。「日本語のしくみ」「音声の種類・表記」「母語の干渉」「母音・子音」等についての教授ならびに日本語教育における日本語音声指導ができるよう一貫して授業を進めたが、日本語の音声以外の音声・音韻も学ぶことで、「学習者の出身国の違いによって発音に違いが出てくることに面白さを感じました」という意見も窺えた。

自由回答形式の記述では、「今までの講義で、音声・音韻の専門的な用語や種類は勿論、学習者の様々な母語の特徴やそれを踏まえた指導方法など学ぶことができた。普段私達が発している音声やことばにはそれぞれ専門的な用語や特徴があり、国際音声記号など様々な種類があることが分かった。また、日本語だけでなく外国語もそれぞれ発音方法など沢山の特征があるため、学習者の母語の特徴も考慮した日本語指導も重要であると学ぶことができた。学習者が苦手とすることばや発音などを専門的に知っておくことで、授業の内容や日本語トレーニングの指導など工夫することができ、また学習者の発音の上達に役

立つためとても大切だと思った。少し難しい内容ではあったが、日本語教育では大切な知識となっていくため、今後の日本語教育の授業や学習に生かしていけたら良いと思う」とあり、本講義での学びを他の日本語教育科目と繋げて考えている学生もいることから、日本語音声を学ぶ意義について理解し、日本語教育の中に「音声・音韻」を位置づけて考えることができるようになったという学生がいたという点はそれなりの成果があったものと確信できる。入門レベルではあったが、着実に深めることができたと考えられるとともに、日本語教育に応用できる実践的な知識習得の手応えがあったといえよう。

一方で、「日本語の音声の分野はとても難易度が高い科目だなと感じた」「コロナでマスクが外せないから仕方がないのかもしれませんが発音方法の違いがいまいちわからなかったです」という声もあり、コロナ禍でマスクを付けて授業を進めた結果、口元が見えないことで、実際に見せて発音のしくみを理解させるといった点にやや支障をきたしたのは事実である。このような場合にはネット上の視聴覚教材などを駆使してカバーすることも可能であり、今後はこれらの学生の意見も参考にしつつ、より効果的な授業実践に向けた改善を行っていきたい。

「日本語教育文法論」（開講年次：2年次後期）

受講者	四国大学文学部の在学生（2年生以上）
受講者数	37人（1クラス/期）
実施方法	講義・対面実施（一部オンライン）
担当教員	全学共通教育センター・助教 西條結人
外部講師	外部講師の招聘実績なし
授業概要	本講義では、日本語教育に必要な日本語文法に関する基礎を学ぶ。ことばの教育に生かすことができるように、これまで学習してきた文法知識を振り返りながら、ことばに対する問題意識や考え方を養うことを目的とする。日本語を第二言語として見た場合に文法はどのように説明されるのか、学習者の文法学習がどのような方法で行われているのか、具体例を交えながら検討する。
到達目標	(1)日本語文法に関する基本的な知識を習得し、文法事項について説明することができる。

	(2)文法項目、特に初級文法について、その要点を分析し、教育と関連付けて説明することができる。
授 業 内 容	※詳細はシラバス参照
評 価	授業・課題への取り組み 40% 小テスト 30% 学期末テスト 30% ※最終成績については絶対的相対評価システムを利用し、最終評価を行う。
成 績	78.6 点 (33 人)

《当該科目における成果と課題》

「日本語教育文法論」の成果と課題について、履修学生に課したミニレポートやアンケートの記述を参照しながら検証する。「授業を受ける中で、言語を学ぶ際には、使用場面の明確化など「どのようにしてこの言葉を使うか」という引き出しを多く持つことが重要なのだと学んだ。知識を詰め込むと言うよりは、吸収－実践、吸収－実践の繰り返しのように感じられる。くわえて、正しい用法を伝えつつ、我々が扱っているのはひとつの生物なのだという感覚をしっかりと伝えるのは非常に重要であると学んだ。」等、言葉の法則以外にも、どのような場面で用いるのか、教室活動の中でどのような場面を提示するのが良いかについて考えることができたようである。また、「日本語教育文法論を履修して私がどの単元を学んでも1番に思ったことは『日本語って簡単そうに見えてすごく難しい』ということです。最初は日本語については母語話者だから大体は分かるだろうと思い、この授業を受け始めてからはその考えがガラッと変わりました。」「私は普段方言を使って話すことが多いので授業で習う標準語の日本語は違和感があり使いにくいと思いました。」といった記述もあり、学生の文法観や言語意識、言語使用にも変化があったようである。また、「SAで留学生の質問に答える時もうっかり方言で説明してしまうことがあり、もっと標準語を自然に話せるようにしなければ今後学習者に日本語を教える場面が来た時に正確な日本語を教えることができないと思いました。」のように、本学の外国人留学生科目とその関連科目でのスチューデント・アシスタント(SA)での学習支援経験と本講義での学びをつなげて考えている学生もいたことから、講義と並行して、実践知を高めるという観点からも、関心のある

学生には受講学生には SA 等の制度の活用を積極的に勧めていきたい。

講義の進め方については、意見交換や意見の共有を行う活動や教員の経験やエピソードを紹介する、実際の教室活動の動画を見て、文法と教室活動のつながりを考える、学習した文法を使ってオリジナルの教室活動を考える等について、肯定的な意見が多く見られた。一方で、「学習した文法項目を使って模擬授業をしてみたい」「考えたオリジナルの教室活動にクラスで投票をして、投票 1 位の教室活動を実際にやってみるのはどうか」「日本人学生がどのように日本語文法を学んできたのかを知りたい」等の要望も見られたため、これらの学生の意見も参考にしながら、より教育効果の高い授業を目指して改善していきたい。

日本語教員養成課程科目別履修学生人数の推移（令和2年度～令和3年度）

※科目順は開講年次順

科目名称	配当年次	履修学生数（人）		備考
		令和2年度 ※（ ）内は学科別内訳	令和3年度 ※（ ）内は学科別内訳	
1 日本語教育学概論	1年次・後期	43 (日文：9、書道：14、国際：20)	36 (日文：10、書道：13、国際：11)	
2 言語学概論	2年次・前期		37 (日文：14、書道：7、国際：16)	
3 日本語音声学・音韻論	2年次・後期		34 (日文：13、書道：5、国際：16)	
4 日本語教育文法論	2年次・後期		37 (日文：15、書道：5、国際：14)	
5 日本語の表記と語彙	3年次・前期			旧名称「日本語語彙論・意味論」、令和5年度開講
6 日本語教育方法論	3年次・前期			令和4年度開講
7 第二言語習得論	3年次・前期			令和4年度開講
8 日本語教授法	3年次・後期			令和4年度開講
9 異文化間教育論	3年次・後期			令和4年度開講
10 日本語教授法演習	4年次・前期			令和5年度開講
11 社会言語学・語用論	4年次・前期			令和5年度開講
12 日本語教育実践	4年次・通年			旧名称「日本語教育実習」、令和5年度開講

※表中のクリーム色の箇所は当該年度に未開講の科目を示す

令和3年度開講科目成績

科目名	開講期	評価人数 (履修者数)	成績 (平均点)
日本語教育学概論	1年後期	31名 (36)	76.4点
言語学概論	2年前期	35名 (37)	84.0点
日本語音声学・音韻論	2年後期	30名 (34)	85.8点
日本語教育文法論	2年後期	33名 (37)	78.6点

令和2年度後期「日本語教育学概論」 到達度自己評価アンケート集計結果

収集時期・方法：令和3年1月26日、履修学生に対しmanabaコースで収集

収集データ数：44名（履修登録人数48名、未回答4名）回答率91.6%

アンケート形式：単一選択（1：とてもそう思う、2：そう思う、3：あまりそう思わない、4：全くそう思わない）＋自由記述

質問項目	回答数と割合								平均
	1		2		3		4		
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
1 外国語に関する知識、日本語の構造に関する知識を持つことができた。	20	45.5%	23	52.3%	1	2.3%	0	0.0%	1.57
2 言語使用や言語発達、言語の習得課程等に関する知識を持つことができた。	15	34.1%	26	59.1%	3	6.8%	0	0.0%	1.73
3 個々の学習者の来日経緯や学習過程等に関する知識を持つことができた。	23	52.3%	21	47.7%	0	0.0%	0	0.0%	1.48
4 日本語教育プログラムやコースにおける各科目や授業の位置付けを理解できた。	13	29.5%	30	68.2%	1	2.3%	0	0.0%	1.73
5 様々な環境での学びを意識したコースデザインを行う上で必要となる知識を持つことができた。	14	31.8%	27	61.4%	2	4.5%	1	2.3%	1.77
6 日本語教育の目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持つことができた。	20	45.5%	22	50.0%	1	2.3%	1	2.3%	1.61
7 学習者の学習過程を理解することができた。	19	43.2%	24	54.5%	1	2.3%	0	0.0%	1.59
8 学習者に応じた内容・教材（ICTを含む）・方法を選択する上で必要となる知識を持つことができた。	8	18.2%	33	75.0%	3	6.8%	0	0.0%	1.89
9 言語・文化の違いや社会における言語の役割を理解し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。	25	56.8%	19	43.2%	0	0.0%	0	0.0%	1.43
10 異なる文化背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学び合う態度を養うための異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を持つことができた。	17	38.6%	27	61.4%	0	0.0%	0	0.0%	1.61
11 学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要となる知識を持つことができた。	11	25.0%	26	59.1%	6	13.6%	1	2.3%	1.93
12 教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。	17	38.6%	24	54.5%	3	6.8%	0	0.0%	1.68
13 外国人施策や世界情勢など、外国人や日本語教育を取り巻く社会状況に関する一般的な知識を持つことができた。	14	31.8%	27	61.4%	3	6.8%	0	0.0%	1.75
14 国や地方公共団体の多文化共生及び国際協力、日本語教育策に関する知識を持つことができた。	10	22.7%	29	65.9%	5	11.4%	0	0.0%	1.89
15 日本語教育プログラムのコースデザイン・カリキュラムデザインを理解できるようになった。	7	15.9%	31	70.5%	5	11.4%	1	2.3%	2.00
16 目的・目標に沿った授業を計画することができるようになった。	6	13.6%	26	59.1%	10	22.7%	2	4.5%	2.18
17 学習者の日本語能力等に応じて教育内容・教授方法を選択することができるようになった。	12	27.3%	22	50.0%	8	18.2%	2	4.5%	2.00
18 学んだ知識を教育現場で実際に活用・具現化できる能力を身に付けることができた。	6	13.6%	23	52.3%	11	25.0%	4	9.1%	2.30
19 学習者に応じた教具・教材を活用できるようになった。	9	20.5%	18	40.9%	15	34.1%	2	4.5%	2.23
20 学習者に応じた教具・教材を作成できるようになった。	8	18.2%	14	31.8%	17	38.6%	5	11.4%	2.43
21 学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を身に付けることができた。	11	25.0%	23	52.3%	8	18.2%	2	4.5%	2.02
22 学習者に対する異文化間コミュニケーション能力を身に付けることができた。	12	27.3%	28	63.6%	3	6.8%	1	2.3%	1.84
23 授業や教材等を分析する能力を身に付けることができた。	7	15.9%	24	54.5%	11	25.0%	2	4.5%	2.18
24 教育活動を振り返り、改善を図ることができるようになった。	7	15.9%	23	52.3%	12	27.3%	2	4.5%	2.20
25 学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者の能力を適切に評価する能力を身に付けることができた。	5	11.4%	26	59.1%	11	25.0%	2	4.5%	2.23
26 学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者を指導する能力を身に付けることができた。	7	15.9%	25	56.8%	10	22.7%	2	4.5%	2.16
27 学習者が多様なリソースを活用できる教育実践を行う能力を身に付けることができた。	7	15.9%	21	47.7%	13	29.5%	3	6.8%	2.27
28 学習者の理解に応じて日本語をわかりやすくコントロールする能力を身に付けることができた。	7	15.9%	27	61.4%	8	18.2%	2	4.5%	2.11
29 学習者が日本語を使うことにより社会につながることを理解できるようになった。	16	36.4%	25	56.8%	3	6.8%	0	0.0%	1.70
30 学習者が日本語を使うことにより社会につながることを意識し、教育実践に生かすことができるようになった。	10	22.7%	21	47.7%	13	29.5%	0	0.0%	2.07
31 日本語だけでなく多様な言語や文化に対して深い関心と鋭い言語感覚を持ち続けようとすることができた。	17	38.6%	26	59.1%	1	2.3%	0	0.0%	1.64
32 日本語そのものの知識だけでなく、歴史、文化、社会事象等、言語と切り離せない要素を合わせて理解し、教育実践に活かすことができるようになった。	14	31.8%	24	54.5%	6	13.6%	0	0.0%	1.82
33 日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱をもつようになった。	15	34.1%	27	61.4%	2	4.5%	0	0.0%	1.70
34 自身の実践を客観的に振り返り、常に学び続けようとするようになった。	7	15.9%	35	79.5%	2	4.5%	0	0.0%	1.89
35 言語・文化の相互尊重ができるようになった。	28	63.6%	16	36.4%	0	0.0%	0	0.0%	1.36
36 学習者の背景や現状を理解しようとするようになった。	22	50.0%	22	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1.50
37 指導する立場であることを常に自覚し、自身のものの見方を問い直すようにした。	20	45.5%	22	50.0%	2	4.5%	0	0.0%	1.59
38 異なる文化や価値観に対する興味関心と広い受容力・柔軟性を持つようになった。	20	45.5%	24	54.5%	0	0.0%	0	0.0%	1.55
39 多様な関係者と連携・協力しようとするようになった。	17	38.6%	25	56.8%	2	4.5%	0	0.0%	1.66
40 日本社会・文化の伝統を大切にできるようになった。	29	65.9%	15	34.1%	0	0.0%	0	0.0%	1.34
41 学習者の言語・文化の多様性を尊重するようになった。	31	70.5%	13	29.5%	0	0.0%	0	0.0%	1.30
※黄色マーカーの項目は「3」「4」（否定的な評価）が3割以上の項目を指す									全体平均 1.83

【自由記述：授業へのコメント・感想等】

この授業で1番心に残っているのは、外国ルーツを持つ子どもたちについての話です。やはりあの話は、今までの自分の考え方や現在の教育のあり方を考え直すきっかけになりました。
漠然と、日本語教師はこんな感じというイメージのまま授業を取ったが想像と大きく異なっていたことが多かった。もっと幅広い視野と多文化への理解、そして勿論教育や言語に関する知識が必要なのだと感じた。どのように教えているのかという点のみ気にしていたが、そもそもの心構えを全く知らなかったことに気づいた。授業で学んだ、他人へのリスペクトを忘れないことはどの職種にも通じると思った。
日本語をただ教えるだけではなく、一人の日本人を育てるといった感覚なんだろうな、と日本語教師について思うようになりました。
勉強の過程の中で、私の日本語教員に対する見方が変わりました。当初、私はただ日本語を教える先生だと思っていましたが、勉強して発見したことは、日本の文化もあります。言葉の勉強だけでなく文化の紹介もします。
海外の日本語教育事情を詳しく知れたことが自分にとって一番大きかったと感じた。日本語教育が廃っている地域が調べたところなかったことが日本人の私にとっても嬉しかった。
元々は、なりたい仕事にプラスになればいいなという思いでこの授業を専攻したが、日本語教師の魅力や奥深さを知りどんどん興味がわいた。日本語教師という職業についての色々なことを学ぶことができ、よかった。
授業時間を活用し、授業内容も充実しています。
日本語教育に必要な心構えや日本語教育がどのように発展してきたのかという歴史も知ることができ、外部からの講師の方のお話を聞いて海外にルーツを持つ子については、小学校の時に身近にあった状況だったので、その時の自分の行動を改めて振り返り、備わけていなかったか、どうすれば良かったのかを考えるとても良い機会になりました。
初めて知ることが多くて授業を聞いて楽しかった。
日本語教員がどういうものなのかということや、仕事内容など、様々なことを知ることができました。
自分が思っていた「日本語教師」というものが変わり、難しいと思いました。
日本語教育の現状や日本語教師になるためにこのようなことをしなければならぬなど知らなかったことをたくさん学べました。授業を受けてきて日本語教師や日本語教育について最初の時より理解出来ました。
外国人留学生にインタビューした授業はとても印象に残っています。インタビューした結果をグループで共有し、傾向や思考、日本のどんな所に興味があるのかを知ることが出来たからです。
海外での日本語教育の違いについて学ぶことができた。
日本語教師がどのような役割を担っているのか今回の授業で知ることができました。グローバル化が進み日本にもたくさんの外国人が様々な理由でやってくる。日本のこれからを守り、発展させる為には大事な仕事だと分かった。
この授業を受講してから、日本語教師への印象が最初に比べてだいぶ変わりましたが、日本語を教えることで外国人の方々とコミュニケーションをとっていく難しいけどやりがいのある職業だと感じました。
日本語教員養成課程の授業を初めて受けたので、とても新鮮でした。また、今まで知らなかった知識を身につけることができて、良かったです。
日本語の授業はどのようにするかイメージがわからなかったが、動画や先生方の話を聞いて理解でき、自分もやってみようと思った。日本で暮らす学習者の苦しみを知り、そこに寄り添える教員になりたいと感じた。
授業を通して、日本語教育の歴史や海外での日本語教育、海外の国や地域の知識や歴史など理解を深めることができ、より日本語教育への興味や関心が強まった。
短いようで長かったです。日本語教師や日本語を学習する外国人のことを深く掘り下げて勉強することで、日本語教師の大変さと他文化への理解も深まりました。でも、学んだことを活かせるように実際に留学生と交流する時間も設けて欲しかったです。色々勉強になりました。ありがとうございました。
元々日本語教育や言語学に興味があり受講を決めました。想像以上に知らないことが沢山あって学ぶことが楽しかったです。
言語や文化、社会はすべて繋がっていて、自分が指導する立場に立ったとき自分の今までの価値観、考えだけにとらわれず、常に多様性を意識してられるようにしたい。
この授業を受けて、日本のことをもっと知るべきだなと思う機会が増えました。外国の文化や、歴史はたくさん学びますが日本の文学や歴史などは詳しく知らないのでも学ぶ姿勢をもつことは大切だと思いました。
難しい授業内容の日もあったが、自分が興味をもった授業内容の日もあったから楽しかった。様々な国の日本語教育状況をもっと知りたいと思ったし、現地の人の声も聞いてみたいと思った。
この授業を取って改めて、正しい日本語の理解はもちろんのこと、多文化の理解も必要になってくることを実感した。これからも、日本語教師になるために様々なことを知っていき、最高の先生になりたいと思った。
日本語教師とは何かをイメージではなく授業で見ることが出来た。
この授業で印象的だったのは、担当の先生方が全員楽しそうに授業をしてきたことと、先生方が楽しそうに教えてくださることで、回数を重ねるごとにどんどん日本語教育の魅力に呑み込まれていきました。15回のすべての授業が面白くて自分の将来について考えることができた授業でした。ありがとうございました。
日本語教師とは、ただ日本語を教えるのではなく、文化や歴史などを学ぶことが必要だと思った。
授業を受けるにあたって、日本語学習者への接し方や他国の日本語教育の歴史について知れてすごく勉強になったと思いました。
日本語教師になる為に様々なことについて学んだ。特に、専門的な知識を与えるだけでなく、相手の国の文化について理解することがとても大事であることは印象に残っている。2年生から専門的な授業が始まるのが楽しみだ。
日本語教員になるうえでの基礎を知れる授業だったと思う。残りの日本語養成過程の科目も頑張りたい。
海外の日本語教育事情などが知れて面白かった。自分の聞いたことのない国でも日本語教育が行われていることに驚いた。2年次以降に日本語の教え方や文法などを学ぶのが楽しみです。
まだ、日本語教師としての知識は不十分だと思うので、2年生以降もしっかり学習して、沢山の能力を身につけたいと思いました。
初めての日本語教育の授業だったけど、わかりやすくてもっと興味が湧いた。

令和3年度 到達度自己評価アンケート（日本語教育学概論）

1. アンケート調査について
 - (1) 収集時期
2022年1月24日（月）
 - (2) 収集方法
履修学生に対しmanabaコースで収集
 - (3) 収集データ数
35名（履修登録人数35名、未回答5名）回答率85.7%

2. アンケート結果

質問		とてもそう思う		そう思う		あまりそう思わない		全くそう思わない		授業で身に付けられる日本語教師【養成】に求められる資質・能力
知識	1	12	40.0%	17	56.7%	1	3.3%	0	0.0%	○
	2	11	36.7%	17	56.7%	2	6.7%	0	0.0%	○
	3	10	33.3%	19	63.3%	1	3.3%	0	0.0%	○
	4	12	40.0%	14	46.7%	3	10.0%	1	3.3%	○
	5	8	26.7%	16	53.3%	4	13.3%	2	6.7%	
	6	8	26.7%	15	50.0%	5	16.7%	2	6.7%	
	7	11	36.7%	15	50.0%	4	13.3%	0	0.0%	
	8	11	36.7%	17	56.7%	1	3.3%	1	3.3%	
	9	14	46.7%	11	36.7%	3	10.0%	2	6.7%	
	10	12	40.0%	14	46.7%	3	10.0%	1	3.3%	○
	11	6	20.0%	19	63.3%	4	13.3%	1	3.3%	
	12	8	26.7%	17	56.7%	3	10.0%	2	6.7%	
	13	14	46.7%	12	40.0%	3	10.0%	1	3.3%	○
	14	13	43.3%	15	50.0%	1	3.3%	1	3.3%	○
技能	15	10	33.3%	15	50.0%	4	13.3%	1	3.3%	
	16	7	23.3%	14	46.7%	5	16.7%	4	13.3%	
	17	5	16.7%	16	53.3%	4	13.3%	5	16.7%	
	18	5	16.7%	16	53.3%	4	13.3%	5	16.7%	
	19	3	10.0%	15	50.0%	7	23.3%	5	16.7%	
	20	4	13.3%	12	40.0%	9	30.0%	5	16.7%	
	21	4	13.3%	13	43.3%	11	36.7%	2	6.7%	
	22	13	43.3%	8	26.7%	8	26.7%	1	3.3%	
	23	3	10.0%	16	53.3%	7	23.3%	4	13.3%	
	24	6	20.0%	14	46.7%	6	20.0%	4	13.3%	
	25	5	16.7%	14	46.7%	8	26.7%	3	10.0%	
	26	6	20.0%	11	36.7%	9	30.0%	4	13.3%	
	27	8	26.7%	14	46.7%	4	13.3%	4	13.3%	
	28	8	26.7%	16	53.3%	4	13.3%	2	6.7%	
	29	13	43.3%	12	40.0%	3	10.0%	2	6.7%	○
	30	8	26.7%	13	43.3%	6	20.0%	3	10.0%	
態度	31	13	43.3%	15	50.0%	2	6.7%	0	0.0%	○
	32	6	20.0%	16	53.3%	5	16.7%	3	10.0%	○
	33	11	36.7%	17	56.7%	2	6.7%	0	0.0%	○
	34	9	30.0%	15	50.0%	4	13.3%	2	6.7%	
	35	14	46.7%	12	40.0%	3	10.0%	1	3.3%	○
	36	11	36.7%	17	56.7%	1	3.3%	1	3.3%	○
	37	12	40.0%	14	46.7%	4	13.3%	0	0.0%	○
	38	11	36.7%	18	60.0%	1	3.3%	0	0.0%	○
	39	11	36.7%	16	53.3%	0	0.0%	3	10.0%	○
	40	14	46.7%	14	46.7%	1	3.3%	1	3.3%	○
	41	15	50.0%	11	36.7%	4	13.3%	0	0.0%	○

	授業を受けての感想を書いてください。（感想・コメント・印象に残った授業等、自由に記述してください。）
1)	日本語の文法を理解する事、日本語を教えることの難しさなどを理解することができました。これからは、学んだ知識を活かして外国人や留学生に日本語を教えられる環境を自ら率先して作ることができればいいと思います。全体的に授業の内容を把握することが難しかったです。
2)	日本語教育というのをこの授業で知り、日本語教育のことについて、知らないことや思っていた印象と違うことばかりだったので、授業を通して初めて知ることばかりにとっても面白かったです。特にやさしい日本語の講義が私の中で初めて知ることやそうなんだと思えたことが多かったので、印象に残っています。
3)	日本語教育の今の事情や様々な国々の文化との関わりなど多くのことを理解することができました。
4)	日本語教育について知らなかったことをたくさん知ることができた。海外の日本語教育事情は今まで全く知らなかったので、深く知ることができた。初等や中等教育で日本語を学ぶ授業がある国があることが印象に残った。今までは高校の第二言語で学ぶだけだと考えていたので、初等から学べる機会がある国があることに驚いた。海外の日本語教育についてもっと知りたいと思うようになった。実際に指導している様子なども見ていきたいと思った。
5)	様々な分野と関連して学習することで、視野を広げることができた。
6)	日本語教育の様々な事情について知ることができて良かった。
7)	留学生と話したことがなかったため、話すことができて良かったと思った。日本語学習者が、どのような話し方をするのか分かった。
8)	日本語教育のことを全くわかっていなかったが、授業を受けて、日本語学習者のことや、日本語学習についての現状を少し知ることができた。留学生の方と話をしてみたが、日本語を上手に伝えることが難しいことが分かった。
9)	授業を通して、世界の国々の人たちが日本に対してどのような印象や興味を持っているか等をよく知ることができ、自分自身の凝り固まった思考を溶かすことができたように感じた。また、日本語教育に関する知識はもちろん、コミュニケーション能力も磨いていかないと日本語教師になれないということを、今までの授業や先生方の私たちに対するコミュニケーションから身をもって感じるすることができた。そのため、これからの授業ではもっと活発的に動いていけたら良いと思います。
10)	日本の社会や文化についても考え、向き合うことができるようになり、よかったと思う。
11)	今まで知らなかった日本語教育について様々なことを学ぶことができた。日本語教育や日本語教師について理解を深めることができた。また、外国人と話すときに気をつけることについてわかった。
12)	日本語学習者だけでなく日本語教師も共に学び成長することが大切だと授業を受けて分かりました。また、固定概念にとらわれず、柔軟な考え方を持つことが大切だと思いました。日本語教師の活躍などを知り、初めは普通の教師よりも何かと大変だという印象を受けましたが、逆に普通の教師と違って既定の教育方法だけに縛られていない自由な教え方が楽しそうだと感じました。
13)	今回の授業を受けて日本語教員や日本語教育の考え方が変わった。僕が特に印象に残ったのは14回目の授業で色々な問題も提示され日本語教育も大変なのが問題から分かってきました。これから学年が上がるにつれ交流も多くなると感じたので正しい日本語を使って外国人に日本語の良さについて伝えていけるような人になりたいと感じた。
14)	日本語教育には高校生の頃から興味があり、大学ではそのような勉強ができたらいいなと思いつきました。ネイティブ・スピーカーの私たちにとってはそこまで難しいことではないだろうと思っていました。しかし、感覚で理解していることを言語化して、学習者に教えるということはとても難しいことだと痛感しました。この講義では、日本語教師に必要な基礎的知識や概念を学べたのでとてもよかったです。私は、日本語教師の資格を取得したいので休学しますが、その間に地域の日本語教室へボランティアに行ってみるなどしてみたいと思いました。
15)	海外で勤務した経験のある西條先生が話してくれる小話がとても面白くて4限目なのに全く眠気も襲って来ず楽しかったです。元本先生も、学習者たちの言い間違いや、経験談などサービス精神旺盛で様々なことを話して下さりとても面白かったです。富山先生は他の授業でも話が面白いですが、この授業でもとてもおもしろかったです。
16)	外国人がどのような気持ちで日本語を学んでいるのかということが少しわかったので、自分が教える際には学習者の目線になって考えて教えるようにしたいと思った。
17)	日本語教師としての知識や自覚、そして必要なことを色々と学べて大変有意義であった。
18)	日本語について改めて考え直す機会になりました。とても面白く興味深い講義でした。
19)	日本語教員により興味をもったが、その分大変さや難しさを知ることが出来た。
20)	日本語教育がどのようなものか、この講義で学んで、初めて日本語教育の入り口が見えたような気がしました。
21)	私が想像していた授業よりも少し難しかったが、日本語教師について様々なことを知ることが出来たのでこれから役に立ちそう。
22)	グループワークが多くほかの授業とは違い眠くならなかったのが楽しかった

42

令和3年度 到達度自己評価アンケート（日本語音声学・音韻論）

1. アンケート調査について
 - (1) 収集時期
2022年1月27日（木）～2022年2月2日（水）
 - (2) 収集方法
履修学生に対しmanabaコースで収集
 - (3) 収集データ数
27名（履修登録人数34名、未回答7名）回答率70.6%

2. アンケート結果

質問		とてもそう思う		そう思う		あまりそう思わない		全くそう思わない		授業で身に付けられる日本語教師【養成】に求められる資質・能力
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
知識	1 外国語に関する知識、日本語の構造に関する知識を持つことができた。	10	37.0%	17	63.0%	0	0.0%	0	0.0%	○
	2 言語使用や言語発達、言語の習得課程等に関する知識を持つことができた。	10	37.0%	16	59.3%	1	3.7%	0	0.0%	○
	3 個々の学習者の来日経緯や学習過程等に関する知識を持つことができた。	5	18.5%	20	74.1%	2	7.4%	0	0.0%	
	4 日本語教育プログラムやコースにおける各科目や授業の位置付けを理解できた。	7	25.9%	18	66.7%	2	7.4%	0	0.0%	
	5 様々な環境での学びを意識したコースデザインを行う上で必要となる知識を持つことができた。	5	18.5%	20	74.1%	2	7.4%	0	0.0%	
	6 日本語教育の目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持つことができた。	11	40.7%	16	59.3%	0	0.0%	0	0.0%	○
	7 学習者の学習過程を理解することができた。	6	22.2%	19	70.4%	2	7.4%	0	0.0%	○
	8 学習者に応じた内容・教材（ICTを含む）・方法を選択する上で必要となる知識を持つことができた。	6	22.2%	19	70.4%	2	7.4%	0	0.0%	
	9 言語・文化の違いや社会における言語の役割を理解し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。	10	37.0%	16	59.3%	1	3.7%	0	0.0%	○
	10 異なる文化背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学び合う態度を養うための異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を持つことができた。	8	29.6%	17	63.0%	2	7.4%	0	0.0%	
	11 学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要となる知識を持つことができた。	6	22.2%	20	74.1%	1	3.7%	0	0.0%	
	12 教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための知識を持つことができた。	6	22.2%	18	66.7%	2	7.4%	1	3.7%	○
	13 外国人施策や世界情勢など、外国人や日本語教育を取り巻く社会状況に関する一般的な知識を持つことができた。	7	25.9%	15	55.6%	4	14.8%	1	3.7%	
	14 国や地方公共団体の多文化共生及び国際協力、日本語教育策に関する知識を持つことができた。	6	22.2%	17	63.0%	3	11.1%	1	3.7%	
技能	15 日本語教育プログラムのコースデザイン・カリキュラムデザインを理解できるようになった。	6	22.2%	18	66.7%	3	11.1%	0	0.0%	
	16 目的・目標に沿った授業を計画することができるようになった。	4	14.8%	16	59.3%	6	22.2%	1	3.7%	
	17 学習者の日本語能力等に応じて教育内容・教授方法を選択することができるようになった。	3	11.1%	17	63.0%	5	18.5%	2	7.4%	
	18 学んだ知識を教育現場で実際に活用・具現化できる能力を身に付けることができた。	3	11.1%	18	66.7%	6	22.2%	0	0.0%	
	19 学習者に応じた教具・教材を活用できるようになった。	2	7.4%	19	70.4%	5	18.5%	1	3.7%	
	20 学習者に応じた教具・教材を作成できるようになった。	3	11.1%	14	51.9%	9	33.3%	1	3.7%	
	21 学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を身に付けることができた。	4	14.8%	15	55.6%	7	25.9%	1	3.7%	
	22 学習者に対する異文化間コミュニケーション能力を身に付けることができた。	3	11.1%	18	66.7%	4	14.8%	2	7.4%	
	23 授業や教材等を分析する能力を身に付けることができた。	6	22.2%	14	51.9%	5	18.5%	2	7.4%	
	24 教育活動を振り返り、改善を図ることができるようになった。	5	18.5%	15	55.6%	5	18.5%	2	7.4%	
	25 学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者の能力を適切に評価する能力を身に付けることができた。	6	22.2%	17	63.0%	3	11.1%	1	3.7%	
	26 学習者の日本語学習上の問題を解決するために学習者を指導する能力を身に付けることができた。	4	14.8%	15	55.6%	7	25.9%	1	3.7%	
	27 学習者が多様なリソースを活用できる教育実践を行う能力を身に付けることができた。	4	14.8%	16	59.3%	6	22.2%	1	3.7%	
	28 学習者の理解に応じて日本語をわかりやすくコントロールする能力を身に付けることができた。	5	18.5%	17	63.0%	4	14.8%	1	3.7%	
	29 学習者が日本語を使うことにより社会につながることを理解できるようになった。	8	29.6%	16	59.3%	3	11.1%	0	0.0%	
	30 学習者が日本語を使うことにより社会につながることを意識し、教育実践に生かすことができるようになった。	4	14.8%	17	63.0%	6	22.2%	0	0.0%	
態度	31 日本語だけでなく多様な言語や文化に対して深い関心と鋭い言語感覚を持ち続けようとすることができた。	10	37.0%	15	55.6%	2	7.4%	0	0.0%	○
	32 日本語そのものの知識だけでなく、歴史、文化、社会事象等、言語と切り離せない要素を合わせて理解し、教育実践に活かすことができるようになった。	7	25.9%	16	59.3%	2	7.4%	2	7.4%	○
	33 日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱をもつようになった。	7	25.9%	17	63.0%	3	11.1%	0	0.0%	
	34 自身の実践を客観的に振り返り、常に学び続けようとするようになった。	8	29.6%	14	51.9%	5	18.5%	0	0.0%	
	35 言語・文化の相互尊重ができるようになった。	9	33.3%	17	63.0%	0	0.0%	1	3.7%	○
	36 学習者の背景や現状を理解しようとするようになった。	9	33.3%	17	63.0%	1	3.7%	0	0.0%	○
	37 指導する立場であることを常に自覚し、自身のものの見方を問い直そうとするようになった。	7	25.9%	16	59.3%	3	11.1%	1	3.7%	○
	38 異なる文化や価値観に対する興味関心と広い受容力・柔軟性を持つようになった。	9	33.3%	16	59.3%	1	3.7%	1	3.7%	
	39 多様な関係者と連携・協力しようとするようになった。	9	33.3%	12	44.4%	5	18.5%	1	3.7%	
	40 日本社会・文化の伝統を大切にしようとなった。	9	33.3%	15	55.6%	2	7.4%	1	3.7%	
	41 学習者の言語・文化の多様性を尊重するようになった。	12	44.4%	12	44.4%	2	7.4%	1	3.7%	○

授業を受けての感想を書いてください。（感想・コメント・印象に残った授業等、自由に記述してください。）	
1)	自分がどのように音を発音していたのかがわかり、興味深かったです。
2)	後期授業ありがとうございました。口の構造の話が難しかったですがテスト頑張ります。
3)	日本語音声学は日本語を発音するとき舌や口がどのような動きで発音するかを学ぶことができたため、面白いと思った。今まで受講してきた知識を活かして、異なる言語を発音するとき舌や口をどのように動かしているか、考察しながら、日本語を発音するときの動きを比較してみたいと思った。
4)	この授業では主に音声について学習してきたが、全体的に覚える用語がかなり多いなという印象を持った。これを学習者に教える難しさや自分自身が理解できているかなどを考えると日本語の音声の分野はとても難易度が高い科目だなと感じた。
5)	この授業を通して日本語を「音」という新たな側面から学ぶことができて良かった。印象に残っている内容は、話し言葉にみられる音の変化の現象についてである。これは、人が会話する上で「話しやすさ」を重視したことにより日本語が崩れてしまったものという認識より、音の変化の現象としてみるとどれも規則性があるもので、現代では変化後の現象の方が主流になっていることから、日本語は日々進化するものという認識が変わった。また、他県や他国などと比較しその共通点や相違点から、言語の学びやすさ、発音方法などを学ぶことができ、日本語の視野が広がったと感じた。
6)	日本語を話す時に無意識で話していたけどこの講義を受けて一つ一つの語を発音する際に意識を向けることが増えました。
7)	日本語音声学・音韻論を通して、今まで知らなかった日本語についての知識を身につけることができたので、良かったです。ありがとうございました。
42	8) 今までの講義で、音声・音韻の専門的な用語や種類は勿論、学習者の様々な母語の特徴やそれを踏まえた指導方法など学ぶことができた。普段私達が発している音声やことばにはそれぞれ専門的な用語や特徴があり、国際音声記号など様々な種類があることが分かった。また、日本語だけでなく外国語もそれぞれ発音方法など沢山の特色があるため、学習者の母語の特徴も考慮した日本語指導も重要であると学ぶことができた。学習者が苦手とすることばや発音などを専門的に知っておくことで、授業の内容や日本語トレーニングの指導など工夫することができ、また学習者の発音の上達に役立つためとても大切だと思った。少し難しい内容ではあったが、日本語教育では大切な知識となっていくため、今後の日本語教育の授業や学習に生かしていけたら良いと思う。
9)	英語音声学の同時に受講していたので、英語と比較しながら授業を受けることができました。
10)	覚えるのが大変な授業だと思いました。コロナでマスクが外せないから仕方がないかもしれませんが発音方法の違いがいまいちわからなかったです。自分でも調べてみたいと思います。
11)	初めは、日本語教員養成過程で必要な授業だからという気持ち強い状態で授業を受けていました。しかし授業を受けていくうちに音声学の奥深さ、日本語の特徴を知ることができて楽しくなりました。また、学習者の出身国の違いによって発音の違いが出てくることに面白さを感じました。
12)	講義の最後の方が少し進むペースが早くて、難しかったです。
13)	学習者によって母語の干渉も変わってくるため、一人一人の学習者に応じて学習内容などを変えていく柔軟性が大切であることが分かった。
14)	難しい内容ではあったけれど、初めて知ることが多く関心を持って授業を受けることが出来ました。
15)	前半の授業は、内容もまだわかりやすいものでしたが、後半、「子音」に入ってから一気に難しくなり困惑しました。前半はかなりゆったりめでしたので、後半の方をよりじっくり時間をかけて説明していただきかったです。また、教科書の文章をなぞっていくだけでは、なかなか理解するのに時間がかかってしまう項目もあり、音声学・音韻論に関する聞きなれない言葉について、補足の説明があればいいなと思いました。難しかったですが、日本語の音の出し方が一つ一つ学習していけるのはおもしろかったです。特に、どこから音をだすのか、どのように息が通り、音が出るのか、舌や唇がどうなっているのかを、実際に発音しながら確認してみると、説明されている通りに発音しているので、音声学・音韻論は興味深い分野だと思いました。

6. 事業全体の評価

6.1 評価委員会の設置

本事業全体の評価を実施することを目的に、日本語教員養成課程評価委員会（以下、「評価委員会」）を設置した。

評価委員会は、過半数の学外有識者で組織し、本学が行う日本語教員養成事業に関する事業目的の達成及び改善に資するため、次の事項の評価を行う。

- (1) 日本語教員養成課程に関すること。
- (2) その他、日本語教員養成課程に関し必要な事項。

本課程は2020年4月に開講するため、日本語教員養成課程検討・実施委員会において、評価の方法や指標を検討・決定し、それに従って2020年度以降毎年評価を実施することとした。また、評価結果により毎年、次年度以降のカリキュラム、授業内容、授業方法等についての改善を行うことも含めた。

【構成員】

≪2020年度≫

西口 光一（大阪大学国際教育交流センター 教授）委員長
田中 大輝（鳴門教育大学グローバル教育コース 准教授）
黒石 康夫（公益財団法人 徳島県国際交流協会 理事長）
元木 佳江（全学共通教育センター 准教授）
西條 結人（全学共通教育センター 助教）

≪2021年度≫

西口 光一（大阪大学国際教育交流センター 教授）委員長
田中 大輝（鳴門教育大学グローバル教育コース 准教授）
黒石 康夫（公益財団法人 徳島県国際交流協会 理事長）
元木 佳江（全学共通教育センター 准教授）
城本 春佳（文学部日本文学科 講師）
西條 結人（全学共通教育センター 助教）

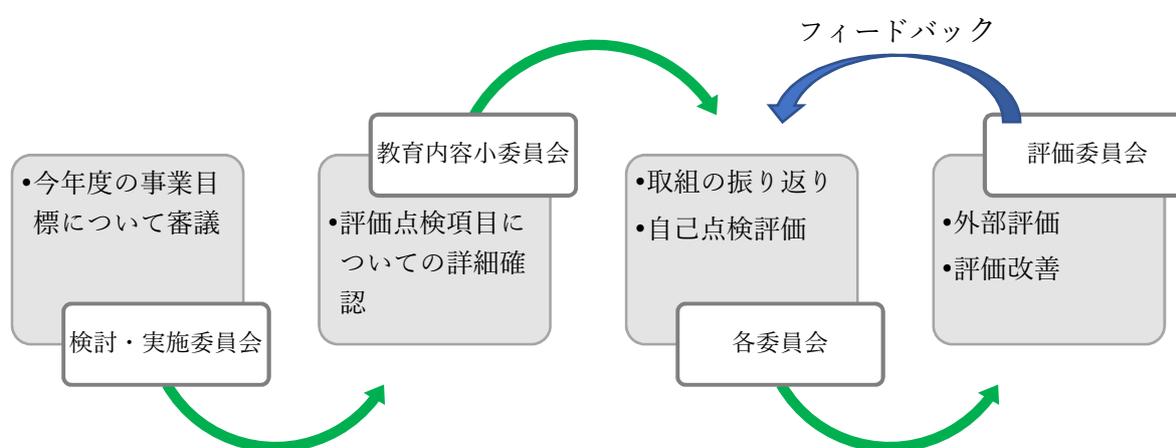
【会議経過】

2021年2月26日 令和2年度 日本語教員養成課程評価委員会
2022年3月1日 令和3年度 日本語教員養成課程評価委員会

6.2 事業評価の概要

事業評価については、「日本語教員養成課程検討・実施委員会」で評価点検項目を審議・決定し、各委員会は年度ごとに取組状況を振り返り、自己点検評価を行った。

評価委員会では、各委員会から事業の取り組み状況について報告し、自己点検評価の結果について説明を行った。外部委員は、これらの報告をもとに評価を行う。各委員会は、外部評価の結果を踏まえ次年度に向けて計画の修正や取り組み内容の改善を行うこととした。



6.3 事業評価の実施(2020年度)

6.3.1 自己点検評価 (内容)

評価委員会の開催までに、評価点検項目に沿って自己評価を行った。2020年度の評価点検項目と評価方法は、以下のとおりである。

【評価点検項目】

<カリキュラム開発・実施検討委員会>

- ① 『「日本語教育人材の養成・研修のあり方について(報告)」改定版』に示されている「必須の教育内容」が必須の教育内容が網羅されている。
- ② 日本語教員養成課程の必修科目について、科目間の内容的なつながりを考慮したカリキュラムとなっている。
- ③ 日本語教師に求められる資質・能力が養成されているかを確認するために、学生による到達度自己評価を学期ごとに実施し、検証を行う。

<教育内容（シラバス）検討小委員会>

- ④ シラバスが必須の教育内容を修得するのに相応しい内容になっている。
- ⑤ 「日本語教育実習」について、履修要件及び教育内容が検討されている。

<教材開発小委員会>

- ⑥ 日本語教員養成課程科目について、到達目標に合ったテキストの選定が検討できている。
- ⑦ 「日本語教育学概論」のサブテキストとして作成した教材が、四国大学文学部日本語教員養成課程において、学生が目指すべき方向を示す教材となっている。

【評価基準及び評価方法】

- ・各委員会において、実施計画の項目ごとに事業の進捗状況等について評価・点検を行う。
- ・計画通りに進んでいない場合は、その理由及び次年度以降の取組について記載する。
- ・評価基準は以下のとおりとする。
 - 5 非常に優れている（計画の内容をすべて達成し、成果が認められる）
 - 4 優れている（達成状況が9割以上）
 - 3 妥当である（達成状況が7割以上）
 - 2 やや不十分である（達成状況5割以上～7割未満）
 - 1 不十分である（達成状況が5割未満）

自己点検評価は、各委員会の委員長が取り組みを振り返りながら検証した。

※自己点検評価については、6.3.3「評価結果」の「令和2年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業 評価点検調書」を参照。

6.3.2 2020年度評価委員会の開催

2020年度は2月26日に四国大学で開催予定であったが、コロナウィルス感染拡大の影響からオンラインで実施した。評価委員会には、外部委員3名（西口委員、田中委員、黒石委員）と学内委員2名（元木委員、西條委員）に加え、四国大学川本幸彦副学長、阿部曜子文学部長、教育内容（シラバス）検討小委員会城本春佳委員長が同席した。

初めに、評価委員会の趣旨説明、委員紹介を行い、元木委員から今年度の評価点検項目について説明を行った後、西口光一委員を委員長に選出し議事を進行した。

【議題】

1. 今年度の事業実施に関する評価について
 - (1) 主な取り組み概要説明
 - (2) 評価関係資料説明
 - ・カリキュラム検討・実施
 - ・教育内容（シラバス）
 - ・教材開発
 - (3) 取り組みに関する評価
2. 次年度以降の課題と改善策について
3. その他

各委員会の報告と自己点検評価の結果を受け、外部委員からはカリキュラムの妥当性についての検証方法、必須の教育内容の配分が適当であるかどうかについて、教育実習の対象について、四国大学の日本語教員養成の理念は何か、どのように示すのかといった意見が出された。

これらの意見に対して、学内委員からは、「カリキュラムの妥当性についての検証は、自己評価アンケートを完成年度に向けて毎年実施するとともに、知識がどの程度修得できているかを客観的に評価するテストの実施も検討していきたい。」「必須の教育内容をどの科目において扱うかについては、次年度も引き続き検討を行っていき、シラバスにも明確に反映させる方向で調整していく。」「教育実習については「公認日本語教師」の動向も見ながら、検討を継続していく。」「養成課程の理念については、「理念」を言語化しガイドブックに掲載することで、日本語教員を目指す学生たちに示す」等の回答があり、これらを次年度の課題とした。

委員会では、学外委員から次のようなコメントがあった。

西口委員長：

「日本語教育学概論」は48人の受講があった。アンケートの自由記述を拝見したが、非常に学生たちの関心が高いことが伺える。実習を考えると40

人はちょっと大変だと思う。1年生の科目なので日本語教員養成課程をやってみようかなという学生も含まれていると思うが、期待は大きいので、今後ますます充実した教育を計画して実施して頂ければありがたい。

黒石委員：

地域の国際交流協会の中で今役割が大きく変わっている。一つは相談事業と日本語教育事業があり、日本語教育事業が地域へ移ってきており、それぞれの地域の先生が非常に必要になってきている。そういう所で活躍出来る先生を育てて頂ければ大変ありがたい。こういった事業をどんどん展開して行って成果を出すことをお祈りしている。

田中委員：

鳴門教育大学は大学院での教員養成をやっているが学部はやっていないので、四国大学のやり方が勉強になっている。私にとっても鳴門教育大学にとっても学びが大きいものになっている。これからも応援している。

6.3.3 評価結果

2020年度の各委員会における自己点検結果と外部評価については、次の表の通りである。

	取組(委員会)	事業実施項目	自己評価点	自己評価(各委員会)	西口 光一		田中 大輝		黒石 康夫	
					評価点	外部評価者評価	評価点	外部評価者評価	評価点	外部評価者評価
項目 1	カリキュラム開発 (カリキュラム開発・実施検討委員会)	<p>①『「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」改定版』に示されている「必須の教育内容」が網羅されている</p> <p>②日本語教員養成課程の必修科目について、科目間の内容的なつながりを考慮したカリキュラムとなっている</p> <p>③日本語教師に求められる資質・能力が養成されているかを確認するために、学生による到達度自己評価を学期ごとに実施し、検証を行う。</p>	4	カリキュラムについては2018年度から検討しており、2020年度開設に向け2019年度には「必須の教育内容」を網羅した形で完成した。「必須の教育内容」は日本語教員養成課程の必修科目(17科目)に組み込んでいるが、開講年度の遅い科目については教育内容の検討が継続中のため、科目間での移動が生じる可能性が含まれる。	5	<p>学長、副学長、文学部長の強力なバックアップの下に全般的にカリキュラム等開発事業が順調に進捗している。</p> <p>2020年度入学生より日本語教員養成課程が始まるため、2019年度中にカリキュラムを企画し、新入学生に養成課程の全容を紹介することができた。養成課程のパンフレットが作成されて課程の内容が示され、また別途の資料で各学科ごとに養成課程を履修する場合の履修科目見取り図を示したことも高く評価される。カリキュラムの中身に関しては、そのコアとして12科目に及び日本語教員養成課程科目が新規に計画されておりひじょうに充実した課程となっている。</p> <p>科目の内容の調整や科目間のつながりなどについては、科目相互間の関係を図示した独自のカリキュラム・マップを作成して教育内容小委員会で詳細に検討が行われ、また教材開発小委員会での教材の選定などに関連しても検討・確認されており、よく精査・調整されている。</p> <p>本課程初年次の科目「日本語教育学概論」での学生アンケート(到達度自己評価)の結果からは学生たちの日本語教育や日本語教師への強い関心が読み取れ、初年次の教育の目標は十分に達成されたものと判断される。</p>	4	<p>①については、『「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」改定版』に示されている「必須の教育内容」は確かに網羅されている。</p> <p>②については、日本語教員養成課程の必修科目は(少なくとも現段階においては)科目間のつながりが十分に考慮された内容となっている。</p> <p>③については、思いがけず、当該科目での育成を目的としていない項目についてまで到達度自己評価が高かったという報告がなされた。カリキュラムの有効性を検証するためのアンケートであることを考えると、アンケートの質問項目がこのままで良いのか、さらなる検討が必要かもしれない(例:質問項目は、「すべての授業についての共通の質問項目」と「科目(グループ)ごとの個別の質問項目」とに分けるべきではないか、など)。また、「日本語教師に求められる資質・能力が養成されているかを確認すること」を目的とするのであるならば、学生による自己評価だけでなく、到達度を客観的に測る指標も必要であろう。</p>	4	必須内容が網羅されており、カリキュラムマップも作成され、わかりやすい。アンケートによる到達度自己評価がなされ、アンケート結果も殆どの項目で及第点となっている。ただ知識の項目については、自己評価よりも客観的なテストによる方が望ましい。
項目 2	教育内容(シラバス)検討 (教育内容(シラバス)検討小委員会)	<p>④シラバスが必須の教育内容を修得するのに相応しい内容になっている</p> <p>⑤「日本語教育実習」について、履修要件及び教育内容が検討されている</p>	3	<p>開講年次の早い科目を優先してシラバス内容の検討を行い、当該科目で習得すべき内容に適したシラバスになるよう改善してきた。開講年次の遅い科目について、まだ検討の余地がある。</p>	4	<p>区分「言語」の各科目の内容はすでに検討され適切な内容が計画されている。一方で、4年次の日本語教育実習(科目名は日本語教育実践となる予定)につながる日本語教育方法論や日本語教授法演習の内容は今後の検討課題として残されている。四国大学としてどのような実践的なコンピテンシーをどのような経路でどのように育成していくかしっかりと研究して一つの優れたモデルが提案されることを期待する。</p> <p>教育実習については、学内日本語科目での教壇実習と地域での日本語活動の企画・実践という2本立てを考えているということで、上でも言及した実践的なコンピテンシーを育成するプランと評価できる。</p>	3	<p>④については、各授業のシラバスが「必須の教育内容」を修得するのに相応しいと言えるか、やや疑問に思う点があった。(例:「社会言語学・語用論」では「(10)コミュニケーションストラテジー」を第何回目の授業で扱うのか分かっていない、「第二言語習得論」では「(16)習得過程(第一言語・第二言語)」のうち「第二言語」しか扱わないように見える、など)。「必須の教育内容」の網羅性を謳うのであれば、カリキュラムだけでなく、各授業のシラバスにおいても、その点を明示する必要があるだろう。</p> <p>⑤については、現段階では妥当な進捗状況であると思われる。</p>	4	シラバスは、具体的でしっかりとした内容になっている。科目の開講年次に差がある関係で、若干の進捗の差があるようだが、それは開講に合わせて詰めていけばいい。実習の履修要件についての話し合いが行われており、実習は最終の4年次となるため、実習の具体的な計画については、学習対象者に合わせて計画を立てていただきたい。
項目 3	教材開発 (教材開発小委員会)	<p>⑥日本語教員養成課程科目について、到達目標に合ったテキストの選定が検討できている</p> <p>⑦「日本語教育学概論」のサブテキストとして作成した教材が、四国大学文学部日本語教員養成課程において、学生が目指すべき方向を示す教材となっている</p>	3	<p>日本語教員養成課程科目のテキストの選定を進めており、教育内容(シラバス)と照らし合わせながら、開講年度を迎える科目については作業を終えている。使用テキスト未定となっている「日本語教育方法論」「日本語教授法演習」「日本語教育実習」の3科目については、教育内容(シラバス)を検討している段階にあり、令和3年度にテキスト選定の検討を進めていく。</p>	4	<p>2年次・3年次の教育の実施に向けて順調に進捗している。</p> <p>「日本語教育学概論」のサブテキストについては、今年度活用することができなかったのは残念だが、来年度の使用に向けて、学生たちの日本語教育に対する興味・関心を喚起し、情報も豊富な充実したサブテキストが企画され、すでに完成に近づいており、進捗状況はおおむね良好であると評価できる。</p>	3	<p>⑥については、現段階では妥当な進捗状況であると思われる。</p> <p>⑦については、まだ概観を提示されただけであるため、中身を十分に吟味することはできていない。ただ、各授業のシラバスにおいて参考文献の記載が(少)なかったり「講義の中でそれぞれの担当教員から案内します。」と書かれてあるに留まっていたりしているため、サブテキストの中で、このカリキュラム全体の参考文献を一覧にして示したり、辞典類や用語集などの文献リストを付けたりするのはどうか。引き続き、受講する学生にとってより有益なサブテキストとなるよう、内容の充実を目指していただきたい。</p>	3	科目の開講年次に合わせて使用テキストの選定作業が行われており、一部未定の項目についてもシラバスの検討の状況に応じて進められている。サブテキストは、9割程度が終了しており、運用は令和3年度の後期と言うことなので、しっかり進めていただきたい。
<p>5 非常に優れている。(計画の内容をすべて達成し、成果が認められる)</p> <p>4 優れている。(達成状況が9割以上)</p> <p>3 妥当である。(達成状況が7割以上)</p> <p>2 やや不十分である。(達成状況5割以上～7割未満)</p> <p>1 不十分である。(達成状況が5割未満)</p>					コメント、ご意見等	コメント、ご意見等	コメント、ご意見等			
					<p>日本語教育方法論、日本語教授法、日本語教授法演習そして教育実習を通して、さまざまな学習者をしっかり支援できる発想豊かで状況に柔軟に対応できるコンピテンシーをどのような経路でどのように育成していくかをしっかりと研究して、主専攻にふさわしい教育が企画され実施されることを期待しています。この間の関係の先生方のご努力に敬意を表します。また、本養成課程の開発・実施を強力にサポートしてくださっている学長、副学長、文学部長の先生方に外部委員の一人として感謝いたします。</p>	なし	<p>日本語教育実践のシラバスにある「振り返り」は、とても重要なことだと考えます。入管法が改正され労働者が増加し、また、永住者が増加している中で、学習対象者が多様化しており、教室のマネジメントがより一層難しくなることが予想されます。また、家族帯同の外国人が増えてきており、大都市では、小中学校での学習支援が大きな課題となっています。日本語教師の質の向上は喫緊の課題であり、実践を通じて「事前の準備」と「振り返り」をしっかり行い自己成長のできる教師の養成を期待しています。また、PDCAサイクルについては、プランの段階で年度毎の進捗計画や到達目標を、年度途中で変更してもいいから、できる限り数値で表すなどわかりやすくすべきと考えます。また入管法の改正後、国は、日本語教育について、地域に空白地帯をなくす方向で、教室の開設を地域の国際交流協会に働きかけています。しかし、日本語を教えられる人材が少ないのが現状です。この課題解消のためには、日本語教師の待遇改善が重要であり、そのための制度改正や予算獲得など公的な補助を国に働きかけていく必要があります。最後に、貴大学は、日本語教育者育成に熱心に取り組んでおられ、優れたノウハウを一層蓄積されることと思いますので、今後とも、地域の在住外国人やその子供の日本語学習の拡充にご協力いただきますようお願いいたします。</p>			

6.4 事業評価の実施(2021年度)

6.4.1 自己点検評価(内容)

評価委員会の開催までに、評価点検項目に沿って自己評価を行った。2021年度の評価点検項目と評価方法は、以下のとおりである。

【評価点検項目】

<カリキュラム開発・実施検討委員会>

- ① 四国大学の日本語教員養成課程が、これからの社会に求められる日本語教育人材を養成するカリキュラムとなっている。
- ② 「言語と教育」を中心に、主専攻にふさわしい教育が企画され、実効性の高いものとなっている。
- ③ 日本語教師に求められる資質・能力が育成されているかを確認するための妥当な評価方法が検討されている。

<教育内容（シラバス）検討小委員会>

- ④ シラバスが必須の教育内容を修得するのに相応しい内容になっている。
- ⑤ 教育実践に関わる科目の教育内容が、四国大学日本語教員養成課程の目指す教員像に基づいて精査されている。

<教材開発小委員会>

- ⑥ 日本語教員養成課程科目について、到達目標に合ったテキストの選定が検討できている。
- ⑦ 「日本語教育学概論」のサブテキストとして作成した教材が四国大学文学部日本語教員養成課程の理念を示すとともに、学生が目指すべき方向を示す教材として開発できている。

【評価基準及び評価方法】

- ・各委員会において、実施計画の項目ごとに事業の進捗状況等について評価・点検を行う。
- ・計画通りに進んでいない場合は、その理由及び次年度以降の取組について記載する。
- ・評価基準は以下のとおりとする。
 - 5 非常に優れている（計画の内容をすべて達成し、成果が認められる）
 - 4 優れている（達成状況が9割以上）

- 3 妥当である（達成状況が7割以上）
- 2 やや不十分である（達成状況5割以上～7割未満）
- 1 不十分である（達成状況が5割未満）

自己点検評価は、各委員会の委員長が取り組みを振り返りながら検証した。

※自己点検評価については、6.4.3「評価結果」の「令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業 評価点検調書」を参照。

6.4.2 2021年度評価委員会の開催

2021年度は3月1日に四国大学にて実施した。評価委員会には、外部委員3名（西口委員、田中委員、黒石委員）と学内委員3名（元木委員、城本委員、西條委員）に加え、四国大学川本幸彦副学長、阿部曜子文学部長が同席した。

初めに、評価委員会の趣旨説明、委員紹介を行い、元木委員から今年度の評価点検項目について説明を行った後、西口光一委員を委員長に選出し議事を進行した。

【議題】

1. 四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会の取り組みについて
2. 教育内容（シラバス）検討小委員会の取り組みについて
3. 教材開発小委員会の取り組みについて
4. 各委員会の取り組みに対する評価について
5. その他

各委員会の報告と自己点検評価の結果を受け、外部委員からは、日本語教員養成課程科目の履修人数の推移の確認、「日本語教育実践」における授業計画、授業外学習を含む「言語と教育」区分における科目間のつながり、「日本語教育学概論」で使用するサブテキスト『日本語教員養成課程ガイドブックー四国大学から世界へー』の内容の確認について、質問や意見が挙げられた。

まず、日本語教員養成課程科目の履修人数については、文学部所属学生の約3分の1が履修していること、日本語教員養成課程を修了しようとする学生以外にも英語科教員や国語科教員を目指す学生の履修も見られたことが報告され

た。「日本語教育実践」の具体的な実施方法については、教授実践 A と教授実践 B の 2 つに大きく分けたこと、実践 A では留学生を対象とし、文学部の各学科の特色を活かした授業を企画すること、実践 B では対象者別に、指定された枠組みの中で授業実践することなどを検討している。「言語と教育」区分における実践力の育成に関する科目間のつながりについては、交流→体験→実践といった段階に沿って展開していく。授業外の交流・体験活動では、地域の国際交流協会や四国大学の学術交流提携校等と連携し、ランゲージパートナーや日本語学習支援を行うことを検討している。「日本語教育学概論」で使用するサブテキスト『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』に関しては、ガイドブックの中で四国大学日本語教員養成課程の理念を明文化し示したこと、PDF と冊子版の 2 つのタイプで刊行することを確認した。

委員会では、外部委員から次のようなコメントがあった。

西口委員長：

3 年前期で留学生と接し、3 年後期で留学生の日本語を知るとともに背景を知り、留学生との関わりを深めたうえで 4 年になるという流れはいいパターンである。ガイドブックの内容を一通り見て、資料としても教材が入っているため学生の参考になり、授業の資料としても十分である。また、四国大学の養成課程の考えや教員の見識を示しているので 3 年間の大きな成果と言える。

黒石委員：

地域における日本語教育について、徳島県の場合半分の市町村において日本語教室が開けていない。人材がないというよりは、引っ張っていく人がいない。引っ張っていくリーダーとなる人材が必要であり、質と量が必要である。現在、技能実習生の受け入れ人数として、徳島市が 1 番、次に阿波市である。理由としては農業の技能実習生が増えている傾向にあり、徐々に田舎のほうにも入ってきている。ただ、例えば徳島県国際交流協会の教室にはなかなか来られず、通える範囲での教室が必要であるのが実状。なので、日本語教育が必要であると実感している。

田中委員：

この開発事業全体を通して、常にミクロな視点での検討とマクロな視点での検討がバランスよくなされており、どの委員会においても、問題の整理・

解決・見直しが適切になされ、成果が着実に積み上げられていると感じた。
これからも、四国大学の強みを生かした日本語教育人材育成に大いに期待している。

6.4.3 評価結果

2021年度の各委員会における自己点検結果と外部評価については、次の表の通りである。

令和3年度 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業 評価点検調査

	取組（委員会）	事業実施項目	自己評価点	自己評価（各委員会）	西口 光一		田中 大輝		黒石 康夫					
					評価点	外部評価者評価	評価点	外部評価者評価	評価点	外部評価者評価				
項目1	カリキュラム開発 (カリキュラム開発・ 実施検討委員会)	四国大学の日本語教員養成課程が、これからの社会に求められる日本語教育人材を養成するカリキュラムとなっている	5	カリキュラムについては、令和2年度に科目における必須の教育内容の見直しを行い、理論と実践の両輪から人材養成を行うよう組み立てられた。「これからの社会に求められる日本語教育人材を養成する」については、研修会を開き研鑽を行いながら、四国大学の日本語教員養成に対する理念について小委員会で議論し、検討を行ったうえでガイドブックの「執筆者一同」に示した。これらの作業を通して、目標とするカリキュラムの完成はおおむね達成できた。	4	過去3年間、日本語教員養成課程検討・実施委員会を全体を統括する委員会とし、その下に教育内容検討小委員会と教材開発小委員会を設置して、学長・副学長並びに文学部長のサポートも得ながら、関係の教員とスタッフが丸となって、研修会を開催するなど関係教員のFDをも促進し、理念もしっかりと共有しつつカリキュラムの研究と開発に取り組む、四国大学の強みを生かしながら、主専攻にふさわしい優れたカリキュラムを開発することができた。科目間の有機的な関連がしっかりと把握されており、教育実践の技量の育成に関しても、交流・体験活動や学習者インタビューなどを経験した上で、教育実践科目に進む形となっており、ひじょうに妥当であり、優れている。	4	「事業実施項目」の一つ目については、科目間の内容的な繋がりというミクロな点においては、昨年度の段階ですでに十分に考慮したカリキュラムとなっていたが、最終年度である今回は、さらに「これからの社会に求められる日本語教育人材を養成する」というマクロな点においても、筋の通った理想的なカリキュラムになっていると思われた。	5	これからの社会に求められるグローバル人材の育成に向けて、理論と実践の両面から練られたカリキュラムが作成されている。文化庁の目標とする「日本語教師に求められる資質と能力」の向上を達成するためのカリキュラムとなっている。科目間のつながりが綿密に検討され、また、交流・体験活動も地域の様々な機関と連携がなされ、実践力の育成が期待できる。4年次の教育実践についても具体的な準備が進められている。自己評価アンケートの結果を見ても、一部まだ扱っていない項目については自己評価が低いものの、「態度」の項目においては、「自己研修型教師」としての「やる気」を読み取ることができ、日本語教師の自己成長が期待できる。				
		「言語と教育」を中心に、主専攻にふさわしい教育が企画され、実効性の高いものとなっている	4	科目間のつながりの検討、交流・体験活動の実現に向けた情報収集、学外機関との連携等、実践力育成のため教育内容（シラバス）小委員会において詳細を検討し具体化を図った。一方、令和5年度に開講する教育実践等の科目については、まだ課題が多く、今後検討を続ける必要がある。							4	到達度自己評価アンケートの作成、到達度自己評価の項目と科目の授業内容との関連などを明示的に表し、評価の妥当性について検討を続けてきた。履修生のコメントなど質的に分析を行う限り評価方法は妥当であると考えられるものの、完成年度の結果を踏まえて判断を行いたい。	4	「事業実施項目」の二つ目については、主専攻としてふさわしい教育内容が具体的に企画されていると思われた。ただし、評価委員会において城本春佳委員からも指摘があったように、科目についてはいずれも未開講であるため、実効性の検証や具体的な課題の改善等については、今後、さらに検討を進める必要があるだろう。
		日本語教師に求められる資質・能力が育成されているかを確認するための妥当な評価方法が検討されている。	4	到達度自己評価アンケートの作成、到達度自己評価の項目と科目の授業内容との関連などを明示的に表し、評価の妥当性について検討を続けてきた。履修生のコメントなど質的に分析を行う限り評価方法は妥当であると考えられるものの、完成年度の結果を踏まえて判断を行いたい。							4	到達度自己評価アンケートの作成、到達度自己評価の項目と科目の授業内容との関連などを明示的に表し、評価の妥当性について検討を続けてきた。履修生のコメントなど質的に分析を行う限り評価方法は妥当であると考えられるものの、完成年度の結果を踏まえて判断を行いたい。	4	「事業実施項目」の三つ目については、指摘されていた問題点を踏まえた改善がなされていると思われた。ただし、昨年度にも複数の外部評価者から指摘があったように、「日本語教師に求められる資質・能力が養成されているかを確認する」ことを目的とするのであるならば、その評価方法には、学生による自己評価だけでなく、到達度を客観的に測る指標も取り入れるべきではないだろうか。
項目2	教育内容(シラバス)検討 教育内容(シラバス)検討 小委員会	シラバスが必須の教育内容を修得するのに相応しい内容になっている	4	既に開講されている科目の教育内容を確認しながら、来年度以降に開講される科目のシラバスについても検討を重ね、科目間での教育内容の調整を行いながら、必須の教育内容を修得するに相応しいシラバスを完成させた。今後は、新たに開講された科目の授業成果を踏まえて、シラバス内容の精査を重ねていきたい。	4	資料の「言語と教育」科目における「実践力」の育成」で示されているように、「交流から学ぶ」→「授業見学」→「事例から学ぶ」→「模擬授業」→「教育実践」という教育実践力を育成するために綿密なステップが企画されている点がひじょうに優れている。学生たちには、こうしたカリキュラムを経験して、各自内で内省も深めながら、内省力も身につけた実践力のある人材を育成することができると見られる。	5	「事業実施項目」の四つ目については、昨年度に各外部評価者から指摘されていた課題等が解決され、必須の教育内容を習得するのにふさわしいシラバス内容になっていると思われた。ただし、未開講の科目については今後も検討が必要であろうし、すでに開講されている科目についても、授業を行った教員や受講した学生によるフィードバック等により、引き続き、シラバス内容の吟味を続ける必要があるだろう。	5	必須科目毎にシラバスが作成され、それぞれ到達目標と、それにに向けた詳細計画が作られ、教育内容の習得にふさわしいシラバスとなっている。教育実践について、授業計画の作成、使用教材の選定、実習終了後の「振り返り」が重点的に組み込まれており、実践を通じた教師としての自己成長が図られるものと思われる。				
		教育実践に関わる科目の教育内容が、四国大学日本語教員養成課程の目指す教員像に基づいて精査されている。	4	今年度は、特に教育実践に関わる科目においてどのように実践力を育成していくかについて議論を重ね、具体案を提示してきた。これらの科目は、来年度から実際に開講されていくので、提案を実行に移し、その成果を検討しながら改善を続けていきたい。							4	「事業実施項目」の五つ目については、目的に沿った十分な精査がなされていると思われた。		
項目3	教材開発 (教材開発小委員会)	日本語教員養成課程科目**について、到達目標に合ったテキストの選定が検討できている	4	前年度に引き続き、日本語教員養成課程科目のテキストの選定を進め、教育内容（シラバス）と照らし合わせながら、開講年度を迎える科目については検討を終えることができた。言語と教育に関する科目の中で、再来年度開講の「日本語教授法演習」「日本語教育実践」のテキスト選定については、来年度開講する「日本語教育方法論」「日本語教授法」「異文化間教育論」の言語と教育に関する科目における成果と課題を踏まえた上で、より詳細に教育内容（シラバス）を検討する必要があるため、テキスト選定についても事業終了以降も検証を行っていく必要がある。	5	学長、文学部長の協力も得て、関係教員一丸となってカリキュラム開発に取り組むつ、いわばそうした力の結集の中核に据えた形でガイドブックの作成・編集が進められた。そして、学生たちを高く動機づけ、文学部3学科の特色も踏まえながらこれから学ぶ道筋及び将来の展望を示す『日本語教員養成課程ガイドブックー四国大学から世界へー』が作成された。同ガイドブックは、「日本語教育概論」のサブテキストとなるにとどまらず、四国大学の日本語教員養成課程で学ぶ学生たちの「ハイプル」のようなものになるだろう。	5	「事業実施項目」の六つ目については、どの科目においても、到達目標に適したテキストが選定されていると思われた。ただし、未開講の科目については今後もさらなる検討が必要であろうし、すでに開講されている科目についても、授業を行った教員や受講した学生によるフィードバック等により、引き続き、テキストの吟味を続ける必要があるだろう。また、テキストは、日々、新しいものが開発されているので、今後も、選定するテキストには定期的な見直しが必要になると思われる。	5	シラバスの到達目標を達成する上で、適切な教材が選定されている。日本語教員養成課程ガイドブックー四国大学から世界へーは、日本語教員を目指す学生に高い目標と方向性を与え、共に、具体的な道筋を示す内容となっている。併せて、日本語教師として、自立と新しい世界へのチャレンジ精神の醸成に資するものと考え、養成課程を履修する学生以外の学生にも読んでもらい、多くの学生が、この日本語教員養成課程を履修することを期待したい。				
		「日本語教育学概論」のサブテキストとして作成した教材が四国大学文学部日本語教員養成課程の理念を示すとともに、学生が目指すべき方向を示す教材として開発できている。	5	「日本語教育学概論」のサブテキストとして作成した教材が四国大学文学部日本語教員養成課程の理念を示すとともに、学生が目指すべき方向を示す教材として開発できている。							5	「事業実施項目」の七つ目については、昨年度の段階では、まだサブテキストの概観を提示されただけであり、これが学生が目指すべき方向を示す教材たりうるかどうかの判断が難しかったが、今年度に提出されたサブテキスト試作版は、四国大学文学部日本語教員養成課程の理念が明示されており、学生が目指すべき方向が分かりやすく具体的に示された教材になっていると思われた。あとは、評価委員会において西條結人委員からも指摘があったように、全体を通した整合性の確保（文言や表記の統一等）が必要となるところであろう。（例：「分かる」と「わかる」、「身に付ける」と「身につける」、「～時」と「～とき」、「～中」と「～なか」の統一など。）		
コメント、ご意見等					コメント、ご意見等		コメント、ご意見等		コメント、ご意見等					
5 非常に優れている。（計画の内容をすべて達成し、成果が認められる） 4 優れている。（達成状況が9割以上） 3 妥当である。（達成状況が7割以上） 2 やや不十分である。（達成状況5割以上～7割未満） 1 不十分である。（達成状況が5割未満）					今年度に限らず、この開発事業全体を通して、常にミクロな視点での検討とマクロな視点での検討がバランスよくなされており、どの委員会においても、問題の整理・解決・見直しが適切になされ、成果が着実に積み上げられていると感じました。本開発事業は今年度で終了ですが、評価委員会において元木佳江委員が何度も強調されていたように、四国大学の日本語教員養成課程はまだ始まったばかりであり、今後も引き続き、よりよいカリキュラム、シラバス、教材開発を目指して、関係者間で議論を重ねられるのだと思います。これからも、四国大学の強みを生かした日本語教育人材育成に大いに期待しております。		日本を巡る国際情勢は大きく変化しており、今後日本では、技能実習生や労働者、留学生など、多くの外国からの人々が生活者として共に日常生活を送ることとなる。特にこれまで一定の高度な技術を持った人を在任させていたが、これからは建設や製造業、農業など幅広い業種での就業が認められる。このことから地方の在住外国人人数が増加し、これまで大都市部に集中してきた日本語教師が地方においても必要となり、さらには特定技能では家族帯同が認められることから、外国人児童生徒の学校での日本語教育が重要となってくる。特に受験を控えた児童生徒への対策は重要な課題である。これからの日本語教師は、多様性や様々な変化の中で、グローバルな視点を持って未知の世界にチャレンジしていくことが求められる。そのためには日本語教員としての知識や技能はもとより、常に自ら研修し、成長していく姿勢が強く求められる。四国大学日本語教員養成課程は、まさに徳島県の日本語教育の中核として、これからの多くの課題を克服し、豊かな多文化共生社会の実現に資する人材を育成するものと期待しています。							

6.5 事業全体の成果と課題

事業全体の成果としては次のような点が挙げられる。

まず、第一に、カリキュラム開発の成果として、2020年4月に文学部日本語教員養成課程の創設に向けて、文化審議会国語分科会（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』を基盤とした日本語教員養成課程カリキュラム（主専攻45単位以上）を完成させた。このカリキュラムは、文学部3学科の特色を生かした編成となっており、これからの社会に求められる日本語教育人材を養成するための工夫が組み込まれている。

到達度自己評価アンケートを作成、実施による、カリキュラムの妥当性を検証するための方法を検討できたことも大きな成果として挙げられる。このアンケート結果は、教育内容の検討、改善にも有効である。

第二に、教育内容の検討が十分に行われたことが挙げられる。必須の教育内容（50項目）を日本語教員養成課程の必修科目に網羅し、シラバスの内容、教科書選定と議論を深め、効果的かつ実効性のある内容としてまとめることができた。

第三に、教材開発の成果として「日本語教育学概論」のサブテキスト『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』を完成させた。同書は、日本語教育の基礎を身につけるための内容を概観できるものであり、四国大学文学部日本語教員養成課程の理念と目指すべき方向性を明文化することができた。『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』は冊子版とPDF版を作成し、今後「日本語教育学概論」でサブテキストとして使用するとともに、関係機関、在学生等に配布する予定としている。

また、広報活動としてパンフレットを作成し、四国大学文学部日本語教員養成課程の開設を広く学内外に紹介した。同パンフレットは冊子版とPDF版を作成し、関係機関や受験生、在学生、教員等に配布するとともに、大学ウェブサイトのトップページにある「PICK UP CONTENTS」に掲載し、閲覧、ダウンロードできるようにしている。

多くの成果が認められる一方で、事業全体としては、事業終了内に完成年度を迎えられていないという背景もあり、いくつかの課題が挙げられる。

まず、2023年度（令和5年度）に開講する日本語教員養成課程科目「日本語教育実践」については、教育実習の具体的な内容について検討を続ける必要がある。すでに開講されている科目についても、科目担当教員や受講学生による

フィードバック等により引き続き検証が必要である。

第二に、教材の選定と開発について、2022年度（令和4年度）に開講する「日本語教育方法論」「日本語教授法」「異文化間教育論」の言語と教育に関する科目における成果と課題を踏まえた上で、より詳細に教育内容（シラバス）を検討する必要があるため、テキスト選定についても事業終了以降も検証を行っていく必要がある。

『日本語教員養成課程ガイドブック—四国大学から世界へ—』の「6.日本語教師を取り巻く環境の変化」については、今後の日本語教師の国家資格化、国家試験の概要等、事業終了時点以降で状況が変化していくことが想定されるため、テキスト内容の改訂も含めて検討が必要である。

四国大学の日本語教員養成課程はまだ始まったばかりで、これからも多くの課題に直面すると思われるが、今後も課程の成熟と定着に向けた取り組みを続けていく。

添付資料一覧

1. 事業の概要

四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会設置要綱

四国大学日本語教員養成課程評価委員会設置要綱

四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会小委員会内規

3. 教育内容の検討

「四国大学日本語教員養成課程（45単位以上）」カリキュラム

日本語教員養成課程必修科目（17科目）カリキュラムマップ

「言語と教育」科目における「実践力」の育成

日本語教育実践

到達度自己評価アンケート項目

到達度自己評価アンケート項目と日本語教員養成科目の関連

日本語教員養成課程科目シラバス（令和3年度作成）

5. 養成課程の実施

日本語教員養成課程科目別履修学生人数の推移（令和2年度～令和3年度）

令和3年度開講科目成績

令和2年度後期「日本語教育学概論」 到達度自己評価アンケート集計結果

令和3年度到達度自己評価アンケート（日本語教育学概論）

令和3年度到達度自己評価アンケート（日本語音声学・音韻論）

6. 事業全体の評価

令和2年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業評価点検調書

令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業評価点検調書